

**平成25年度
児童虐待防止に関する県民意識調査
結果報告書**

目 次

I 調査の概要	1
II 結果の概要	3
III 調査の結果	6
1. 基本項目について	6
(1) 性別	6
(2) 年代	6
(3) 居住地(県民局単位)	8
(4) 職業	11
(5) 世帯状況	14
(6) 子育ての経験	17
(7) 子育てに悩んだときの相談先	20
(8) 相談内容	23
2. 児童虐待への意識について	26
(1) 児童虐待への関心	26
(2) 児童虐待だと思ふ内容	30
(3) 児童虐待が起こる理由	33
(4) 児童虐待の通報・相談についての認知度	36
3. 児童虐待の見聞、通報・相談について	61
(1) 身近なところでの児童虐待の有無	61
(2) 児童虐待の状況	64
(3) 児童虐待への対応	67
(4) 何も対応しなかった理由	70
(5) 仮に児童虐待を見たり、聞いたりした場合の対応	74
(6) 児童虐待を通報・相談する場合に不安に思うこと	78
4. オレンジリボンキャンペーンについて	82
(1) オレンジリボンキャンペーンを見たり、聞いたりした媒体	82
(2) 「オレンジリボンはばタン」の認知度	85
5. 施設・里親について	88
(1) 児童養護施設や乳児院に関する認知度	88
(2) 里親(制度)に関する認知度	110
6. 児童虐待防止策について	132
(1) 児童虐待から子どもを守るために必要な行政の取り組み	132
(2) 児童虐待から子どもを守るためにできること	135

I 調査の概要

1.調査目的

児童虐待防止に関する県民の意識や理解が、どの程度浸透しているのかを一地域毎に、年齢(年代)別・性別毎に調査、分析し、今後の相談・通報、支援に係る県の施策のあり方を検討する資料とする。また、分析結果を情報発信し、児童虐待防止の機運の醸成を図る。

2.調査設計

- (1) 調査地域 兵庫県全域
- (2) 調査対象 県内に居住する満20歳以上の男女
- (3) 調査方法 インターネットによるアンケート調査
※株式会社マクロミルのモニタ会員と神戸新聞ミントクラブメール会員に対して、メールを配信、ウェブサイトへ誘導し、アンケート形式で回答を得た。
- (4) 調査時期 平成25年8月29日(木)～9月3日(火)
- (5) サンプル数 計 3,979サンプル
【内訳】 マクロミルモニタ会員(2,631サンプル)
ミントクラブメール会員(1,348サンプル)
- (6) 集計方法 地域ごとの回収数について、県内の母集団構成比を復元するよう重み付け集計(ウェイトバック集計)をした。

県民局	回収サンプル数	サンプル構成比	ウェイトバック値	ウェイトバック後の対象者数=県内人口 ※	補正後構成比
神戸	938	23.6%	1345.33	1,261,918	27.9%
阪神南	377	9.5%	2214.11	834,720	18.4%
阪神北	358	9.0%	1624.01	581,396	12.8%
東播磨	553	13.9%	1037.94	573,979	12.7%
北播磨	368	9.2%	629.24	231,562	5.1%
中播磨	436	11.0%	1064.29	464,029	10.2%
西播磨	361	9.1%	614.91	221,984	4.9%
但馬	204	5.1%	727.66	148,442	3.3%
丹波	141	3.5%	643.45	90,727	2.0%
淡路	243	6.1%	491.61	119,461	2.6%
全県	3979	100.0%	—	4,528,218	100.0%

※ 20歳以上の県内人口(総務省「平成22年国勢調査」)

(7) 地域区分

県民局	該当市町
神戸	神戸市
阪神南	尼崎市、西宮市、芦屋市
阪神北	伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町
東播磨	明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町
北播磨	西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町
中播磨	姫路市、神河町、市川町、福崎町
西播磨	相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、太子町、上郡町、佐用町
但馬	豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町
丹波	篠山市、丹波市
淡路	洲本市、南あわじ市、淡路市



3.報告書の見方

- (1) 報告書内のグラフおよび数表の%表示は、表章単位未満を四捨五入しているため、回答の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 【複数回答】表示の質問は、1調査対象者が2つ以上の選択肢を選んで回答することができる質問であり、この場合の比率は、それぞれの回答数を調査対象者数ベースで割ったものであり、その合計は通常100%を超える。
- (3) 回答選択肢は、図表および文章中において簡略化しているものがある。

Ⅱ 結果の概要

1. 基本項目について

○子育てに悩んだときの相談先は、「配偶者」が7割、一方で「相談しない人」も1割程度。【P.20】

子育てに悩んだときの相談先として、「配偶者」(71.2%)や「配偶者を除く親族(親・兄弟・姉妹など)」(48.5%)といった身内に相談をする人が若い女性を中心に多くなっている。一方で、「誰にも相談したことがない」(13.6%)人は全体の1割程度で、男性に多くみられる。

○相談内容は、「育児やしつけ」と「子どもの心身の発育(発達)」が若い層を中心に多い。【P.23】

相談内容で多いのは「育児やしつけ」(63.8%)や「子どもの心身の発育(発達)」(48.1%)、「成績や進路」(35.3%)など。「育児やしつけ」、「子どもの心身の発育(発達)」は年代の若い層に、「成績や進路」は年代の高い層に多くみられる。

2. 児童虐待への意識について

○児童虐待に“関心がある”人は約8割。【P.26】

児童虐待について、「とても関心がある」(25.6%)と「やや関心がある」(53.8%)をあわせて約8割が“関心がある”(79.4%)と回答。“関心がある”人は神戸(85.2%)に多く、淡路(71.6%)でやや少ない。

○児童虐待を見たり、聞いたりした場合の通報・相談について、“通報義務”や“通報者の秘匿性”などについては知られているが、その“通報先”についてはあまり知られていない。【P.36】

児童虐待の通報・相談に関する内容についての認知度をみると、「通報は間違ってもかまわない」(80.3%)が8割以上と最も高く、次いで、「児童虐待の通報義務」(70.3%)、「通報・相談の匿名性」(69.3%)、「通報者の秘密厳守」(66.5%)なども概ね7割と高くなっている。

一方、「民生委員(児童委員)を通じて行う通報・相談」(55.4%)や「児童虐待防止24時間ホットラインの設置」(54.1%)、「こども家庭センターの名称」(51.5%)についての認知度は半数程度にとどまっている。

3. 児童虐待の見聞、通報・相談について

○児童虐待を見たり、聞いたりしたことがある人は、全体の1割。【P.61】

児童虐待を見たり、聞いたりしたことが「ある」が10.8%、「ない」が89.2%。

○児童虐待は、子どもと保護者の“声”によって気付くことが多い。【P.64】

児童虐待を見たり、聞いたりした時の状況は、「子どもの泣き叫ぶ声がよく聞こえた」(48.5%)と「子どもを長時間どなったり、しかる保護者の声がよく聞こえた」(38.3%)が多くなっている。

○児童虐待への対応は、“特に何もしなかった”が4割以上。

また、児童虐待を実際に見たり、聞いたりした人とそうでない人とで、対応に違いあり。

【P.67・P.70】

実際に児童虐待を見たり、聞いたりした時の対応は「特に何もしなかった」(44.7%)が最も多く、その理由として「児童虐待かどうかははっきり分からなかった」(58.3%)が多い。対応した具体的な内容は、「近隣・知人に相談した」(21.9%)、「その子どもに声をかけた」(21.0%)、「その子どもの保護者に声をかけた」(11.1%)など、周囲や当事者に声をかけて対応する人が多くなっている。一方、児童虐待を見たり、聞いたりしたことがない人は「市町の相談窓口に通報・相談する」(41.2%)、「こども家庭センターに通報・相談する」(39.6%)、「警察に連絡(相談)する」(35.1%)など、行政・関係機関へ相談する人が多い。

○児童虐待を通報・相談する場合、“すぐに事態が収束しないこと”や“相手との関係に影響が及ぶこと”を不安視する人が多い。【P.78】

児童虐待を通報・相談する場合に不安に思うこととして、「すぐに対応してもらえるのか」(52.7%)、「保護者が通報・相談に腹を立てて、児童虐待が一層激しくなるのではないか」(50.4%)といった児童虐待がすぐには収束しないことへの不安や、「通報・相談したことが、相手の家族に知られてしまうのではないか」(46.9%)、「相手の家族との関係がこじれる(または恨まれる)のではないか」(42.8%)、「児童虐待でなかった場合、自分の責任を追及されるのではないか」(38.8%)といった相手との関係に影響が及ぶことへの不安が多くなっている。

4. オレンジリボンキャンペーンについて

○オレンジリボンキャンペーンを“見たり、聞いたりしたことがある”人が約4割。

「新聞」や「テレビ」が主な情報源。【P.82】

オレンジリボンキャンペーンを見たり、聞いたりしたことがある媒体は、「新聞」(22.3%)や「テレビ」(21.4%)、「ポスター・チラシ」(11.0%)、「インターネット」(8.4%)などの順になっている。

○オレンジリボンのはばタンの認知度は23.0%。【P.85】

オレンジリボンのはばタンについて、「シンボルマークであることを知っている」(7.6%)と「シンボルマークであることは知らないが、見たことがある」(15.4%)をあわせて23.0%が“認知している”と回答。特に男女とも60代以上の“認知度”が30.9%と高い。

5. 施設・里親について

- 「タイガーマスク運動」など、支援活動の認知が広がる一方で、児童養護施設への“入所者数”や“入所理由”といった実態は、あまり知られていない。【P.88】

「児童養護施設」(81.5%)についての認知度は全体で8割以上と高い。次いで「タイガーマスク運動などの支援活動」(58.7%)もニュース等で取り上げられたこともあり、約6割と高くなっている。一方で、児童養護施設の「子どもの入所者数」(33.2%)や「入所理由の約半数が児童虐待」(33.9%)であることの認知度は3割程度と低くなっている。

- 「里親制度」があることは知っているが、里親への“支援策”や“必要性”などについては、あまり知られていない。【P.110】

「里親制度」(83.2%)の存在そのものの“認知度”は8割以上と高くなっているが、「委託手続きの仕方」(24.8%)、「子育て支援サービスが利用できる」(31.4%)、「委託費の支給」(33.0%)といった制度の中身や里親の「登録者数拡大の必要性」(33.0%)については、認知度が3割程度と低くなっている。

6. 児童虐待防止策について

- 児童虐待防止策として、行政には“相談窓口や支援策の周知徹底”、自分たちでできることは“通報・相談をすること”と“日頃のあいさつ”。【P.132・P.135】

児童虐待から子どもを守るために行政が取り組むべき課題として、「市町やこども家庭センターなど、児童虐待の相談窓口の周知」(74.1%)や「子育てに悩む保護者への子育て支援施策の充実と周知」(62.1%)が多くあげられている。また、自分たちで出来ることとして、その場の対応として「児童虐待を受けたと思われる子どもを見たり、聞いたりしたら、市町やこども家庭センターに通報・相談する」(66.5%)ことや、日常の対応として「近隣の子どもや保護者にあいさつをするなど、地域の子どもの様子を気をつける」(65.5%)ことが多くなっている。

Ⅲ 調査の結果

1.基本項目について

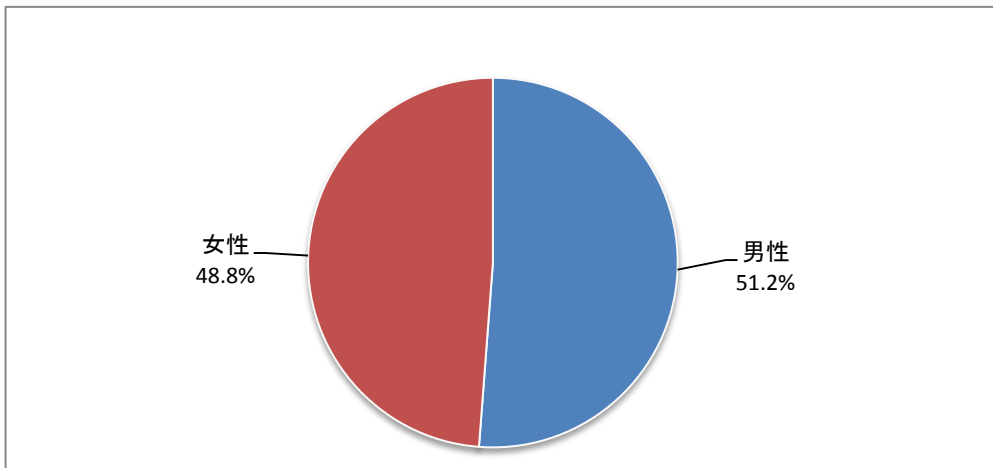
(1)性別

問1 性別を教えてください。

1. 男性 2. 女性

【全 県】

・アンケート回答者の性別をみると、「男性」が51.2%、「女性」が48.8%で、ほぼ同じ割合となっている。



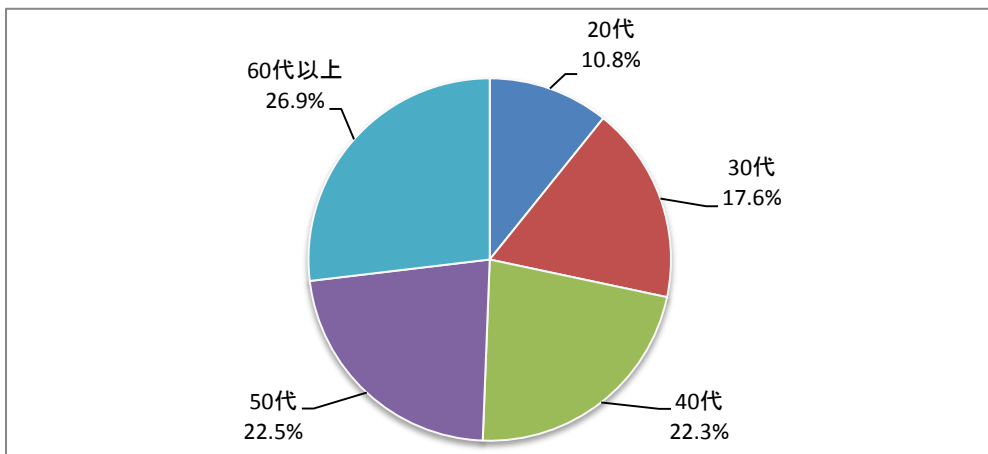
(2)年代

問2 年齢を教えてください。

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代以上

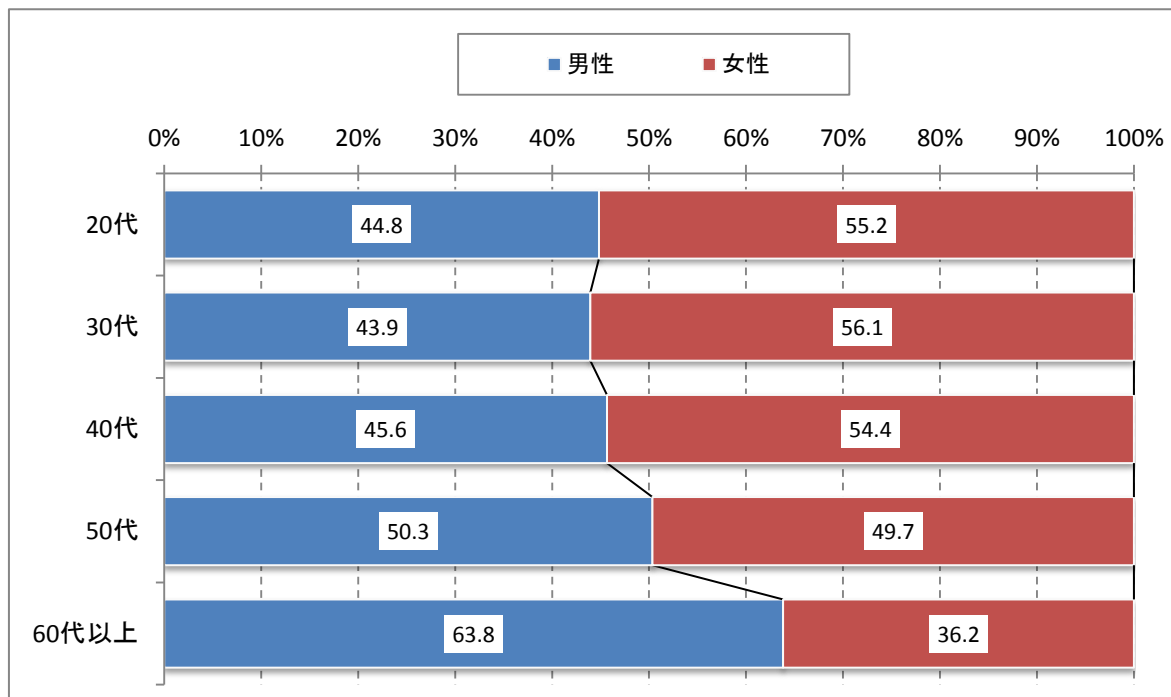
【全 県】

・アンケート回答者の年代をみると、「60代以上」が26.9%と最も多く、以下、「50代」(22.5%)、「40代」(22.3%)、「30代」(17.6%)、「20代」(10.8%)の順となっている。



【性別の年代別】

・“40代以下”はやや女性の割合が多く、「50代」は男女ほぼ同じ割合、「60代以上」は男性(63.8%)の割合が多くなっている。



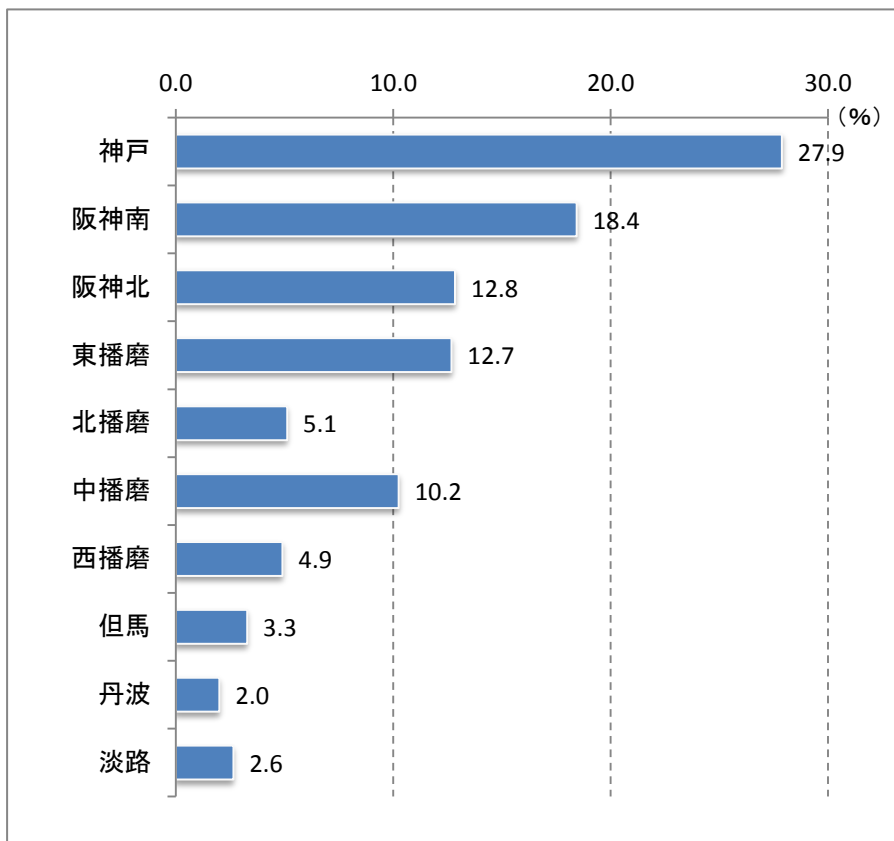
(3) 居住地(県民局単位)

問3 住んでいる地域を教えてください。

1. 神戸地域 (神戸市)
2. 阪神南地域 (尼崎市、西宮市、芦屋市)
3. 阪神北地域 (伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町)
4. 東播磨地域 (明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町)
5. 北播磨地域 (西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町)
6. 中播磨地域 (姫路市、神河町、市川町、福崎町)
7. 西播磨地域 (相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、太子町、上郡町、佐用町)
8. 但馬地域 (豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町)
9. 丹波地域 (篠山市、丹波市)
10. 淡路地域 (洲本市、南あわじ市、淡路市)

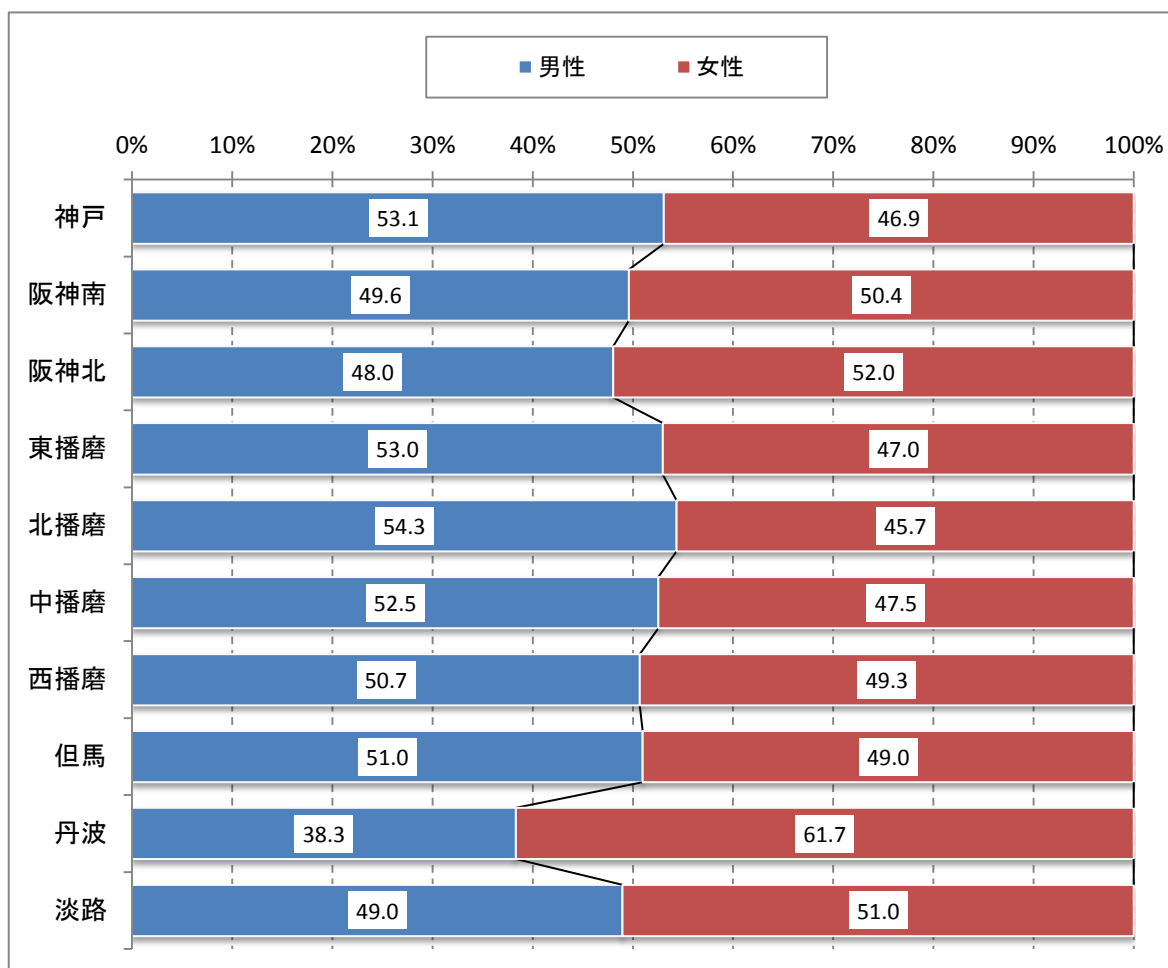
【全 県】

・居住地は、「神戸」が27.9%と最も多く、以下、「阪神南」(18.4%)、「阪神北」(12.8%)、「東播磨」(12.7%)、「中播磨」(10.2%)、「北播磨」(5.1%)、「西播磨」(4.9%)、「但馬」(3.3%)、「淡路」(2.6%)、「丹波」(2.0%)の順となっている。



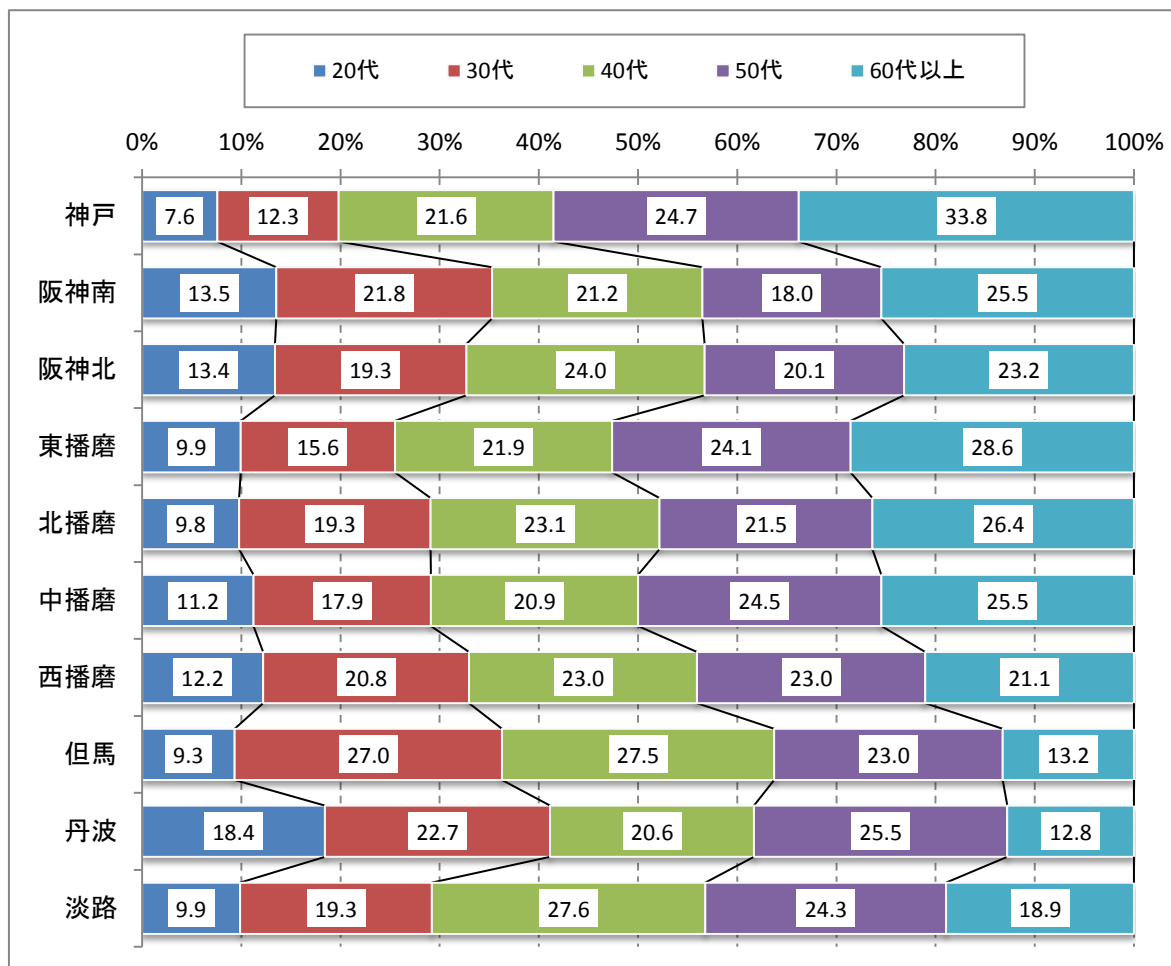
【性別の地域別】

・概ねどの地域も男女半々の割合となっているが、「丹波」では女性が61.7%と他の地域に比べて多くなっている。



【年代の地域別】

- ・「神戸」は50代以上があわせて58.5%と6割近くを占めており、他の地域に比べて多くなっている。
- ・一方、「但馬」や「丹波」では40代以下があわせて6割以上となっており、比較的多くなっている。



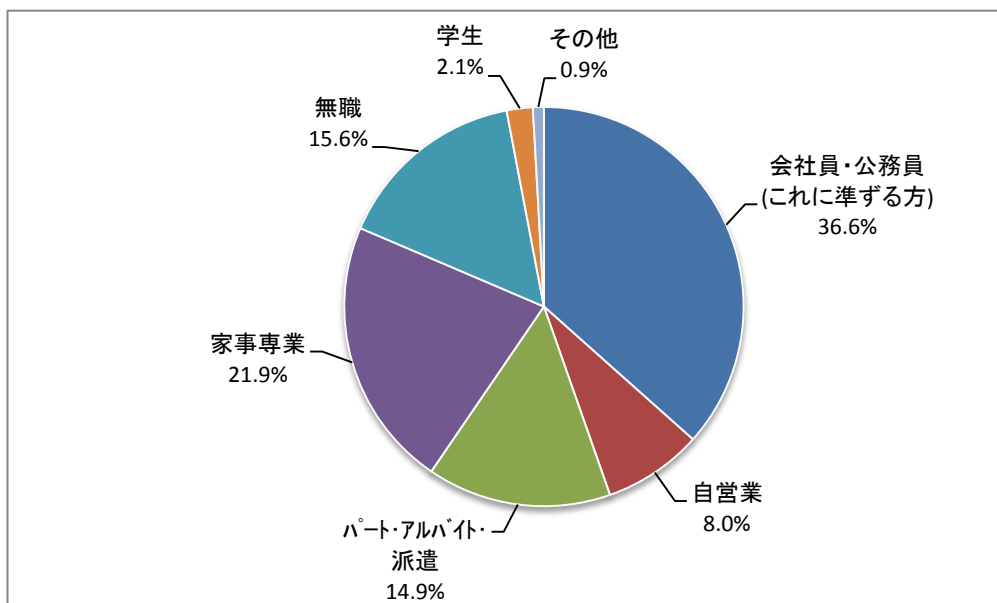
(4)職業

問4 職業を教えてください。

1. 会社員・公務員(これに準じる方)
2. 自営業
3. パート・アルバイト・派遣
4. 家事専業
5. 無職
6. 学生
7. その他

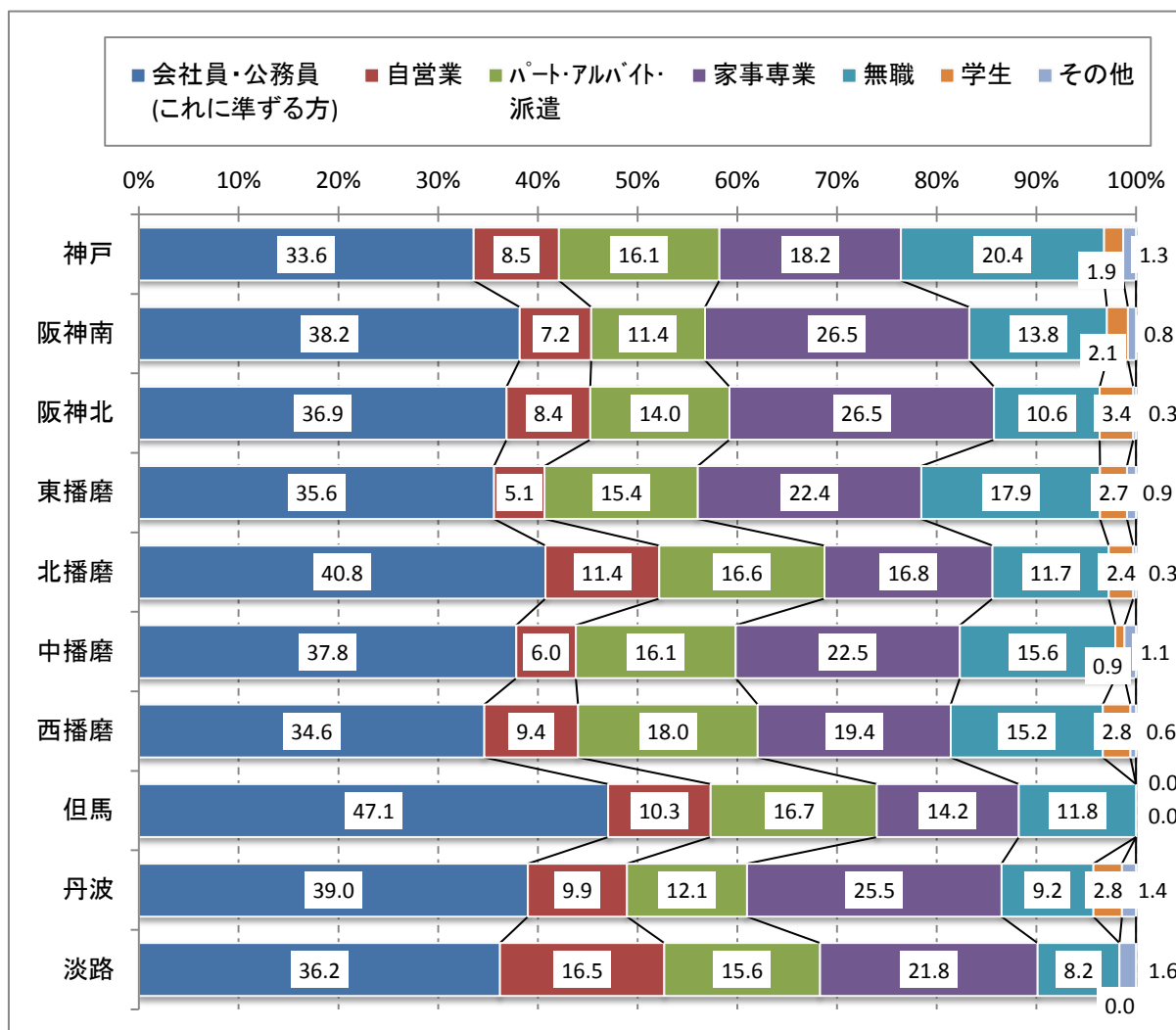
【全 県】

・職業は、「会社員・公務員(これに準ずる方)」が36.6%と最も多く、以下、「家事専業」(21.9%)、「無職」(15.6%)、「パート・アルバイト・派遣」(14.9%)、「自営業」(8.0%)、「学生」(2.1%)、「その他」(0.9%)の順に多くなっている。



【地域別】

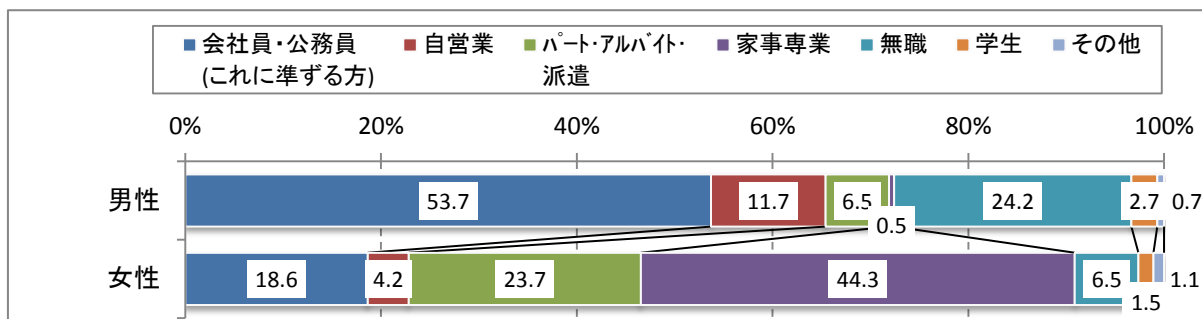
・但馬で「会社員・公務員(これに準ずる方)」が47.1%と約半数を占めており、他の地域に比べて多くなっている。



【性別】

・男性は「会社員・公務員(これに準ずる方)」が53.7%と半数以上を占めて最も多く、次いで「無職」(24.2%)、「自営業」(11.7%)が続いている。

・一方、女性は「家事専業」が44.3%で最も多く、次いで「パート・アルバイト・派遣」(23.7%)、「会社員・公務員(これに準ずる方)」(18.6%)が多くなっている。

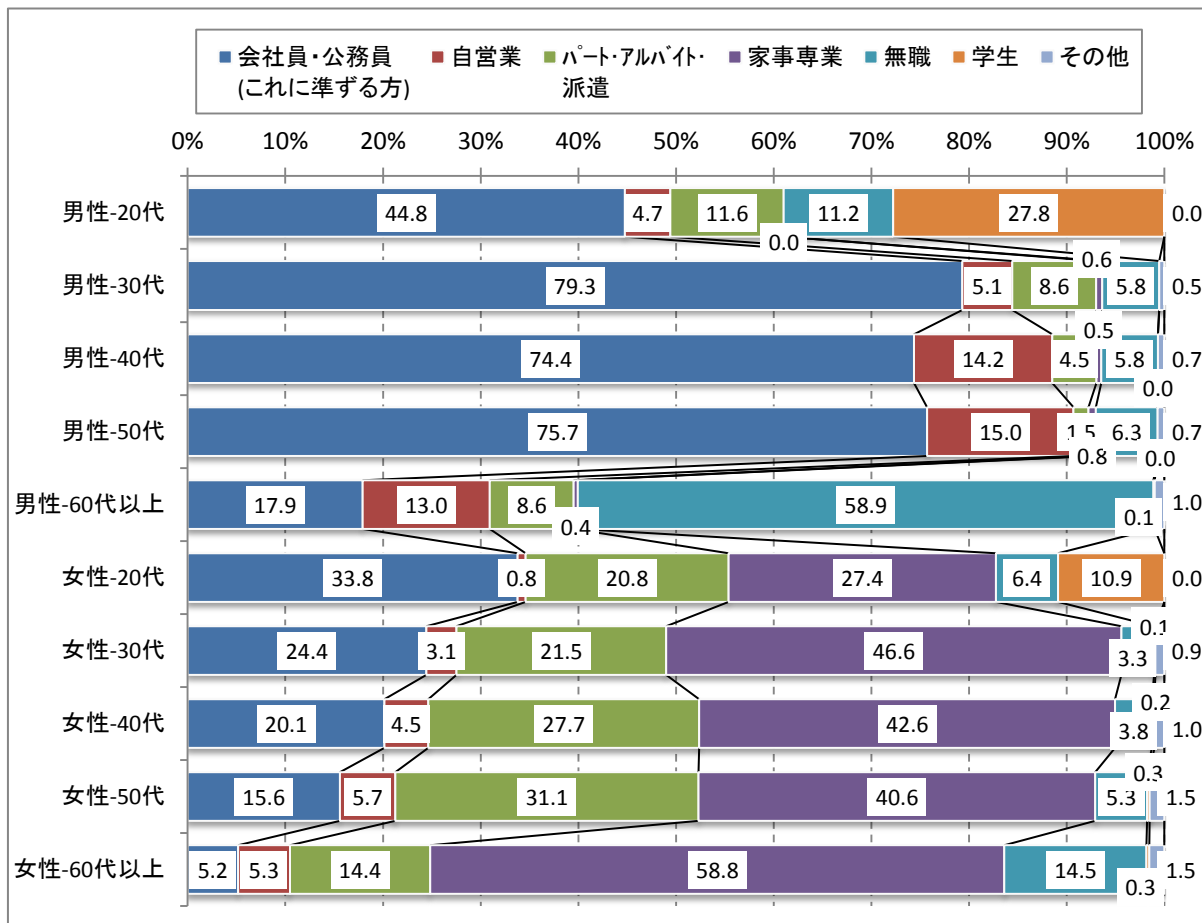


【性・年代別】

・男性30～50代は「会社員・公務員(これに準ずる方)」が7～8割を占めて最も多く、男性60代以上は「無職」(58.9%)が6割近くを占めて最も多くなっている。

・一方、女性30代以上は「家事専業」が4割以上と最も多く、特に女性60代以上では「家事専業」(58.8%)が約6割を占めている。

・男女とも20代は「会社員・公務員(これに準ずる方)」が最も多く、男性20代は「学生」(27.8%)も比較的多くなっている。



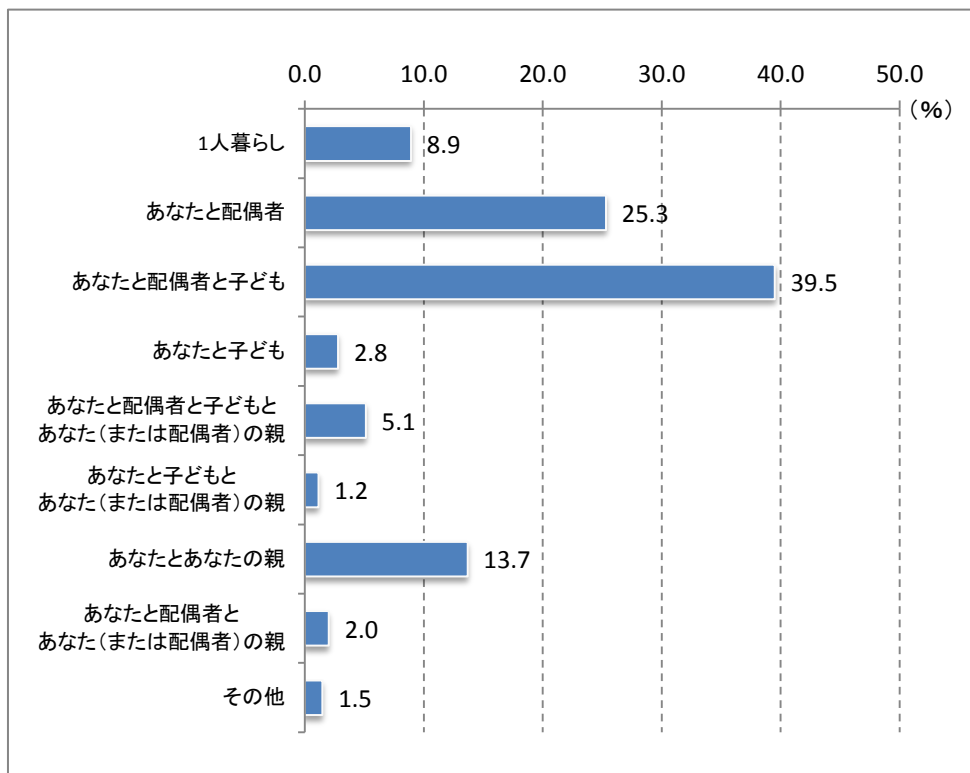
(5) 世帯状況

問5 世帯状況は、次のどれにあたりますか？

1. 1人暮らし
2. あなたと配偶者
3. あなたと配偶者と子ども
4. あなたと子ども
5. あなたと配偶者と子どもとあなた(または配偶者)の親
6. あなたと子どもとあなた(または配偶者)の親
7. あなたとあなたの親
8. あなたと配偶者とあなた(または配偶者)の親
9. その他

【全 県】

・世帯状況は、「あなたと配偶者と子ども」のいわゆる核家族世帯が39.5%と最も多く、次いで「あなたと配偶者」の夫婦のみの世帯が25.3%、「あなたとあなたの親」が13.7%、「1人暮らし」が8.9%で続いている。



【地域別】

- ・どの地域も「あなたと配偶者と子ども」の核家族世帯が最も多くなっている。
- ・但馬は「あなたと配偶者と子どもとあなた（または配偶者）の親」（17.6％）の三世代世帯、丹波では「あなたとあなたの親」（21.3％）も比較的多くなっている。

(%)

	1人暮らし	あなたと配偶者	あなたと配偶者と子ども	あなたと子ども	あなたと配偶者と子どもとあなた（または配偶者）の親	あなたと子どもとあなた（または配偶者）の親	あなたとあなたの親	あなたと配偶者とあなた（または配偶者）の親	その他
神戸	8.5	29.0	40.9	3.6	3.1	0.9	11.0	1.6	1.4
阪神南	13.5	25.5	39.5	2.7	3.2	1.3	12.5	1.1	0.8
阪神北	9.2	22.9	43.6	2.2	3.1	0.8	14.5	1.4	2.2
東播磨	6.5	26.4	41.2	2.9	4.3	0.7	14.6	2.2	1.1
北播磨	6.0	20.4	35.1	3.0	10.1	2.2	17.9	3.8	1.6
中播磨	8.9	24.5	37.8	3.0	6.9	0.9	14.0	2.5	1.4
西播磨	7.8	21.1	36.6	1.7	9.1	1.9	17.2	2.2	2.5
但馬	5.9	20.1	27.9	2.5	17.6	2.5	17.2	3.9	2.5
丹波	6.4	18.4	33.3	0.0	9.9	2.1	21.3	5.7	2.8
淡路	4.5	23.9	35.4	0.8	11.5	2.1	16.0	4.1	1.6

【性別／性・年代別】

- ・性別ではあまり大きな差はみられない。
- ・性・年代別でみると、男女とも30～50代は「あなたと配偶者と子ども」の核家族世帯、60代以上は「あなたと配偶者」の夫婦のみの世帯、20代は「あなたとあなたの親」がそれぞれ最も多くなっている。

(%)

	1人暮らし	あなたと配偶者	あなたと配偶者と子ども	あなたと子ども	あなたと配偶者と子どもと親	あなたと子どもと配偶者（の親	あなたとあなたの親	あなたと配偶者と（または配偶者）の親	その他
男性	9.6	27.3	37.9	0.8	5.8	1.1	14.2	2.1	1.2
女性	8.2	23.2	41.2	4.9	4.5	1.2	13.1	1.9	1.8
男性-20代	21.8	6.5	8.7	0.0	2.3	1.2	57.1	0.0	2.5
男性-30代	15.5	12.5	41.1	0.3	3.4	1.1	23.0	1.5	1.5
男性-40代	8.0	13.0	51.1	0.5	7.4	1.4	17.0	1.0	0.5
男性-50代	9.5	18.0	48.1	0.9	11.3	1.5	8.0	2.6	0.1
男性-60代以上	4.6	54.6	30.1	1.3	3.1	0.8	0.6	3.2	1.7
女性-20代	13.1	13.1	25.1	0.4	0.9	1.3	40.0	1.7	4.5
女性-30代	5.7	15.2	51.6	3.2	2.7	0.3	20.5	0.1	0.5
女性-40代	5.0	18.0	54.6	2.6	5.8	1.9	10.1	1.0	0.9
女性-50代	5.8	23.9	44.7	7.4	8.2	1.3	4.2	4.1	0.5
女性-60代以上	14.3	43.1	19.6	9.4	2.5	0.9	3.4	2.5	4.2

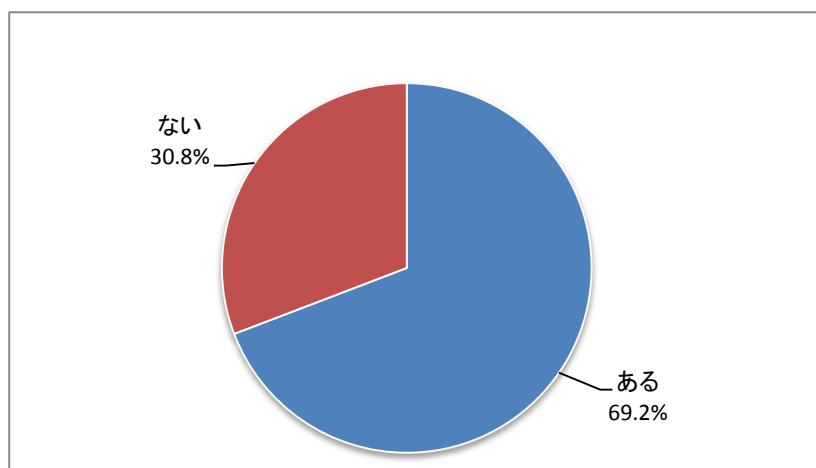
(6)子育ての経験

問6 子育ての経験(子育て中を含む。)がありますか？

1. ある → 問7へ 2. ない → 問9へ

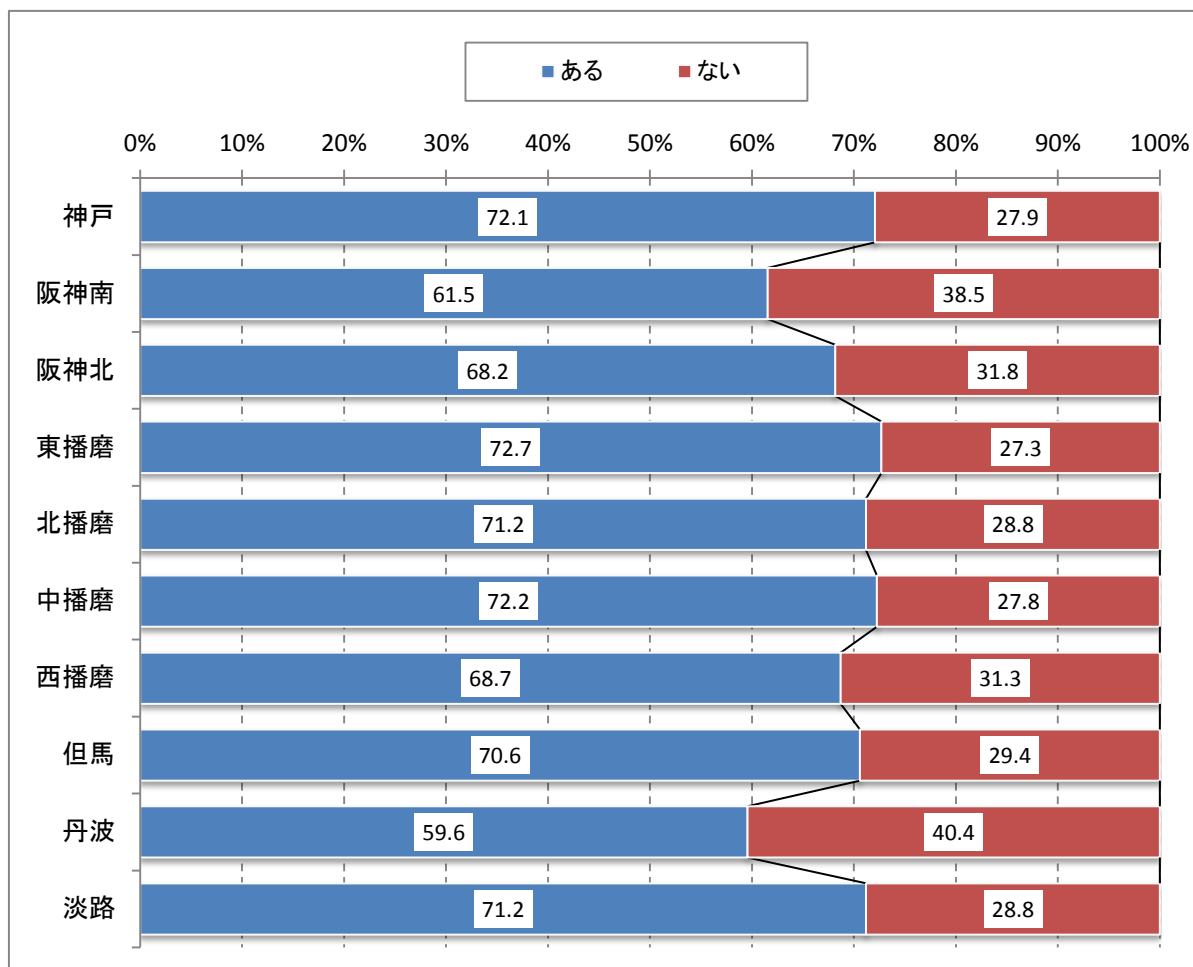
【全 県】

・子育て中の方も含め、子育て経験の「ある」人(69.2%)が約7割、子育て経験の「ない」人(30.8%)が3割であった。



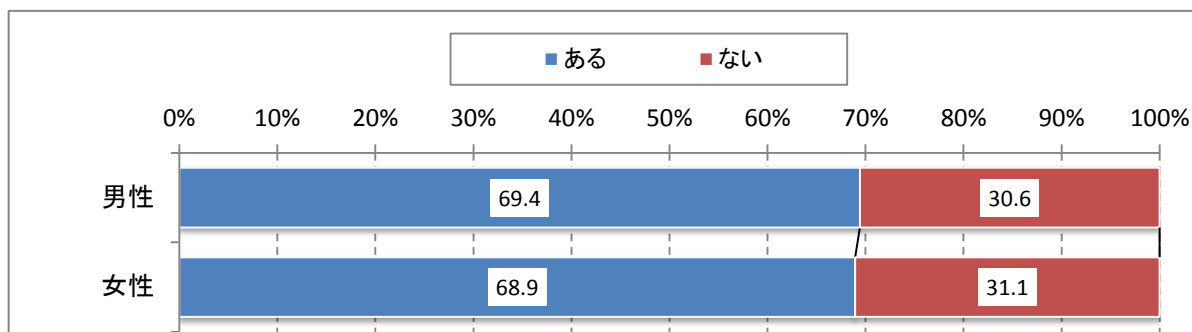
【地域別】

・概ねどの地域も子育て経験の「ある」人が7割前後となっているが、阪神南と丹波では6割前後となっており、他の地域に比べて少なくなっている。



【性別】

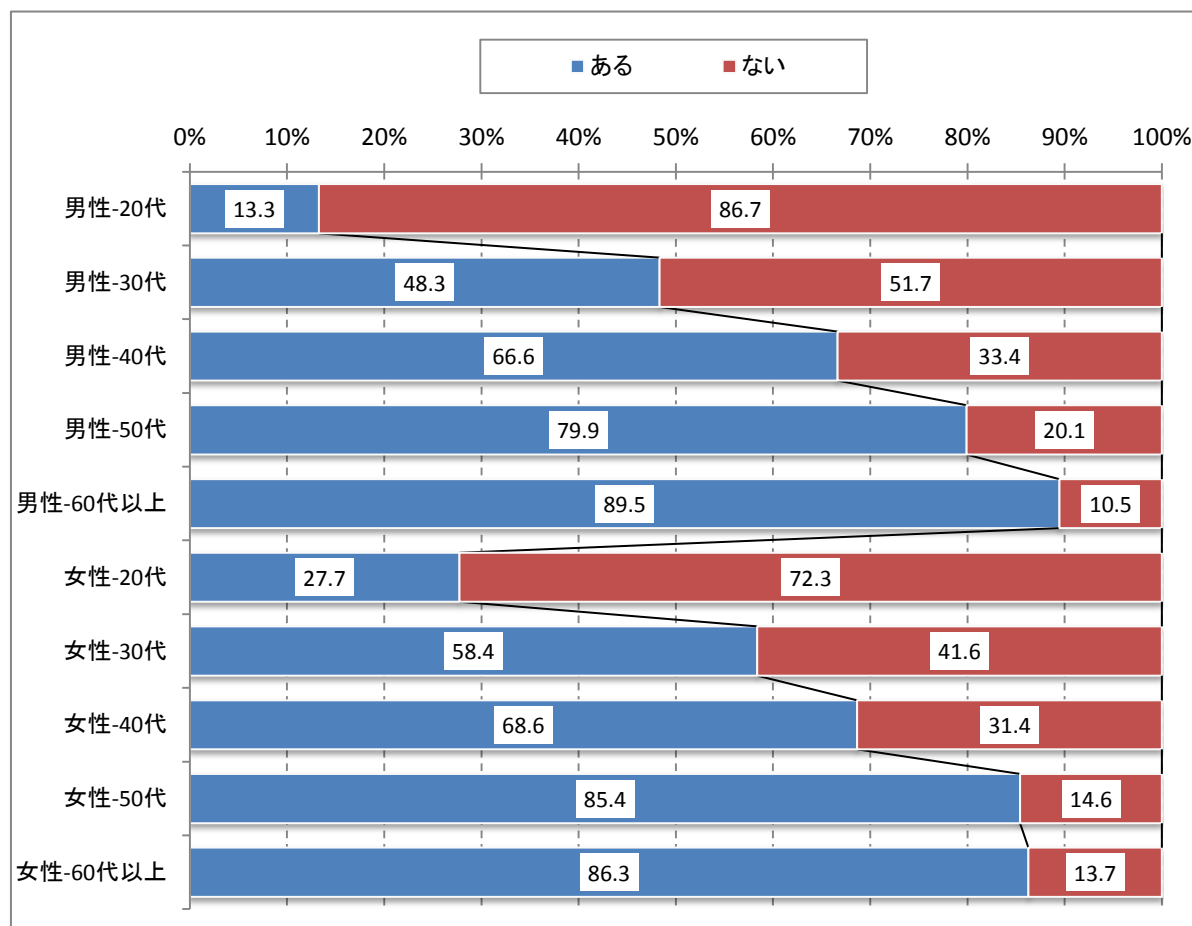
・男女とも子育て経験の「ある」人が約7割を占めており、男女間で大きな差はみられない。



【性・年代別】

・年代の高い層ほど子育て経験の「ある」人が多く、男女とも50代以上では概ね8割以上が「ある」と回答している。

・50代以下は男性よりも女性の方が子育て経験の「ある」人が多くなっている。



(7)子育てに悩んだ時の相談先

※ 問6で「1. ある」を選択した人のみ回答

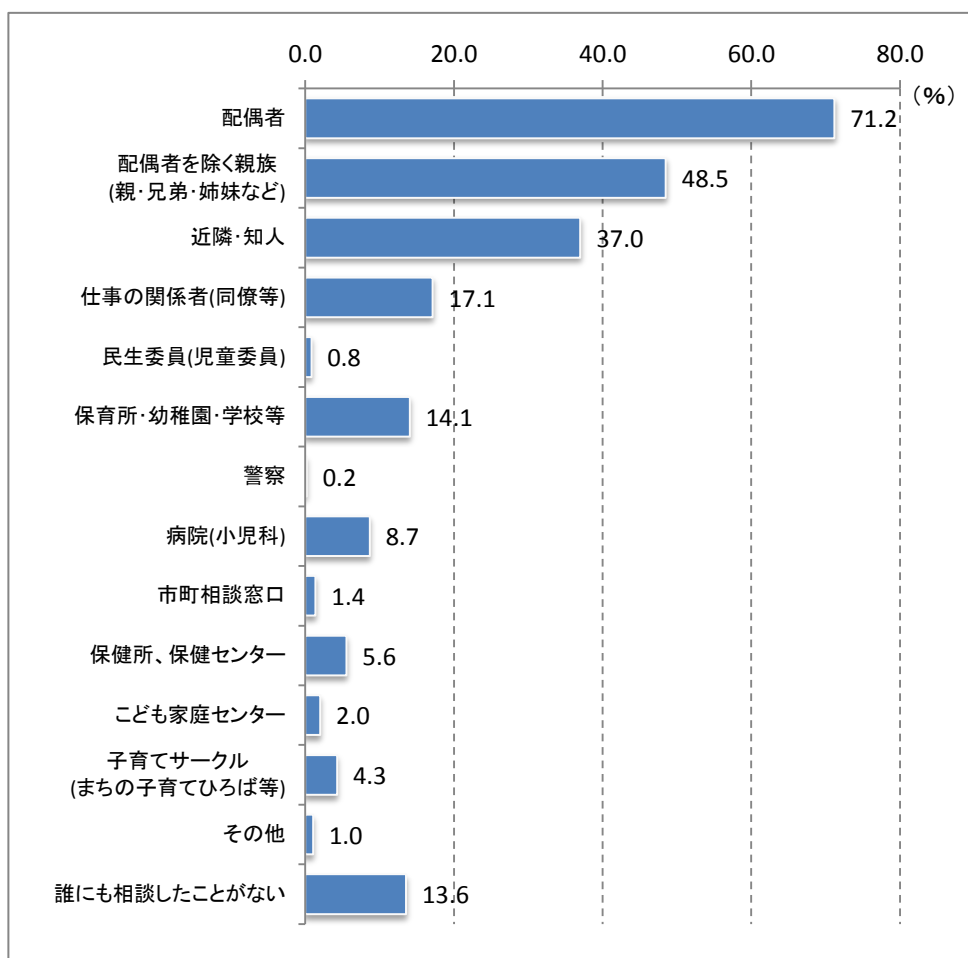
問7 子育てに悩んだとき、誰かに相談したことがありますか？

次の中から相談したことがある人(機関)をすべて選んでください。【複数回答可】

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 配偶者 | 8. 病院(小児科) |
| 2. 配偶者を除く親族(親・兄弟・姉妹など) | 9. 市町相談窓口 |
| 3. 近隣・知人 | 10. 保健所、保健センター |
| 4. 仕事の関係者(同僚等) | 11. こども家庭センター |
| 5. 民生委員(児童委員) | 12. 子育てサークル(まちの子育てひろば等) |
| 6. 保育所・幼稚園・学校等 | 13. その他 |
| 7. 警察 | 14. 誰にも相談したことがない |

【全 県】

- ・子育てに悩んだ時の相談先は、「配偶者」が71.2%と最も多く、「配偶者を除く親族(親・兄弟・姉妹など)」が48.5%で続いており、身内への相談が多くみられる。
- ・以下、「近隣・知人」(37.0%)、「仕事の関係者(同僚等)」(17.1%)といった友人・知人関係が続き、「保育所・幼稚園・学校等」(14.1%)、「病院(小児科)」(8.7%)、「保健所・保健センター」(5.6%)などの行政・関係機関は下位にあげられている。
- ・また、「誰にも相談したことがない」は13.6%となっている。



【地域別】

- ・但馬は「保育所・幼稚園・学校等」(21.5%)、丹波では「子育てサークル(まちの子育てひろば等)」(15.5%)が他の地域よりも多くなっている。
- ・阪神北では「誰にも相談したことがない」が19.7%と約2割を占めており、比較的多くなっている。

(複数回答・%)

	配偶者	(配偶者を除く親族など)	近隣・知人	仕事の関係者(同僚等)	民生委員(児童委員)	保育所・幼稚園・学校等	警察	病院(小児科)	市町相談窓口	保健所、保健センター	こども家庭センター
神戸	74.6	42.9	38.2	18.3	0.7	13.6	0.3	10.1	1.0	3.8	2.5
阪神南	67.7	52.2	39.2	18.5	0.9	16.8	0.0	5.6	0.9	6.9	0.9
阪神北	65.6	48.0	38.5	14.8	0.4	10.7	0.0	8.2	2.0	4.9	0.8
東播磨	73.1	51.5	35.1	13.2	0.7	13.7	0.2	6.7	1.5	3.5	1.2
北播磨	72.9	50.8	34.4	18.3	1.5	13.7	0.0	9.5	1.9	6.9	2.3
中播磨	68.9	50.2	31.7	18.4	1.0	12.7	0.3	10.5	1.9	7.6	2.9
西播磨	72.2	50.8	34.7	17.7	1.2	14.5	0.8	10.1	1.6	9.3	1.2
但馬	70.8	51.4	38.2	19.4	2.1	21.5	0.0	9.7	2.1	4.9	5.6
丹波	73.8	54.8	42.9	13.1	1.2	17.9	1.2	10.7	1.2	8.3	7.1
淡路	74.6	51.4	38.2	17.9	0.0	13.3	0.0	10.4	0.6	11.0	2.9

(複数回答・%)

	(子育てサークルひろば等)	その他	誰にも相談したことがない	不明
神戸	3.1	1.0	12.4	0.9
阪神南	3.9	1.7	12.9	0.0
阪神北	3.7	1.2	19.7	0.0
東播磨	3.5	0.2	11.7	0.5
北播磨	5.7	0.4	10.7	0.0
中播磨	3.5	1.9	14.6	0.3
西播磨	10.1	0.4	14.1	0.0
但馬	4.9	0.0	16.0	0.0
丹波	15.5	0.0	9.5	0.0
淡路	8.1	1.2	10.4	0.0

【性別／性・年代別】

- ・性別ではほぼすべての項目で女性の割合が多くなっており、男性は「誰にも相談したことがない」(19.7%)が女性と比べて多くなっている。
- ・性・年代別で見ると、女性は若い年代層ほど「配偶者」や「配偶者を除く親族(親・兄弟・姉妹など)」が多くなっている。
- ・また、女性40代以下では「保育所・幼稚園・学校等」や「保健所、保健センター」、「子育てサークル(まちの子育てひろば等)」も他の年代に比べて多くなっている。

(複数回答・%)

	配偶者	(配偶者を除く親族(親・兄弟・姉妹など))	近隣・知人	仕事の関係者(同僚等)	民生委員(児童委員)	保育所・幼稚園・学校等	警察	病院(小児科)	市町相談窓口	保健所、保健センター	こども家庭センター
男性	68.4	36.0	18.1	20.3	0.9	7.7	0.3	6.5	0.8	2.6	1.4
女性	74.1	61.7	57.0	13.8	0.8	20.7	0.1	10.9	2.0	8.7	2.7
男性-20代	64.3	31.5	13.9	18.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性-30代	73.8	49.6	17.9	37.2	2.2	8.8	1.2	13.2	1.8	3.5	0.8
男性-40代	78.6	45.5	16.7	26.5	1.1	11.6	0.3	3.8	0.6	1.4	2.4
男性-50代	67.4	35.8	18.9	18.6	1.3	8.2	0.2	7.4	0.7	4.9	2.2
男性-60代以上	63.3	28.7	18.5	14.5	0.2	5.8	0.1	5.9	0.8	1.6	0.6
女性-20代	81.6	85.7	51.5	12.8	0.0	20.3	0.0	12.7	1.4	19.4	2.4
女性-30代	87.3	78.7	66.0	16.0	2.7	27.6	0.0	15.6	3.0	16.5	3.5
女性-40代	78.1	65.9	68.3	18.7	0.5	31.5	0.2	14.9	3.3	11.4	3.5
女性-50代	71.5	58.8	55.4	16.3	0.3	17.0	0.3	8.6	2.1	6.1	3.4
女性-60代以上	62.4	44.6	42.4	5.1	0.5	9.6	0.0	6.1	0.0	1.7	0.6

(複数回答・%)

	(子育てサークルひろば等)	その他	誰にも相談したことがない	不明
男性	0.8	1.0	19.7	0.7
女性	8.0	1.1	7.1	0.0
男性-20代	0.0	0.0	22.9	0.0
男性-30代	0.8	1.6	10.6	0.0
男性-40代	1.9	0.0	12.2	0.4
男性-50代	1.4	2.1	19.7	0.8
男性-60代以上	0.0	0.7	25.0	0.9
女性-20代	11.4	0.0	4.4	0.0
女性-30代	14.8	0.6	0.4	0.0
女性-40代	12.4	1.2	3.5	0.0
女性-50代	5.4	1.8	8.0	0.0
女性-60代以上	1.1	0.8	14.8	0.0

(8) 相談内容

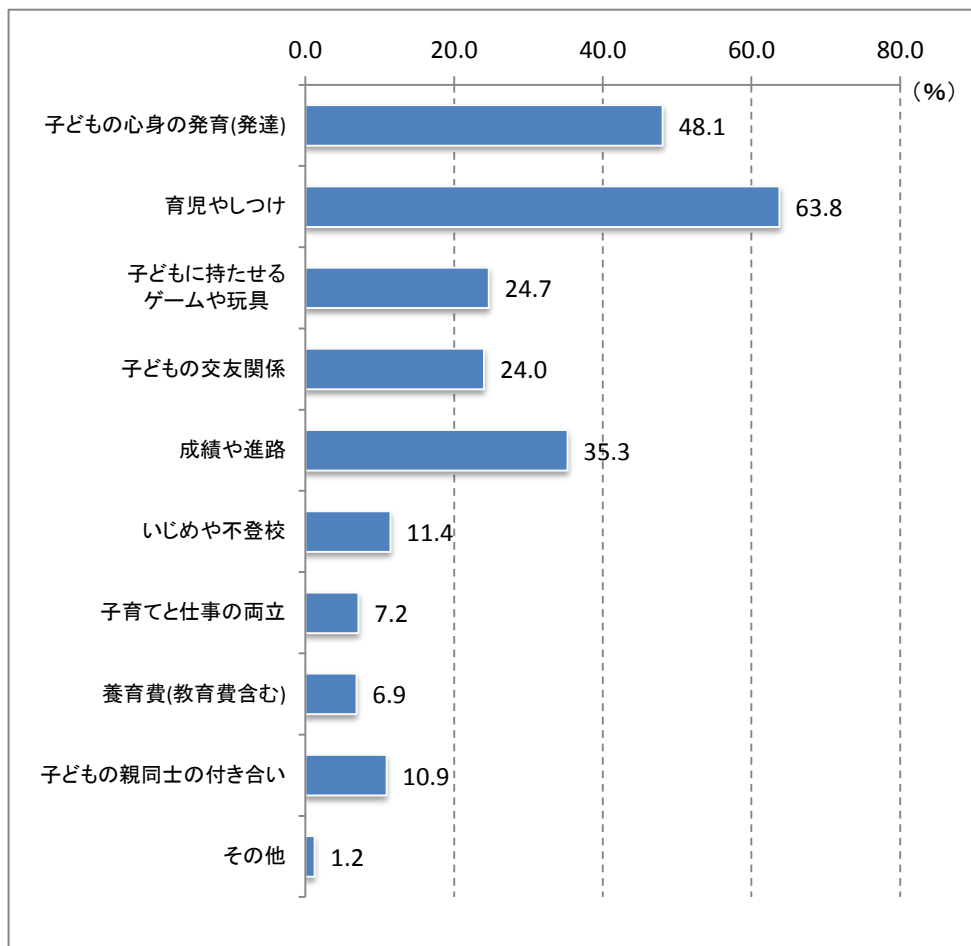
※ 問7で選択肢「1～13」を選択した人のみ回答

問8 相談した内容は何ですか？次の中からあてはまる内容をすべて選んでください。
【複数回答可】

1. 子どもの心身の発育(発達)
2. 育児やしつけ
3. 子どもに持たせるゲームや玩具
4. 子どもの交友関係
5. 成績や進路
6. いじめや不登校
7. 子育てと仕事の両立
8. 養育費(教育費含む)
9. 子どもの親同士の付き合い
10. その他

【全 県】

・相談した内容をみると、「育児やしつけ」が63.8%と最も多く、次いで「子どもの心身の発育(発達)」(48.1%)、「成績や進路」(35.3%)などが続いている。



【地域別】

- ・神戸では「成績や進路」が42.7%となっており、他の地域に比べて多くなっている。
- ・但馬、丹波、淡路などで「子育てと仕事の両立」が比較的多く、丹波では「養育費(教育費含む)」(11.8%)も比較的多くなっている。

(複数回答・%)

	子どもの心身の発育 (発達)	育児やしつけ	子どもに持たせる ゲームや玩具	子どもの交友関係	成績や進路	いじめや不登校	子育てと仕事の両立	養育費(教育費含む)	子どもの親同士の付き合い	その他	不明
神戸	44.4	59.9	23.2	24.9	42.7	14.3	6.1	7.7	10.8	1.2	0.9
阪神南	51.5	64.4	28.2	25.7	26.7	8.9	7.4	5.9	9.9	1.5	0.5
阪神北	51.5	66.3	29.6	21.4	32.1	7.7	5.1	5.6	15.3	0.5	0.5
東播磨	45.6	65.4	22.4	22.7	37.7	11.9	5.9	7.1	9.6	2.0	0.3
北播磨	46.2	65.8	23.1	23.9	32.1	12.4	9.4	8.1	11.1	1.3	0.0
中播磨	50.4	61.2	21.6	22.8	36.9	9.7	7.5	7.1	9.0	0.7	0.7
西播磨	48.8	68.5	22.5	26.3	33.8	12.2	8.5	6.1	11.3	1.9	0.0
但馬	56.2	71.1	27.3	19.8	28.1	15.7	14.0	5.0	11.6	0.0	0.0
丹波	48.7	68.4	31.6	26.3	25.0	7.9	13.2	11.8	10.5	2.6	0.0
淡路	47.1	67.7	20.0	27.1	27.1	11.0	11.0	5.8	12.3	0.6	0.0

【性別／性・年代別】

- ・性別では、女性は「育児やしつけ」(69.2%)や「子どもの心身の発育(発達)」(52.8%)、「子どもの交友関係」(31.1%)、「子どもの親同士の付き合い」(15.4%)が男性よりも10ポイント前後多くなっている。
- ・性・年代別でみると、「子どもの心身の発育(発達)」や「育児やしつけ」は男女とも若い年代層ほど多くなっている。
- ・一方、「成績や進路」は年代の高い層ほど多くなっている。
- ・「子どもに持たせるゲームや玩具」は男女とも30～40代で比較的多くなっている。
- ・女性30～50代では「子どもの交友関係」や「子どもの親同士の付き合い」も比較的多くなっている。

(複数回答・%)

	子どもの心身の発育(発達)	育児やしつけ	子どもに持たせるゲームや玩具	子どもの交友関係	成績や進路	いじめや不登校	子育てと仕事の両立	養育費(教育費含む)	子どもの親同士の付き合い	その他	不明
男性	42.9	57.8	21.5	16.3	36.0	9.0	4.6	7.0	5.9	1.6	0.7
女性	52.8	69.2	27.6	31.1	34.5	13.6	9.4	6.8	15.4	0.9	0.3
男性-20代	78.2	87.2	8.8	7.5	0.0	0.0	0.0	7.3	9.9	0.0	0.0
男性-30代	52.6	78.6	29.7	9.8	11.1	4.0	4.9	7.2	4.4	1.6	0.0
男性-40代	47.1	66.4	32.4	18.7	32.0	8.0	4.3	9.6	9.3	0.5	0.0
男性-50代	39.7	51.2	18.7	18.3	41.5	11.1	2.6	8.5	4.1	2.6	1.1
男性-60代以上	38.2	50.2	15.7	16.1	43.5	10.1	6.2	4.7	5.6	1.7	1.2
女性-20代	70.6	83.1	24.7	9.2	0.9	0.0	13.8	9.3	8.9	1.6	0.0
女性-30代	68.6	79.5	39.6	30.5	17.3	4.9	13.7	7.1	21.2	0.6	0.0
女性-40代	56.7	72.9	35.7	42.4	39.2	16.1	8.8	7.8	22.7	2.3	0.4
女性-50代	49.2	65.9	23.2	35.0	46.3	21.8	7.9	6.7	12.0	0.0	0.0
女性-60代以上	36.1	57.5	14.8	18.7	36.0	10.8	7.6	4.9	8.3	0.4	0.9

2.児童虐待への意識について

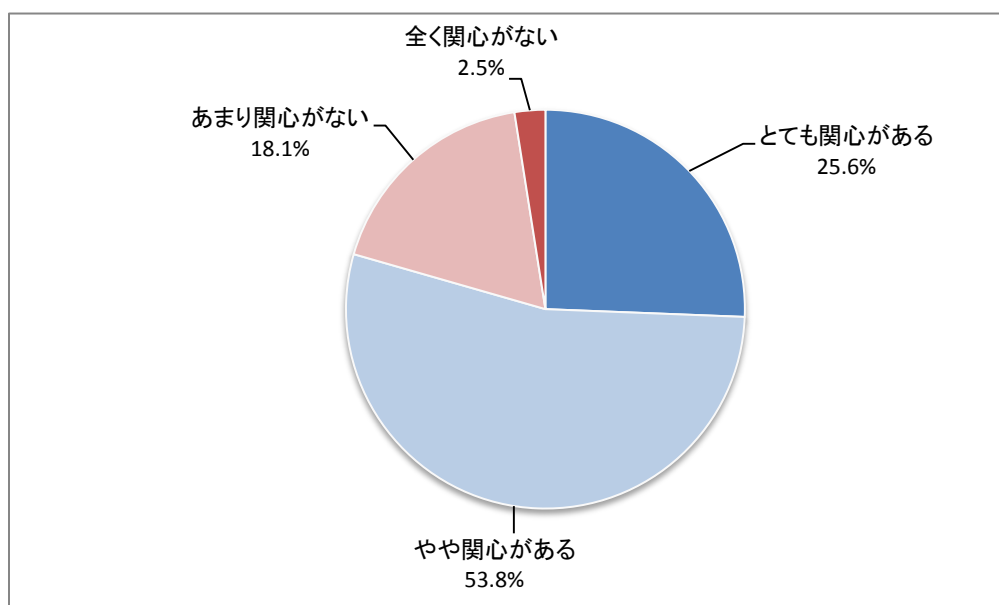
(1)児童虐待への関心

問9 児童虐待について、関心がありますか？

1. とても関心がある 2. やや関心がある 3. あまり関心がない 4. 全く関心がない

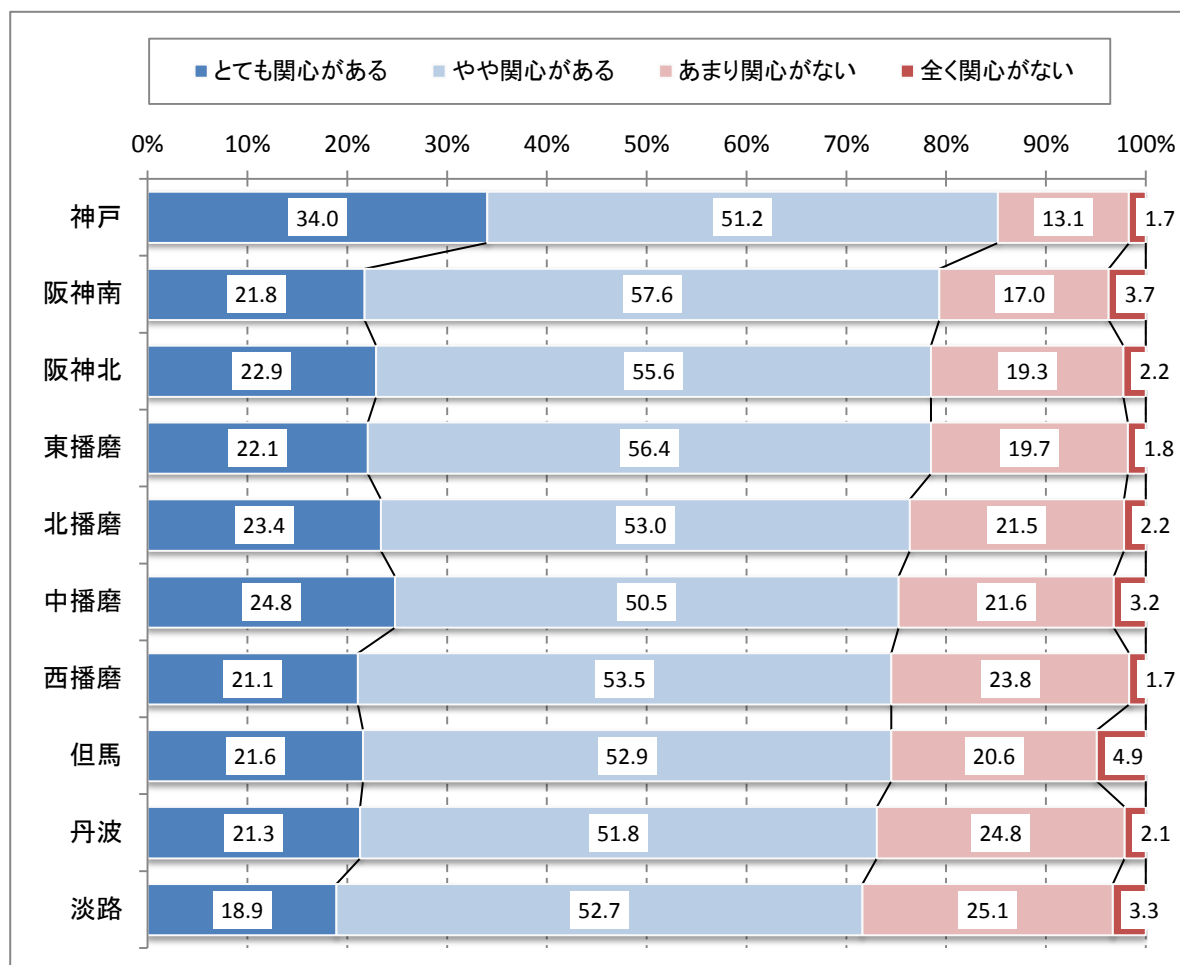
【全 県】

・児童虐待への関心について、「とても関心がある」が25.6%、「やや関心がある」が53.8%となっており、あわせて約8割が“関心がある”(79.4%)と回答しており、残りの2割は“関心がない”(「あまり」+「全く」:20.6%)と回答している。



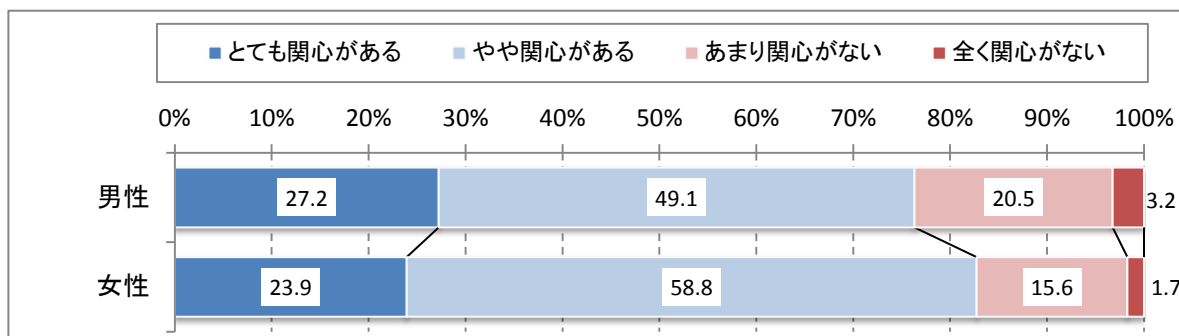
【地域別】

- ・神戸では「とても関心がある」が34.0%と他の地域に比べて多く、また「やや関心がある」(51.2%)とあわせると85.2%が“関心がある”と回答しており、比較的多くなっている。
- ・一方、淡路では“関心がある”は71.6%にとどまっており、他の地域に比べて低くなっている。



【性別】

・“関心がある”は男性(76.3%)よりも女性(82.7%)にやや多くみられる。

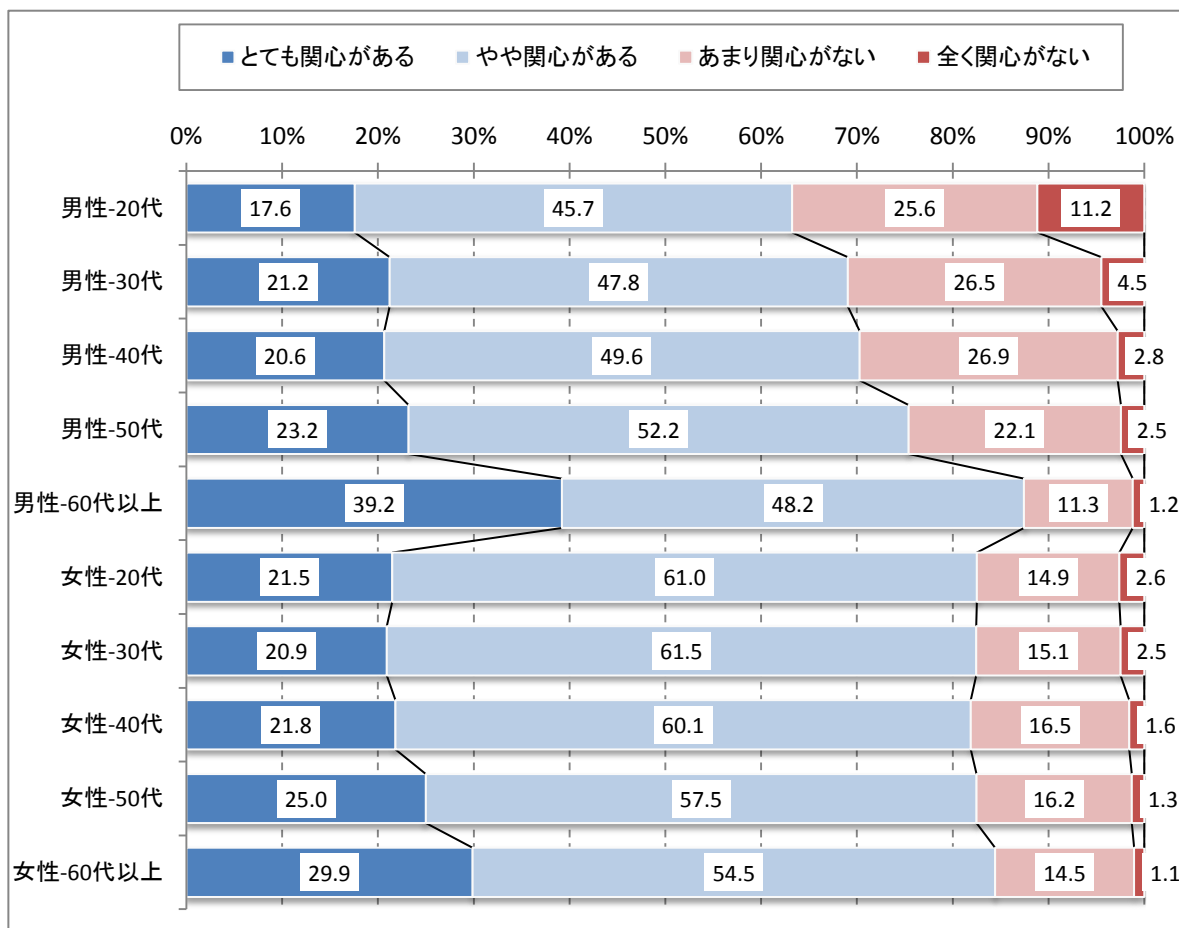


【性・年代別】

・男女とも「とても関心がある」は年代の高い層ほど多くなっており、男性60代以上(39.2%)では約4割、女性60代以上(29.9%)でも約3割が「とても関心がある」と回答している。

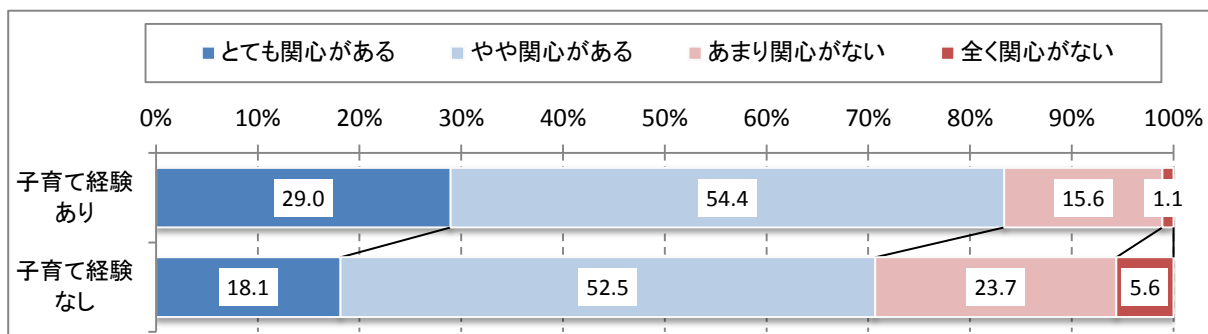
・男性20～30代では“関心がある”は7割を下回っており、年代の若い層ほど関心度は低くなっている。

・一方、女性は全ての年代で“関心がある”が8割以上となっており、年代の若い層でも男性に比べて関心度は高くなっている。



【子育ての経験別】

- ・子育て経験がある人は「とても関心がある」が29.0%、「やや関心がある」が54.4%となっており、あわせて83.4%が“関心がある”と回答している。
- ・子育て経験がない人は「とても関心がある」は18.1%で、子育て経験がある人と比べて10ポイント以上低くなっている。
- ・また、子育て経験がない人は“関心がない”があわせて29.3%と約3割となっており、子育て経験がある人(16.7%)と比べて多くなっている。



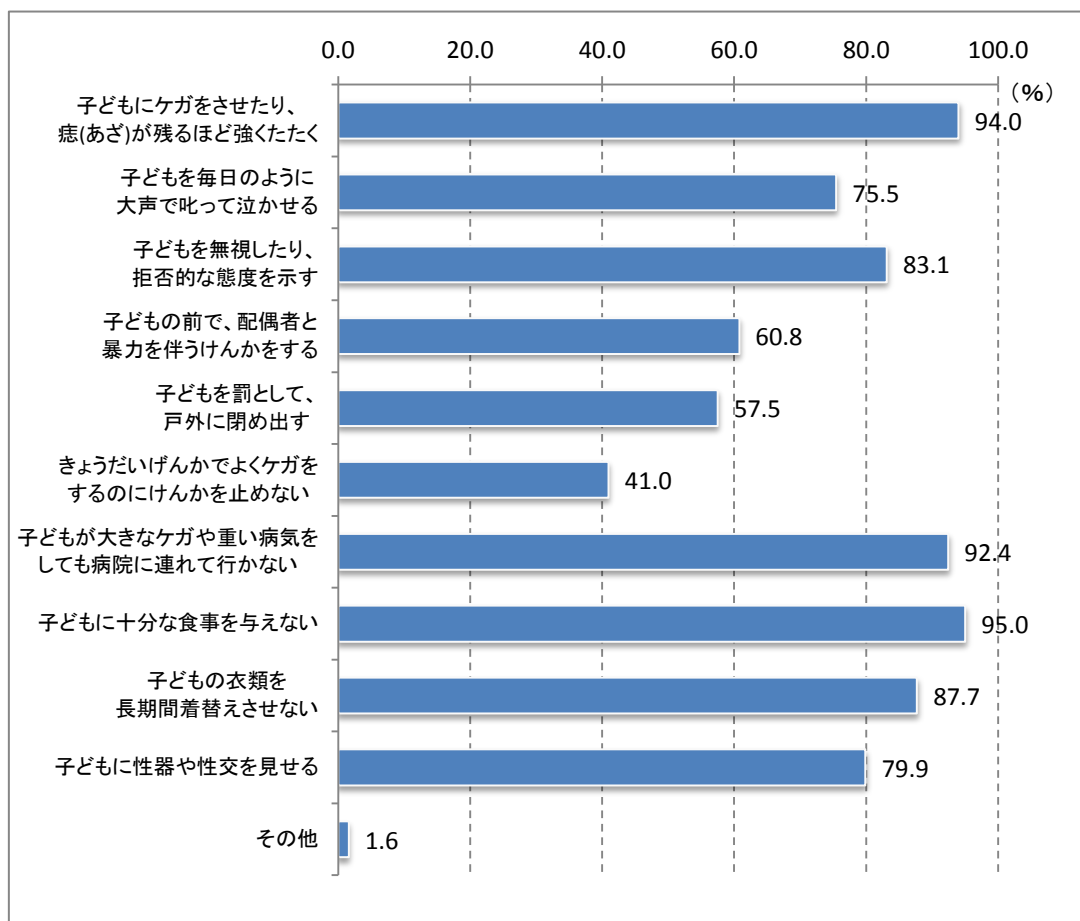
(2) 児童虐待だと思ふ内容

問10 次の中から、児童虐待だと思ふことをすべて選んでください。【複数回答可】

1. 子どもにケガをさせたり、痣(あざ)が残るほど強くたたく
2. 子どもを毎日のように大声で叱って泣かせる
3. 子どもを無視したり、拒否的な態度を示す
4. 子どもの前で、配偶者と暴力を伴うけんかをする
5. 子どもを罰として、戸外に閉め出す
6. きょうだいげんかによくケガをするのにけんかを止めない
7. 子どもが大きなケガや重い病気をしても病院に連れて行かない
8. 子どもに十分な食事を与えない
9. 子どもの衣類を長期間着替えさせない
10. 子どもに性器や性交を見せる
11. その他

【全 県】

・児童虐待だと思ふ内容は、「子どもに十分な食事を与えない」(95.0%)や「子どもが大きなケガや重い病気をしても病院に連れて行かない」(92.4%)、「子どもの衣類を長期間着替えさせない」(87.7%)といったネグレクトにあたる項目が上位にあげられている。
 ・また、「子どもにケガをさせたり、痣(あざ)が残るほど強くたたく」(94.0%)も多くなっている。
 ・一方、最も回答の少なかった「きょうだいげんかによくケガをするのにけんかを止めない」は41.0%にとどまっている。



【地域別】

・地域間であまり大きな差はみられないが、淡路は全体的に他の地域よりも回答割合が少なくなっている。

(複数回答・%)

	子どもにケガをさせたり、たたく	子どもを毎日泣かせる	拒否的な態度を示す	暴力を伴うけんかをする	戸外に閉め出す	きょうだいけんかを止めない	子どもが大きなケガや重い病気をしても病院に連れて行かない	子どもに十分な食事を与えない	子どもの衣類を長期間着替えさせない	子どもに性器や性交を見せる	その他
神戸	95.0	78.9	83.8	64.3	59.5	44.7	93.6	95.7	90.8	85.0	2.0
阪神南	93.9	74.3	84.1	56.5	56.8	38.7	92.3	94.4	89.1	79.0	1.3
阪神北	94.1	77.4	83.8	65.4	58.4	44.7	91.9	95.8	87.2	80.4	1.4
東播磨	92.6	75.8	81.6	61.7	57.9	41.4	89.9	94.6	85.0	76.3	0.7
北播磨	93.5	71.2	83.4	58.4	59.2	38.6	94.0	97.3	86.1	78.3	2.7
中播磨	93.1	71.8	82.8	57.3	52.5	38.3	92.0	92.9	83.5	76.8	2.1
西播磨	95.0	75.9	80.9	61.8	57.3	39.3	93.6	95.0	86.7	76.2	1.1
但馬	94.6	70.1	80.9	58.8	56.4	35.8	90.7	93.6	86.3	75.5	1.5
丹波	93.6	73.8	85.8	57.4	63.1	36.2	95.7	95.0	89.4	79.4	2.8
淡路	93.0	66.7	78.6	48.6	49.4	25.5	91.8	94.7	82.3	74.5	1.2

【性別／性・年代別】

・性別では、すべての項目で男性よりも女性の割合が多く、特に「子どもの衣類を長期間着替えさせない」や「子どもに性器や性交を見せる」は、女性の方が10ポイント以上多くなっている。

・性・年代別でみると、女性50代で「きょうだいげんかによくケガをするのにけんかを止めない」が52.1%と唯一半数を超えており、比較的多くなっている。

(複数回答・%)

	子どもにケガが残るほど強く、たたく	子どもを毎日泣かせる	拒否的な態度を示す	暴力を伴うけんかをする	戸外に閉め出して、	すきょうだいにけんかを止めない	子どもが大きなケガや重い病気を	子どもに十分な食事を与えない	子どもの衣類を長期間着替えさせない	子どもに性器や性交を見せる	その他
男性	93.2	74.7	80.5	57.2	56.4	38.3	89.4	92.9	82.8	73.9	1.1
女性	94.9	76.3	85.8	64.6	58.7	43.8	95.6	97.2	92.9	86.2	2.1
男性-20代	92.5	66.1	75.1	53.9	47.6	32.2	84.0	90.7	77.9	65.2	1.5
男性-30代	94.8	69.8	78.3	56.5	54.1	33.1	87.1	92.3	85.1	73.4	1.5
男性-40代	88.7	73.1	80.1	51.7	53.4	35.6	89.7	92.5	86.8	76.3	0.6
男性-50代	94.3	82.5	85.9	61.2	58.3	42.8	90.9	92.1	85.9	76.5	1.1
男性-60代以上	94.6	75.2	79.8	58.9	60.5	41.0	90.9	94.6	78.7	73.4	1.2
女性-20代	95.7	77.0	91.1	61.3	61.0	37.4	96.0	96.5	94.9	86.1	1.3
女性-30代	95.4	68.4	82.8	67.8	53.2	38.9	97.0	97.4	92.5	87.0	1.8
女性-40代	94.6	78.3	86.2	63.9	55.8	42.7	96.2	98.2	95.1	90.0	2.6
女性-50代	94.0	80.0	86.9	67.7	64.3	52.1	93.8	96.5	91.7	85.1	3.2
女性-60代以上	95.3	76.9	83.9	60.7	59.9	44.3	95.2	96.9	90.6	81.9	1.1

(3) 児童虐待が起こる理由

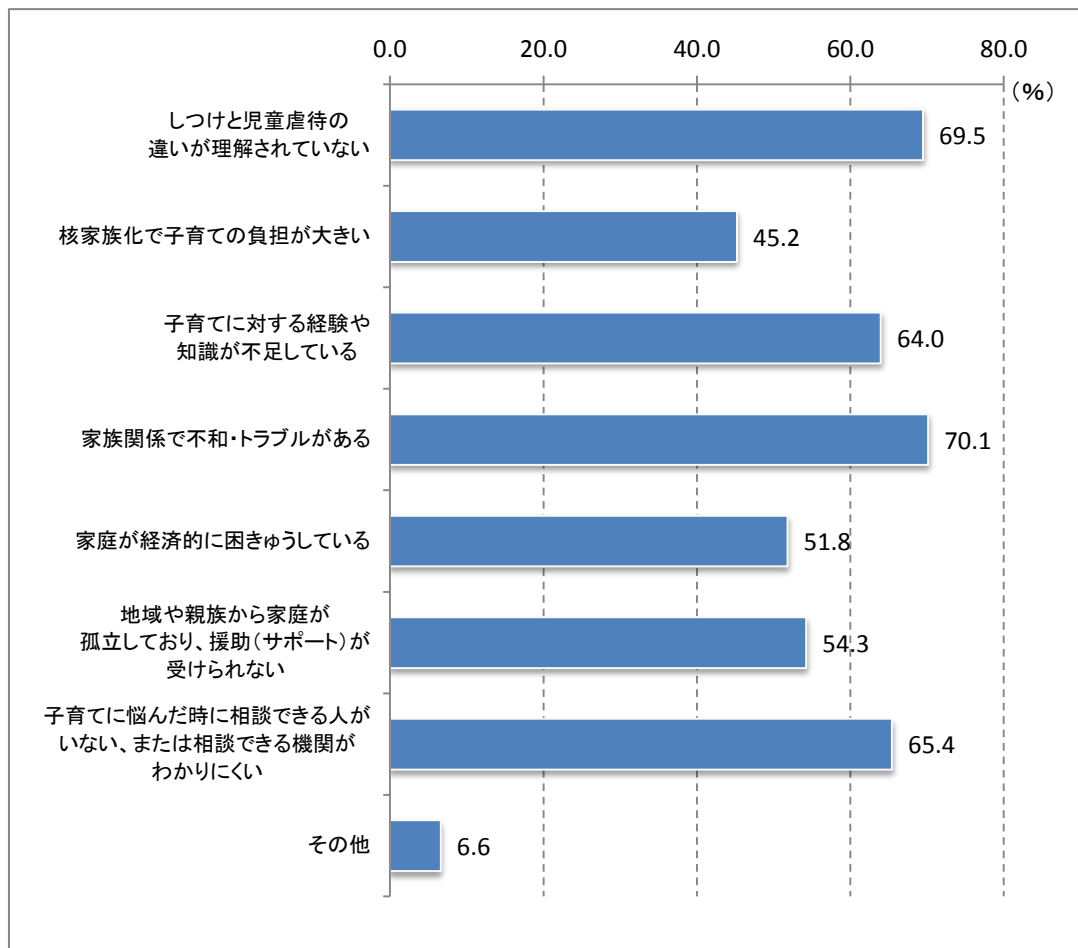
問11 児童虐待が起こる理由は何だと思いますか？

次の中からあてはまることをすべて選んでください。【複数回答可】

1. しつけと児童虐待の違いが理解されていない
2. 核家族化で子育ての負担が大きい
3. 子育てに対する経験や知識が不足している
4. 家族関係で不和・トラブルがある
5. 家庭が経済的に困きゆうしている
6. 地域や親族から家庭が孤立しており、援助(サポート)が受けられない
7. 子育てに悩んだ時に相談できる人がいない、または相談できる機関がわかりにくい
8. その他

【全 県】

・児童虐待が起こるとされる理由は、「家族関係で不和・トラブルがある」が70.1%、「しつけと児童虐待の違いが理解されていない」が69.5%となっており、ほぼ並んで多くなっている。
・次いで「子育てに悩んだ時に相談できる人がいない、または相談できる機関がわかりにくい」(65.4%)、「子育てに対する経験や知識が不足している」(64.0%)、「地域や親族から家庭が孤立しており、援助(サポート)が受けられない」(54.3%)が続いている。



【地域別】

- ・神戸や阪神南、東播磨で「しつけと児童虐待の違いが理解されていない」が7割以上となっており、比較的多くなっている。
- ・一方、丹波では「しつけと児童虐待の違いが理解されていない」(56.7%)が6割未満となっており、他の地域と比べて少ない。
- ・但馬は「核家族化で子育ての負担が大きい」が56.9%となっており、他の地域に比べて多くなっている。

(複数回答・%)

	しつけと児童虐待の違いが理解されていない	核家族化で子育ての負担が大きい	子育てに対する経験や知識が不足している	家族関係で不和・トラブルがある	家庭が経済的に困きゆうしている	地域や親族から家庭が孤立しており、援助(サポート)が受けられない	子育てに悩んだ時に相談できる人がいない、または相談できる機関がない	その他
神戸	73.7	44.2	65.9	73.5	52.1	58.2	67.7	7.0
阪神南	72.1	43.0	66.8	67.6	53.6	51.2	64.2	8.2
阪神北	63.7	44.7	62.3	67.6	55.0	55.0	66.2	5.6
東播磨	70.0	43.0	62.4	70.2	49.9	52.6	63.1	4.9
北播磨	67.4	51.1	66.6	72.0	53.0	59.8	67.9	5.2
中播磨	68.6	47.0	60.1	70.0	47.5	49.1	62.8	7.8
西播磨	68.7	45.4	59.8	69.5	47.4	48.5	63.4	6.4
但馬	60.8	56.9	61.8	72.5	53.9	54.4	65.7	3.4
丹波	56.7	44.7	61.0	66.7	49.6	61.0	70.2	6.4
淡路	61.3	51.4	63.0	62.6	51.9	53.1	62.1	7.0

【性別／性・年代別】

・性別では、ほぼすべての項目で男性よりも女性の割合が多くなっている中、「しつけと児童虐待の違いが理解されていない」は女性よりも男性の意見が多くなっている。

・性・年代別でみると、女性20～30代は「家庭が経済的に困きゅうしている」や「地域や親族から家庭が孤立しており、援助(サポート)が受けられない」、「子育てに悩んだ時に相談できる人がいない、または相談できる機関がわかりにくい」など子育ての環境に関する項目が比較的多くなっている。

・一方、男女ともに50代以上は「しつけと児童虐待の違いが理解されていない」が7割以上となっており、年代の高い層を中心に多くなっている。

(複数回答・%)

	違し いつ が理 解さ れて いな い	核家 族化 で子 育 ての 負 担が 大き い	知子 識育 が不 足し て いる 経 験 や	家 族 関 係 で 不 和 ・ ト ラ ブ ル が あ る	家 庭 が 経 済 的 に 困 き ゅ う し て い る	援地 助域 (サ ポ ー ト) が 受 け ら れ な い 、 地 域 や 親 族 か ら 家 庭 が 孤 立 し て お り 、	わい 子 か な り い に く ま た ん だ 時 に 相 談 で き る 人 が い ない 機 関 が	そ の 他
男性	71.9	37.5	65.0	63.4	47.9	47.4	57.8	7.3
女性	66.9	53.3	62.9	77.2	55.9	61.5	73.5	5.8
男性-20代	72.0	30.5	64.9	60.9	47.7	42.2	54.8	9.4
男性-30代	67.4	45.1	66.6	56.3	47.9	43.8	56.2	7.1
男性-40代	65.1	39.5	59.9	63.7	52.2	46.1	53.8	7.2
男性-50代	70.2	35.7	62.5	62.1	45.8	46.9	55.0	10.2
男性-60代以上	79.0	36.2	69.0	68.0	46.8	51.6	63.5	5.0
女性-20代	61.4	55.4	65.0	76.6	64.9	69.4	83.1	4.9
女性-30代	61.0	60.5	57.9	78.0	60.2	66.3	73.7	5.4
女性-40代	65.6	54.2	59.5	73.7	53.7	58.3	73.5	6.5
女性-50代	70.2	52.3	64.4	79.3	53.7	59.2	72.9	6.3
女性-60代以上	74.0	44.6	69.4	78.7	51.6	58.3	67.9	5.6

(4) 児童虐待の通報・相談についての認知度

問12 次の児童虐待の通報・相談に関する内容【①～⑧】について、あなたはどの程度ご存知ですか？それぞれひとつずつ選んでください。

- ①兵庫県では、児童虐待の通報(通告)先である「児童相談所」を「こども家庭センター」という名称にしている
- ②兵庫県のこども家庭センターでは、児童虐待の通報や相談が24時間できる専用電話「児童虐待防止24時間ホットライン」を設置している
- ③児童虐待を受けた子ども(又は、児童虐待を疑われる子ども)を見たり、聞いたりした人は、市町、またはこども家庭センターに通報(通告)する義務がある
- ④通報・相談は、民生委員(児童委員)を通じて行うこともできる
- ⑤児童虐待を受けた子ども自身も通報・相談ができる
- ⑥通報は、間違ってもかまわないので、迷わずに通報すべきである
- ⑦通報・相談は匿名でも構わない
- ⑧虐待を発見し、通報(通告)をした人の秘密は守られるので、誰が通報(通告)したか、相手方には知られない

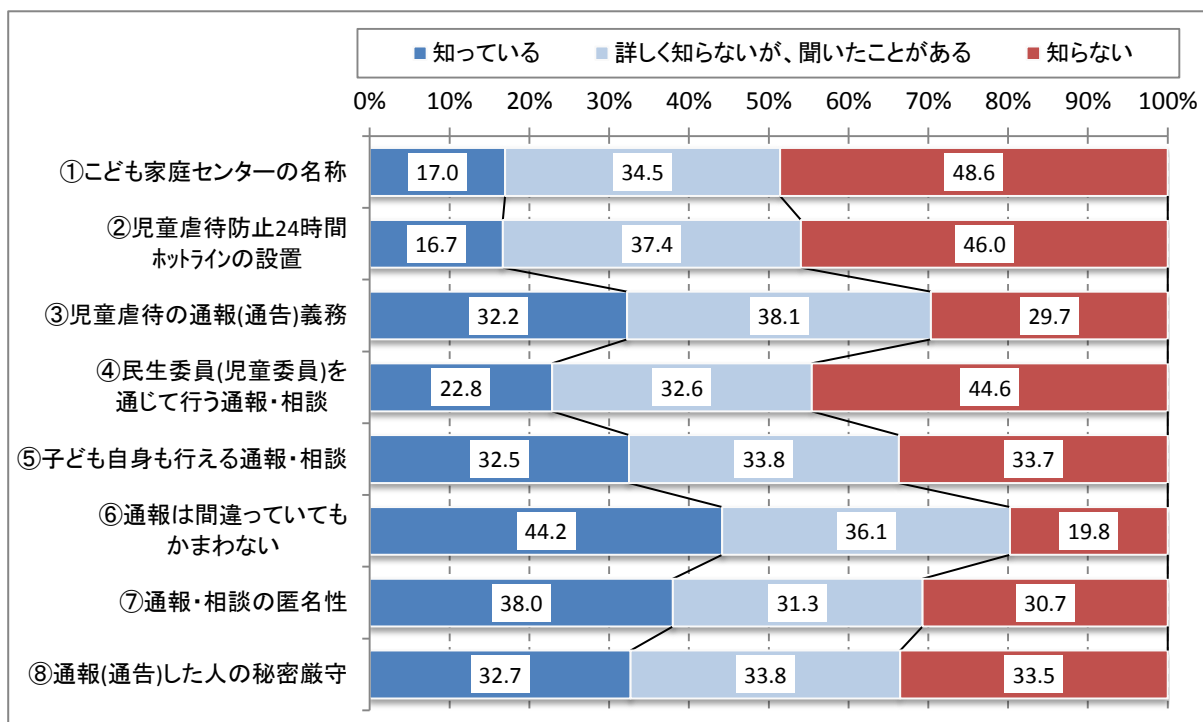
1. 知っている 2. 詳しくは知らないが、聞いたことがある 3. 知らない

【全 県】

・児童虐待の通報・相談に関する内容について、“認知度”(「知っている」+「一聞いたことがある」)が高かったのは、「⑥通報は、間違ってもかまわないので、迷わずに通報すべきである」(80.3%)で、“認知度”は8割を超えている。

・次いで「③児童虐待を受けた子ども(又は、児童虐待を疑われる子ども)を見たり、聞いたりした人は、市町、またはこども家庭センターに通報(通告)する義務がある」(70.3%)と「⑦通報・相談は匿名でも構わない」(69.3%)の“認知度”が7割前後で続いている。

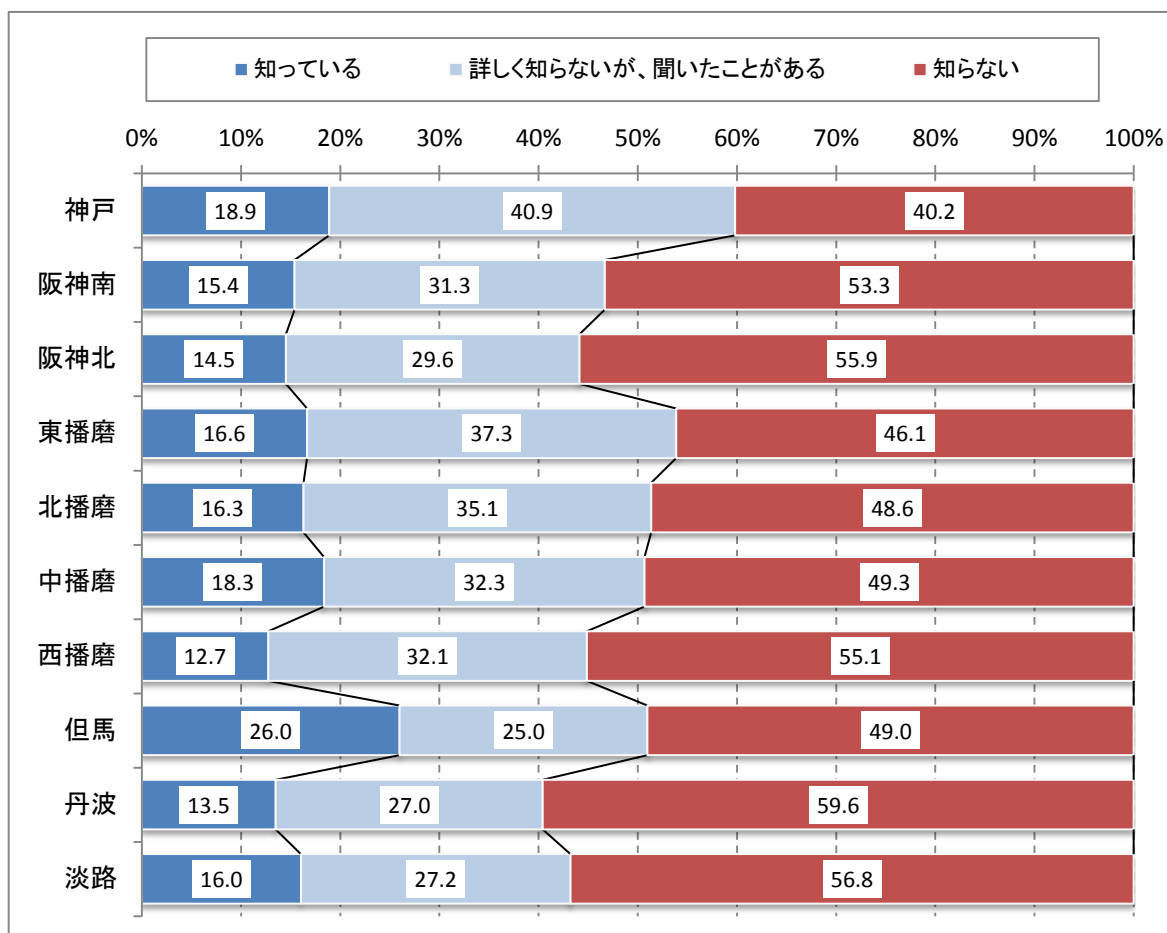
・一方、認知度が比較的低かったのは、「①兵庫県では、児童虐待の通報(通告)先である「児童相談所」を「こども家庭センター」という名称にしている」(51.5%)で、約半数となっている。



- ① 兵庫県では、児童虐待の通報(通告)先である「児童相談所」を「こども家庭センター」という名称にしている

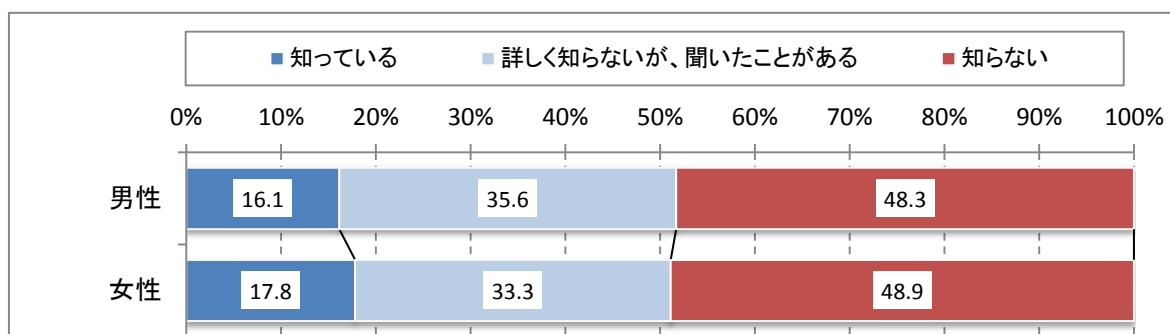
【地域別】

- ・こども家庭センターの名称について、全体的に概ね4～5割程度の“認知度”となっている。
- ・神戸での“認知度”は59.8%と最も高く、東播磨(53.9%)、北播磨(51.4%)、但馬(51.0%)、中播磨(50.6%)でも“認知度”は半数を超えている。
- ・一方、丹波(40.5%)では“認知度”が比較的低く、認知している人は4割にとどまっている。



【性別】

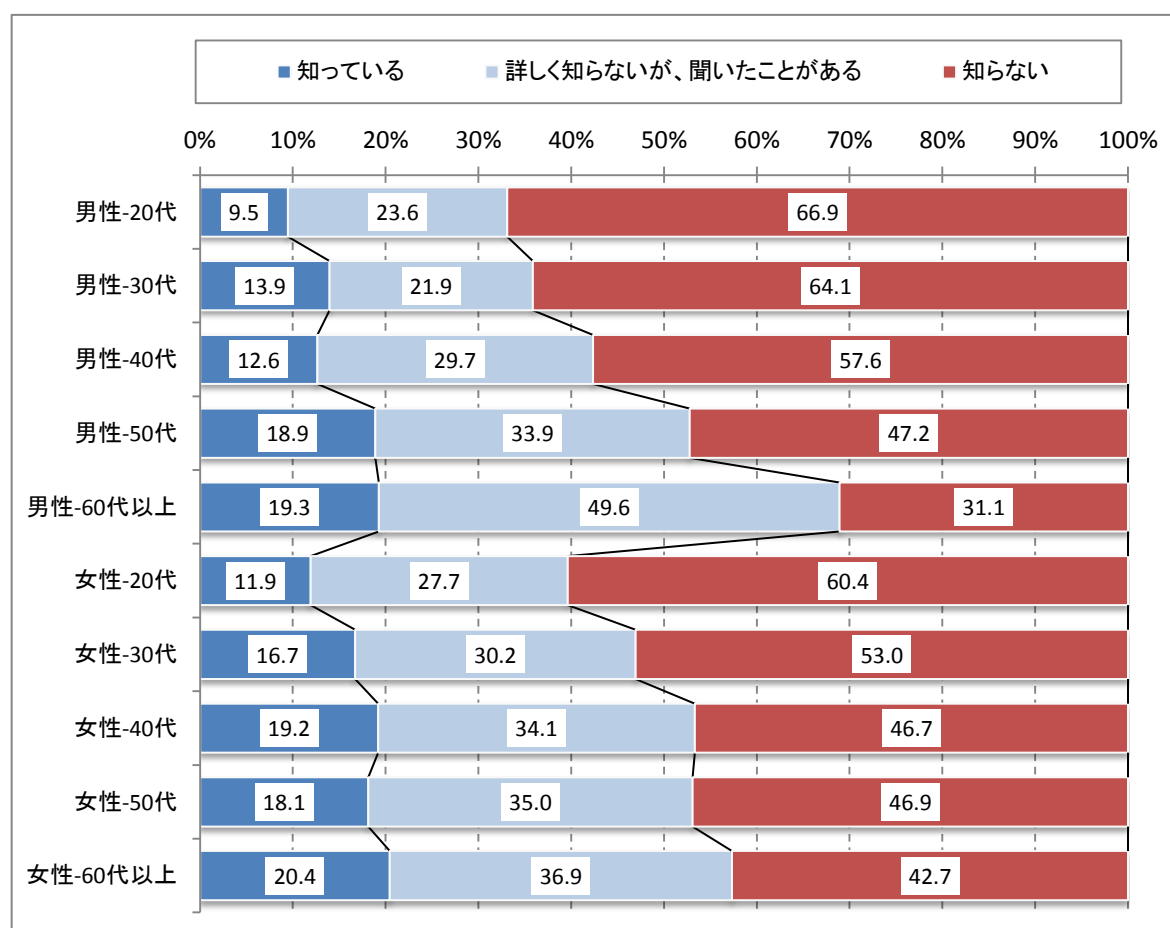
・子ども家庭センターの名称について、男女間に“認知度”の差はほとんどみられない。



【性・年代別】

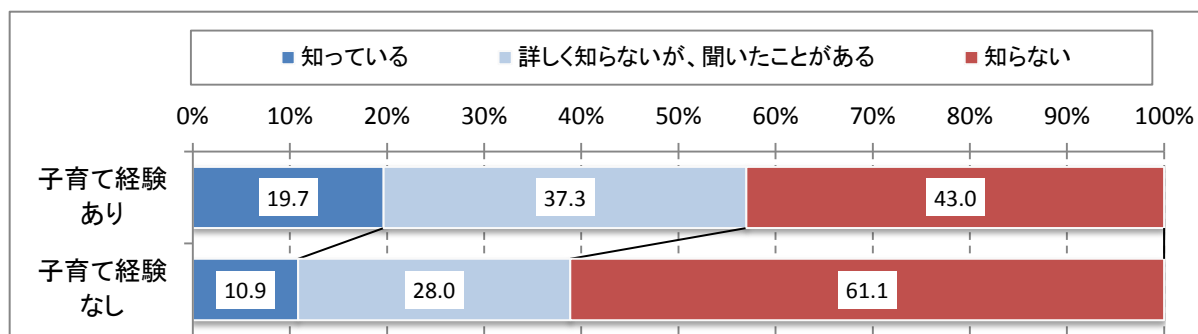
・男女ともに60代以上の“認知度”が高く、男性60代以上(68.9%)では約7割、女性60代以上(57.3%)では約6割が認知している。

・一方、男女とも20代の“認知度”は4割未満と比較的低くなっている。



【子育ての経験別】

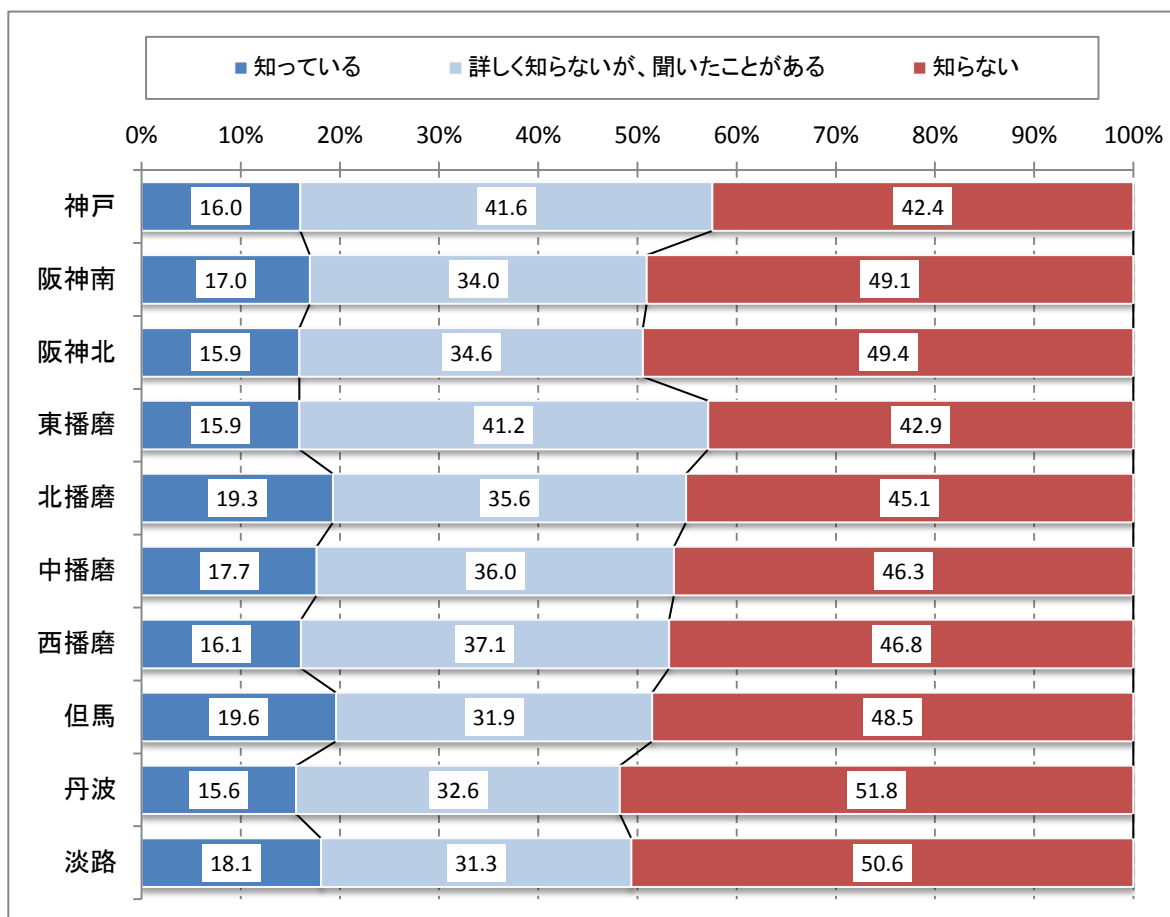
・こども家庭センターの名称について、子育て経験がある人は“認知度”(57.0%)が約6割となっており、子育て経験がない人(38.9%)と比べて“認知度”が20ポイント程度高くなっている。



② 兵庫県のこども家庭センターでは、児童虐待の通報や相談が24時間できる専用電話「児童虐待防止24時間ホットライン」を設置している

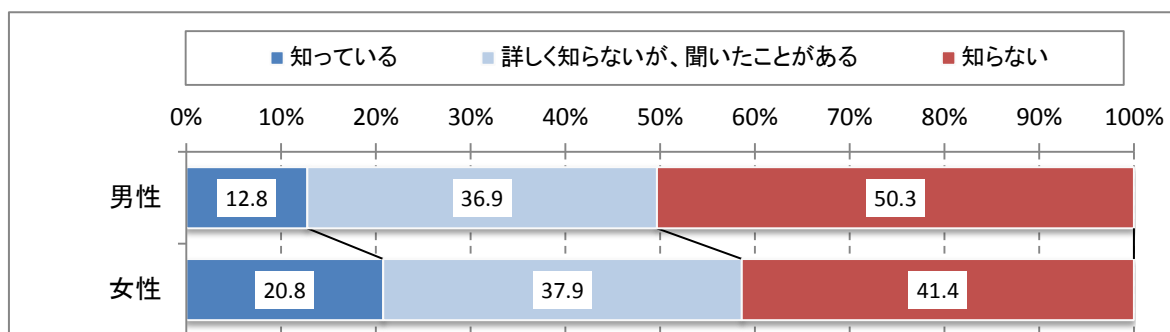
【地域別】

- ・児童虐待防止24時間ホットラインの設置について、全体的に概ね5～6割の“認知度”となっている。
- ・“認知度”は神戸(57.6%)と東播磨(57.1%)で約6割となっており、他の地域に比べて高くなっている。
- ・一方、丹波(48.2%)と淡路(49.4%)では“認知度”が半数以下となっており、比較的低くなっている。



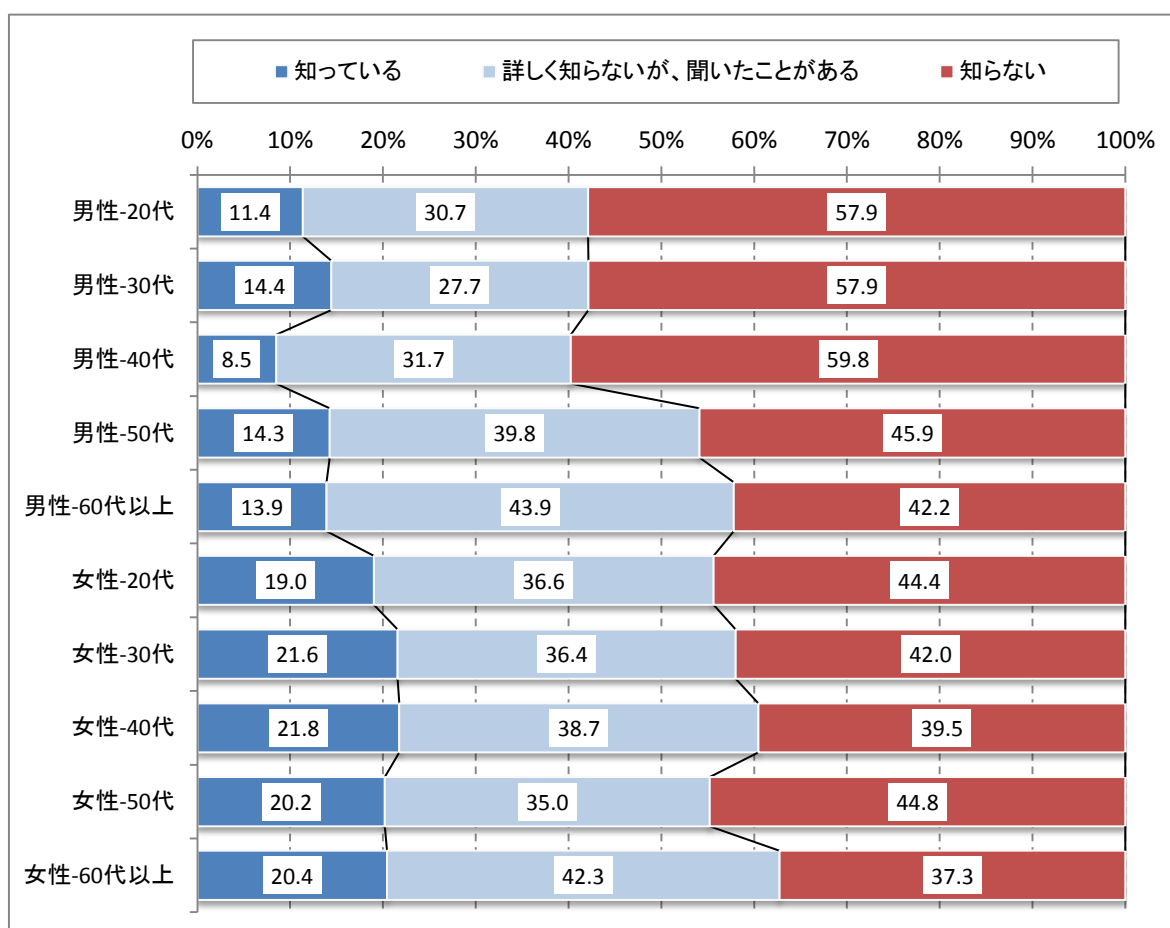
【性別】

・児童虐待防止24時間ホットラインの設置について、“認知度”は男性(49.7%)よりも女性(58.7%)の方が高くなっている。



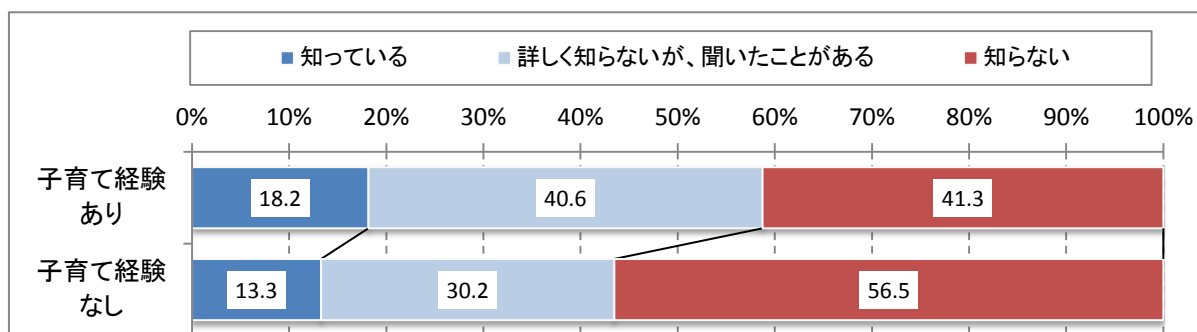
【性・年代別】

・男女ともに60代以上で“認知度”が6割前後と高くなっている。
・一方、男性40代以下では“認知度”が4割程度にとどまっており、比較的低くなっている。



【子育ての経験別】

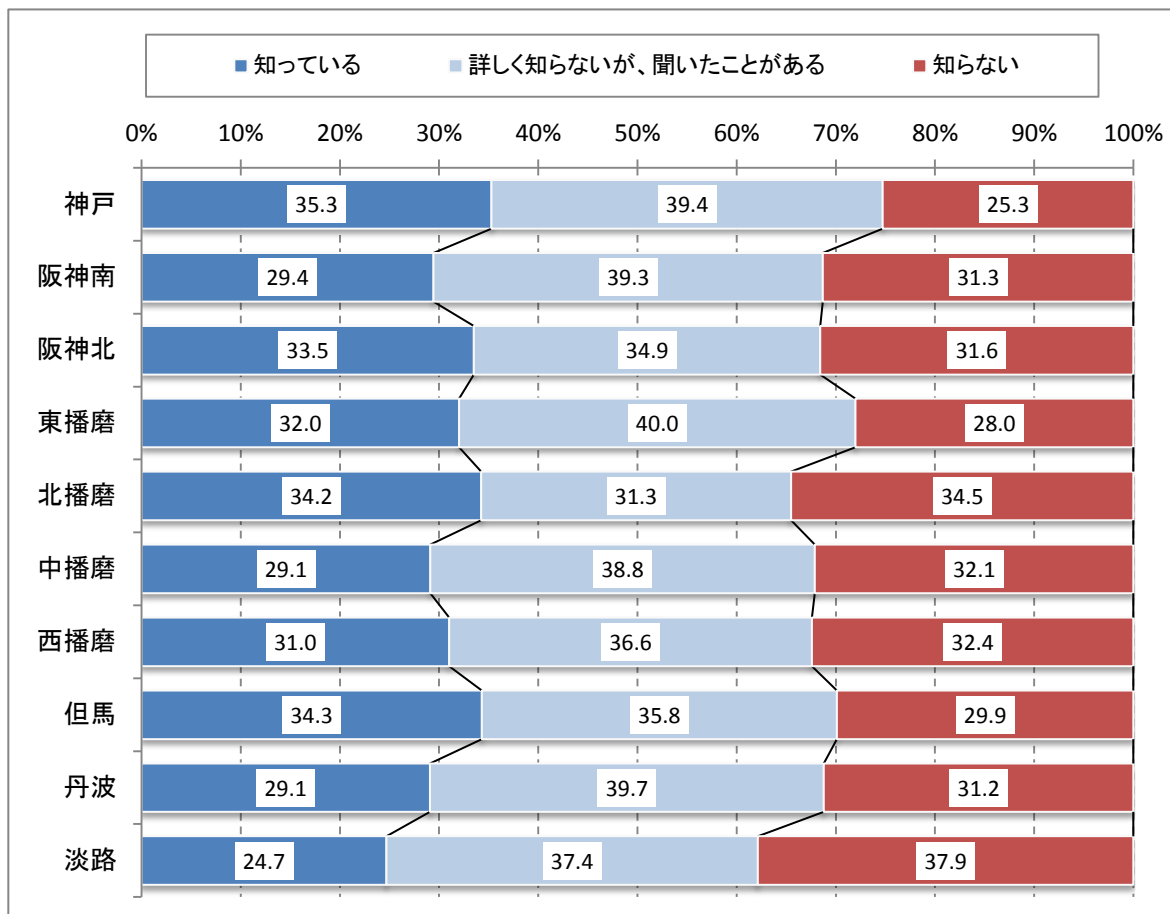
・児童虐待防止24時間ホットラインの設置について、子育て経験がある人は“認知度”（58.8%）が約6割となっており、子育て経験がない人（43.5%）と比べて“認知度”が高くなっている。



③ 児童虐待を受けた子ども(又は、児童虐待を疑われる子ども)を見たり、聞いたりした人は、市町、またはこども家庭センターに通報(通告)する義務がある

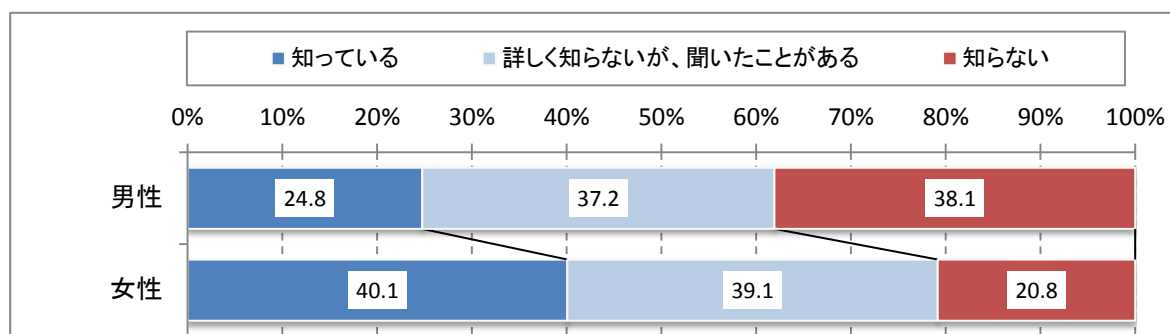
【地域別】

- ・児童虐待の通報(通告)義務について、全体的に6~7割の“認知度”となっている。
- ・“認知度”は神戸(74.7%)や東播磨(72.0%)、但馬(70.1%)で7割を超えており、高くなっている。
- ・一方、淡路では“認知度”が62.1%と比較的低くなっている。



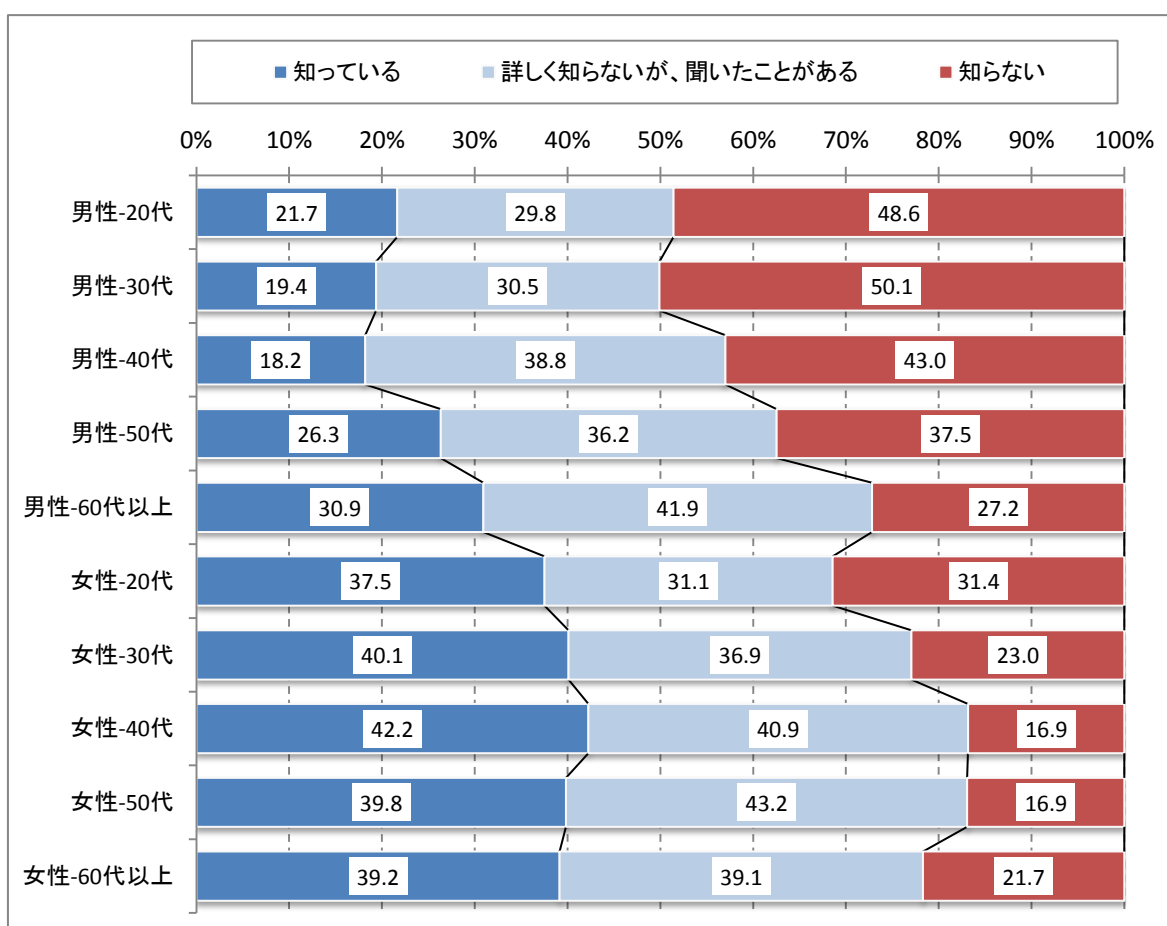
【性別】

- ・児童虐待の通報(通告)義務について、“認知度”は女性(79.2%)が約8割となっており、男性(62.0%)と比べて多くなっている。
- ・特に、女性は「知っている」が40.1%となっており、男性(24.8%)と比べて15ポイント以上高い。



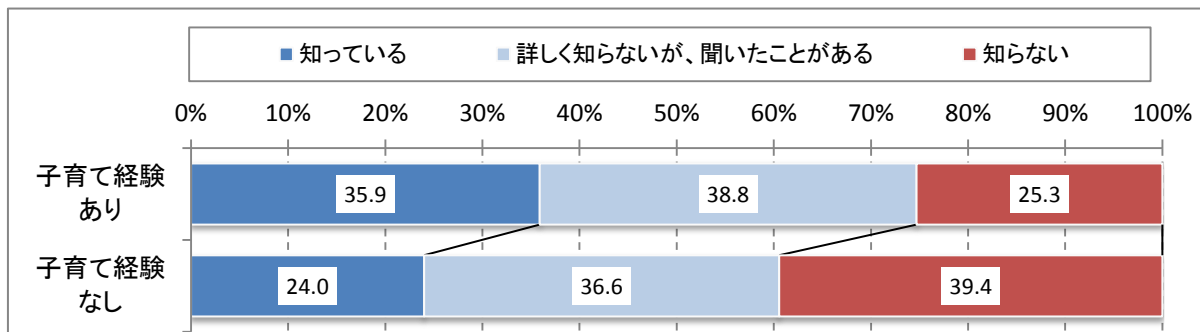
【性・年代別】

- ・女性40～50代で“認知度”が8割以上となっており、他の層に比べて高くなっている。
- ・一方、男性30代では“認知度”が49.9%と半数程度にとどまっており、比較的低い。



【子育ての経験別】

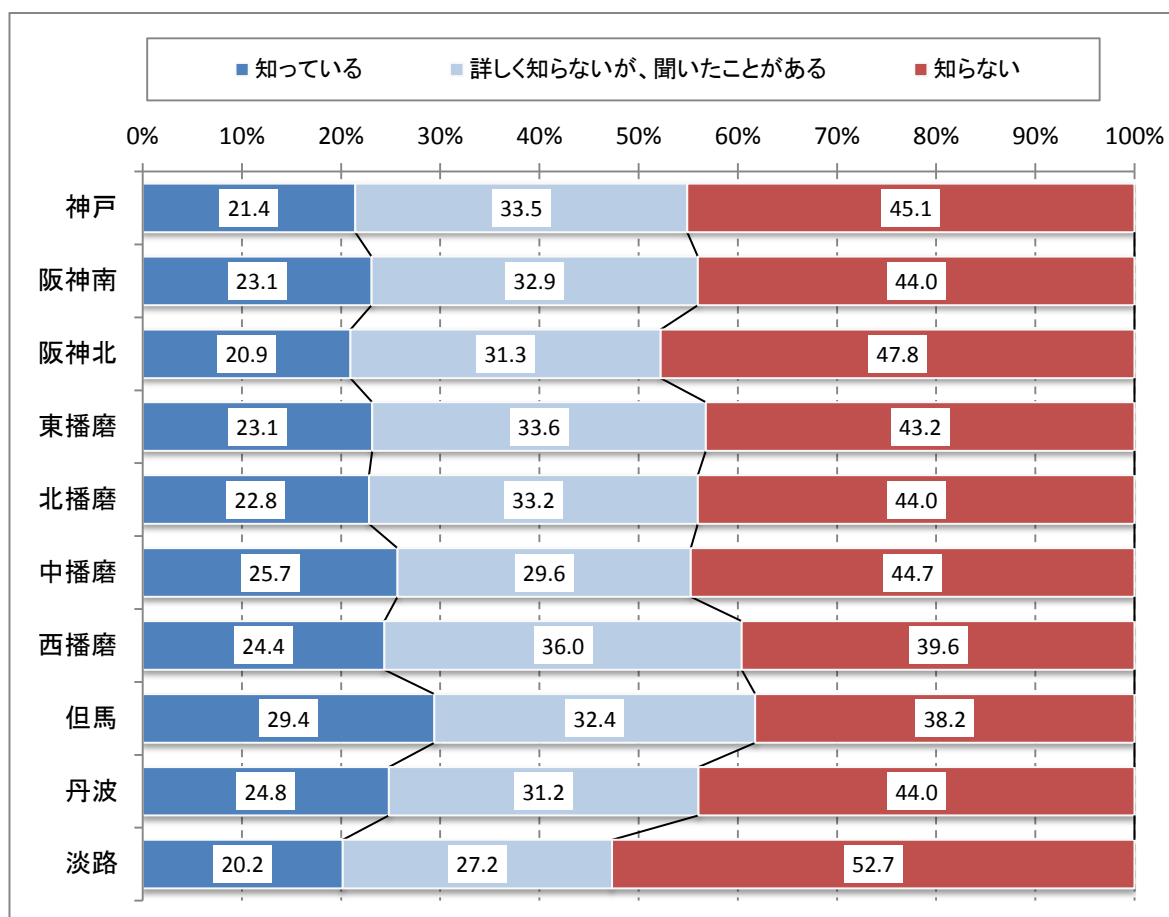
- ・児童虐待の通報(通告)義務について、子育て経験がある人は“認知度”(74.7%)が7割以上となっており、子育て経験がない人(60.6%)と比べて高くなっている。
- ・特に、子育て経験がある人は「知っている」が35.9%となっており、子育て経験がない人(24.0%)と比べて10ポイント以上高い。



④ 通報・相談は、民生委員(児童委員)を通じて行うこともできる

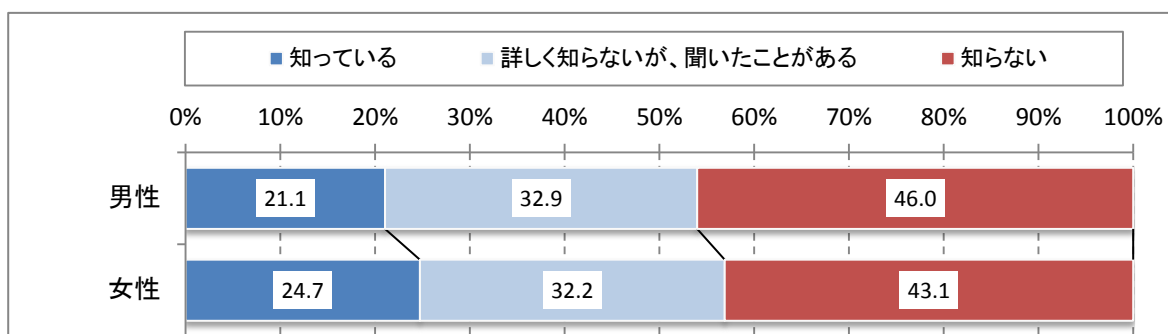
【地域別】

- ・民生委員(児童委員)を通じて通報・相談が行えることについて、全体的に概ね5～6割の“認知度”となっている。
- ・“認知度”は但馬(61.8%)や西播磨(60.4%)で6割以上と高くなっている。
- ・一方、淡路(47.4%)では“認知度”が唯一半数を割っており、比較的低くなっている。



【性別】

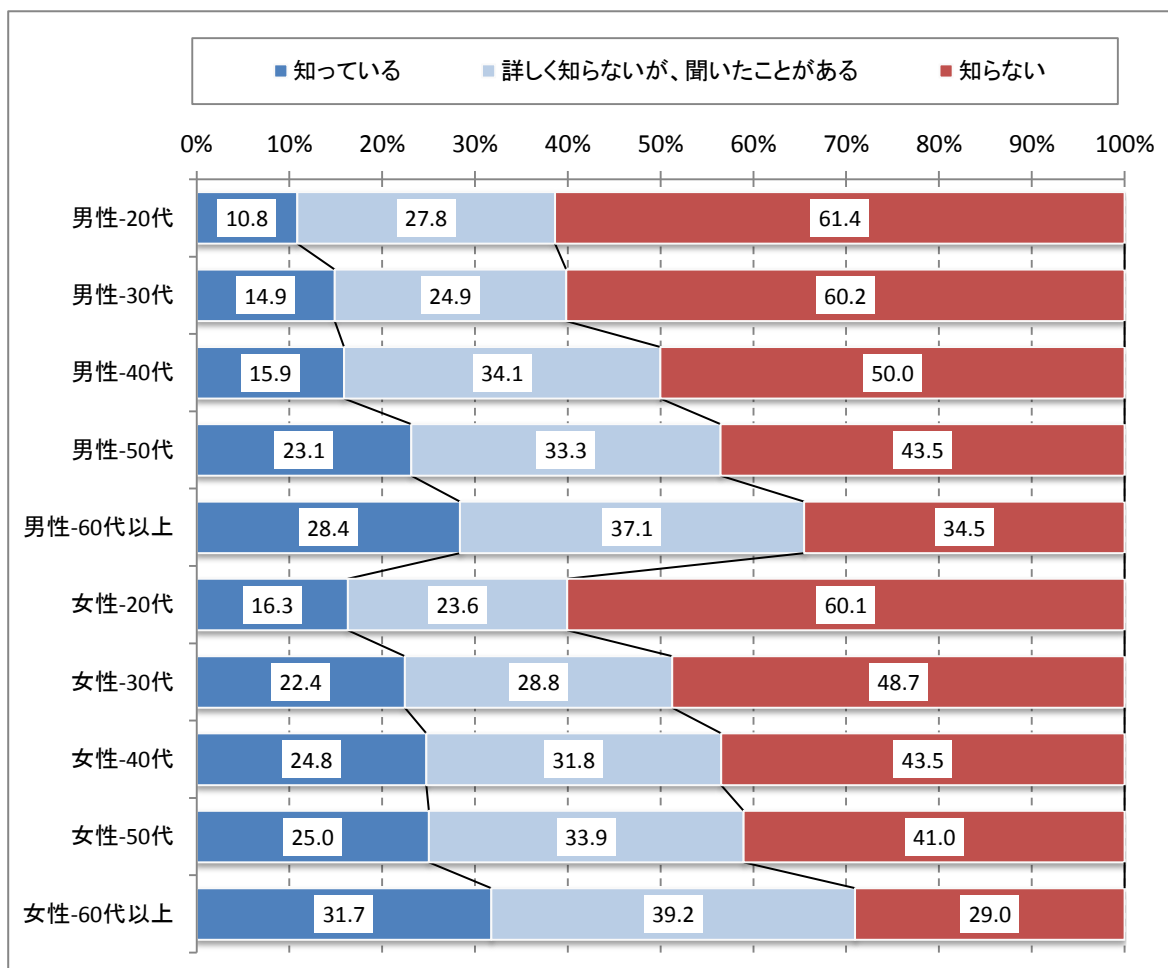
・民生委員（児童委員）を通じて通報・相談が行えることについて、男性の“認知度”が54.0%、女性の“認知度”は56.9%となっており、あまり大きな差はみられない。



【性・年代別】

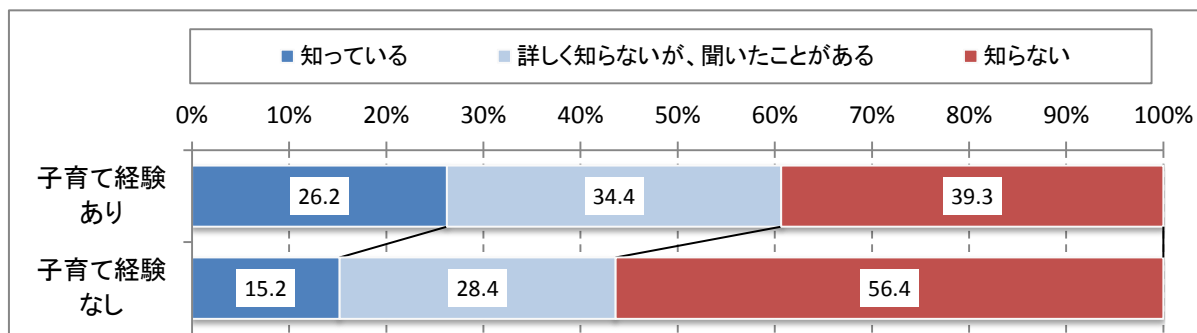
・男女とも年代の高い層ほど“認知度”が高く、男性60代以上(65.5%)で6割以上、女性60代以上(70.9%)では7割以上が認知している。

・一方、男女とも20代の“認知度”は4割未満にとどまっており、年代の高い層ほど“認知度”が高くなっている。



【子育ての経験別】

・民生委員(児童委員)を通じて通報・相談が行えることについて、子育て経験がある人は“認知度”(60.6%)が6割となっており、子育て経験がない人(43.6%)と比べて15ポイント以上高くなっている。



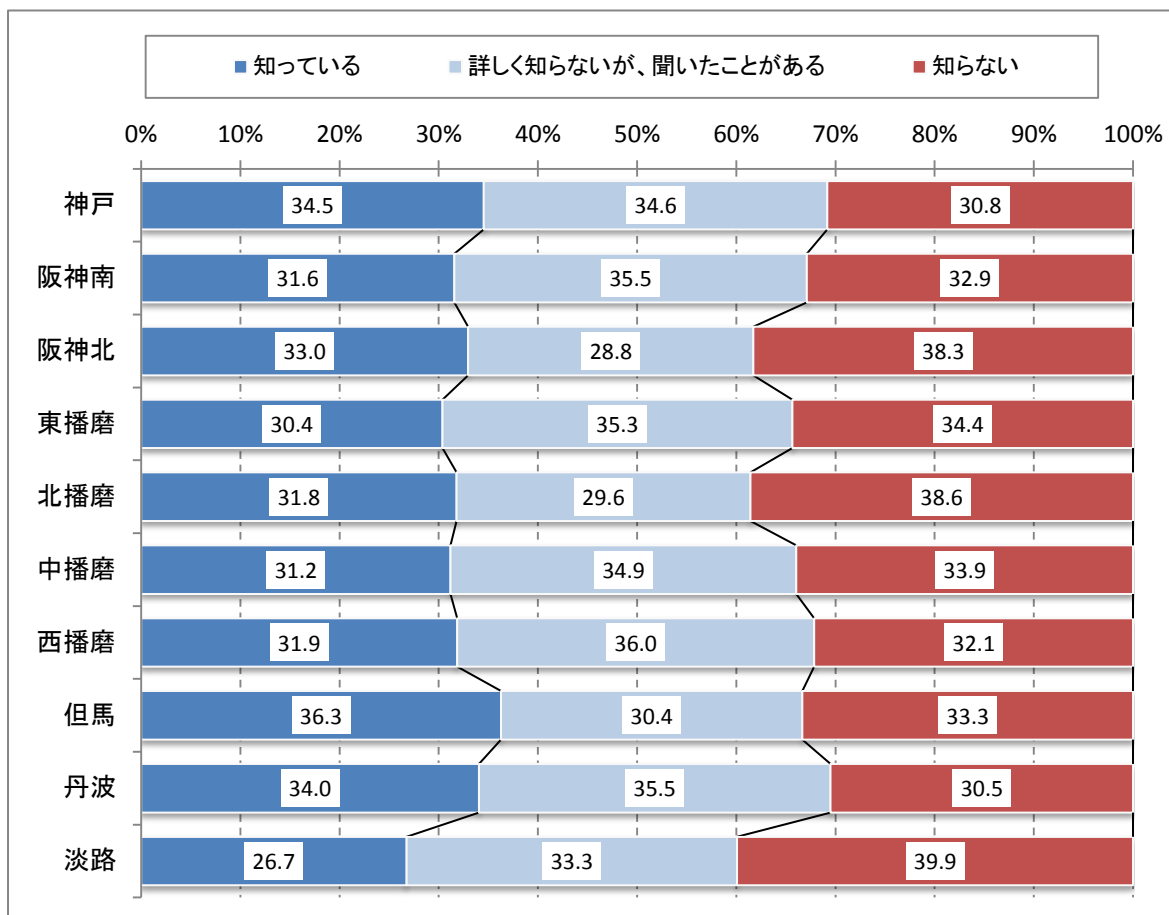
⑤ 児童虐待を受けた子ども自身も通報・相談ができる

【地域別】

・児童虐待を受けた子ども自身も通報・相談ができることについて、全体的に6～7割の“認知度”となっている。

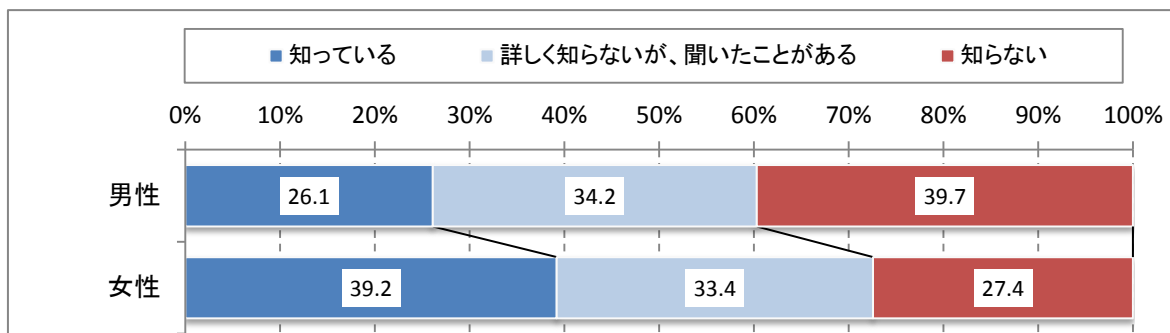
・丹波(69.5%)と神戸(69.1%)で“認知度”が約7割と高くなっている。

・一方、“認知度”が比較的低かったのは、淡路(60.0%)、北播磨(61.4%)、阪神北(61.8%)などであった。



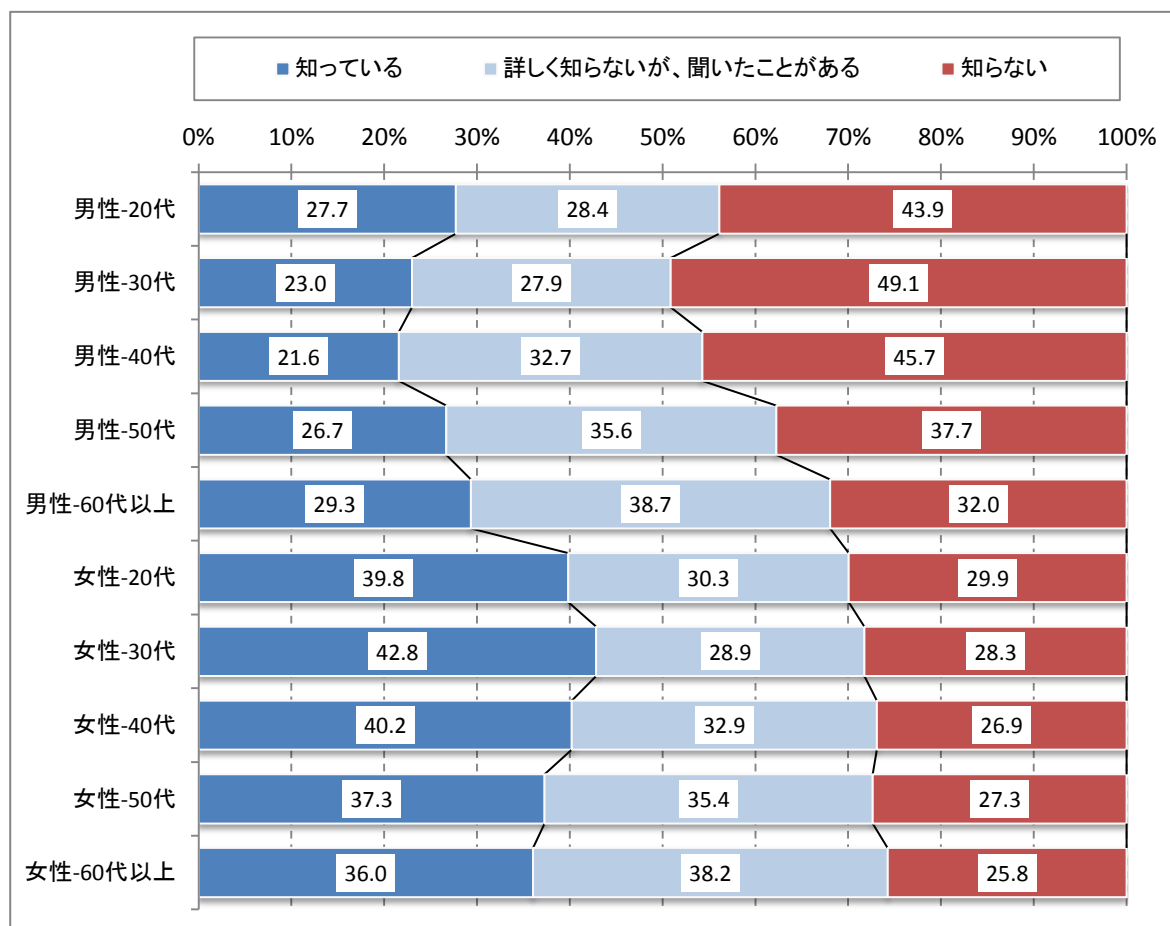
【性別】

- ・児童虐待を受けた子ども自身も通報・相談ができることについて、“認知度”は男性(60.3%)よりも女性(72.6%)の方が高くなっている。
- ・特に、女性は「知っている」が39.2%と男性(26.1%)と比べて10ポイント以上高い。



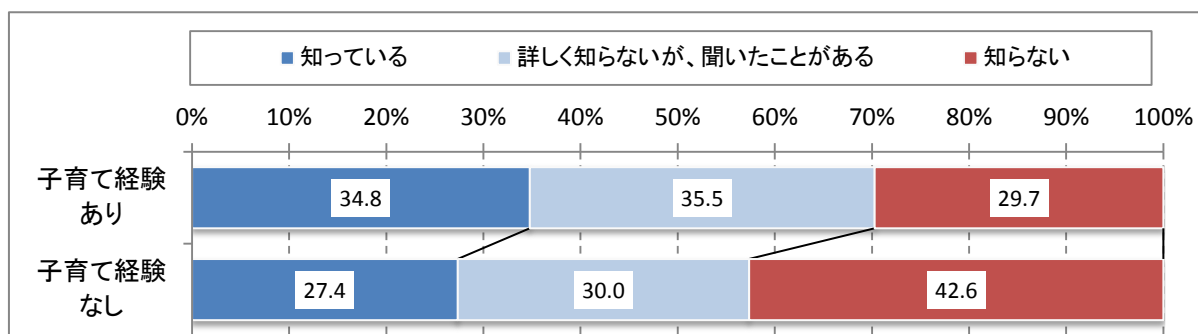
【性・年代別】

- ・男性は年代の高い層ほど“認知度”が高くなる傾向にあり、男性60代以上(68.0%)の約7割が認知している。
- ・一方、女性はどの年代も“認知度”が7割以上と高くなっている。
- ・また、女性30～40代では「知っている」が4割を超えて他の層に比べて多くなっている。



【子育ての経験別】

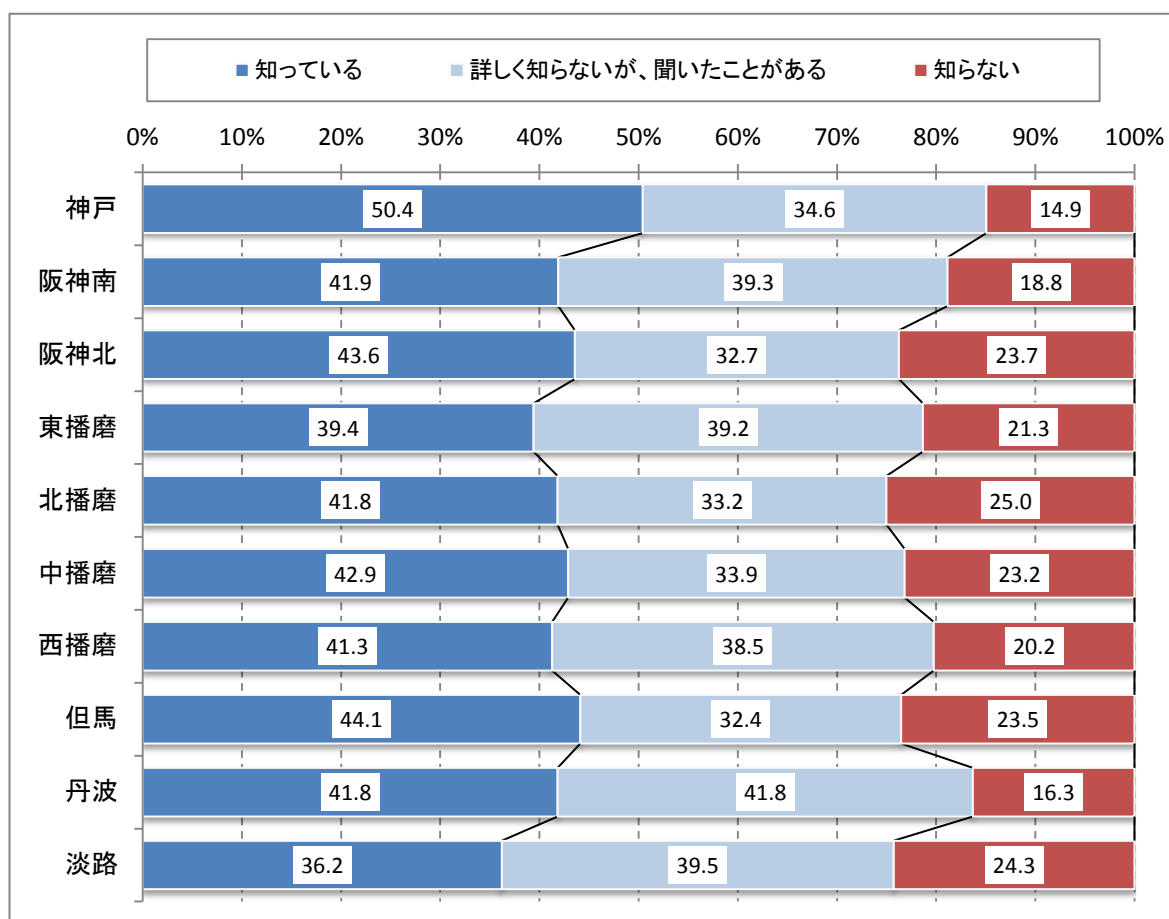
・児童虐待を受けた子ども自身も通報・相談ができることについて、子育て経験がある人は“認知度”（70.3%）が7割となっており、子育て経験がない人（57.4%）と比べて高くなっている。



⑥ 通報は、間違ってもかまわないので、迷わずに通報すべきである

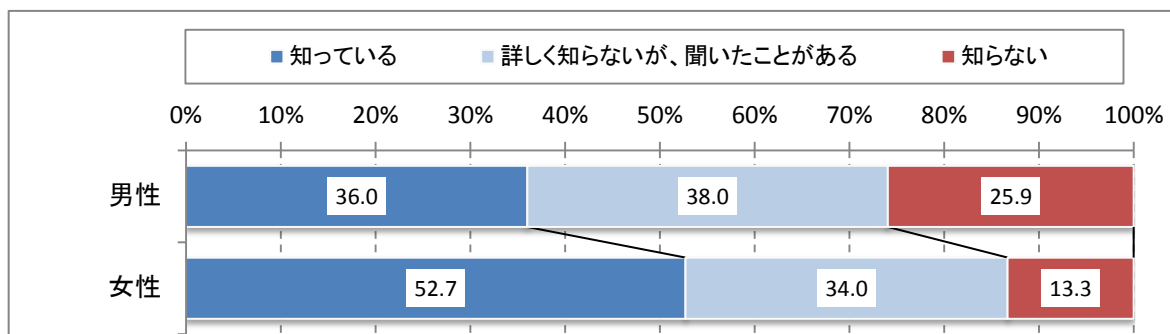
【地域別】

- ・通報は、間違ってもかまわないことについて、全体的に8割前後の“認知度”となっている。
- ・神戸(85.0%)や丹波(83.6%)、阪神南(81.2%)で“認知度”が8割以上と高くなっている。
- ・特に、神戸では「知っている」が50.4%と半数を超えており、他の地域に比べて高くなっている。
- ・一方、“認知度”が比較的低かったのは、北播磨(75.0%)や淡路(75.7%)などであった。



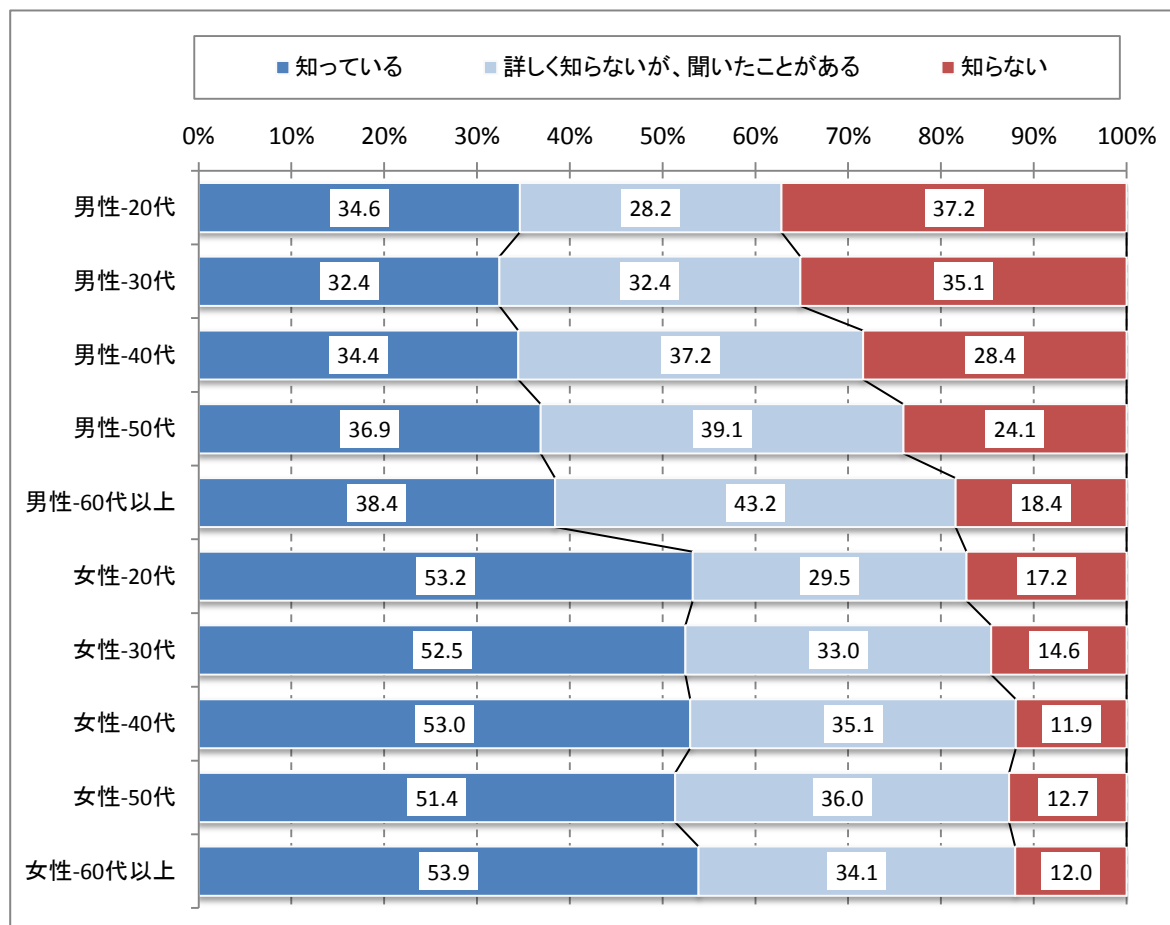
【性別】

- ・通報は、間違ってもかまわないことについて、“認知度”は男性(74.0%)よりも女性(86.7%)の方が高くなっている。
- ・特に、女性は「知っている」が52.7%と半数を超えており、男性(36.0%)と比べて高くなっている。



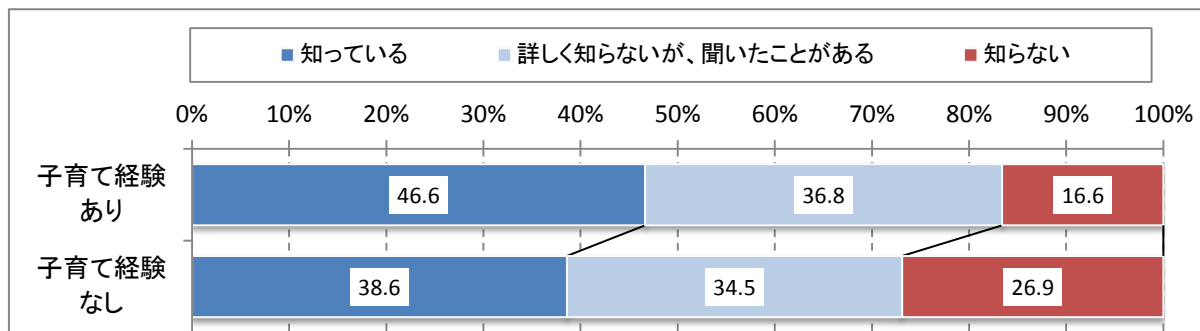
【性・年代別】

- ・男性は年代の高い層ほど“認知度”が高くなっており、男性20～30代で6割程度となっている“認知度”が、男性60代以上(81.6%)では8割以上と多くなっている。
- ・一方、女性は全年代で“認知度”が8割以上となっており、年代による差はあまりみられない。
- ・女性の中で最も低かった20代でも“認知度”は82.7%あり、男性で最も高かった60代以上の81.6%をも上回っている。



【子育ての経験別】

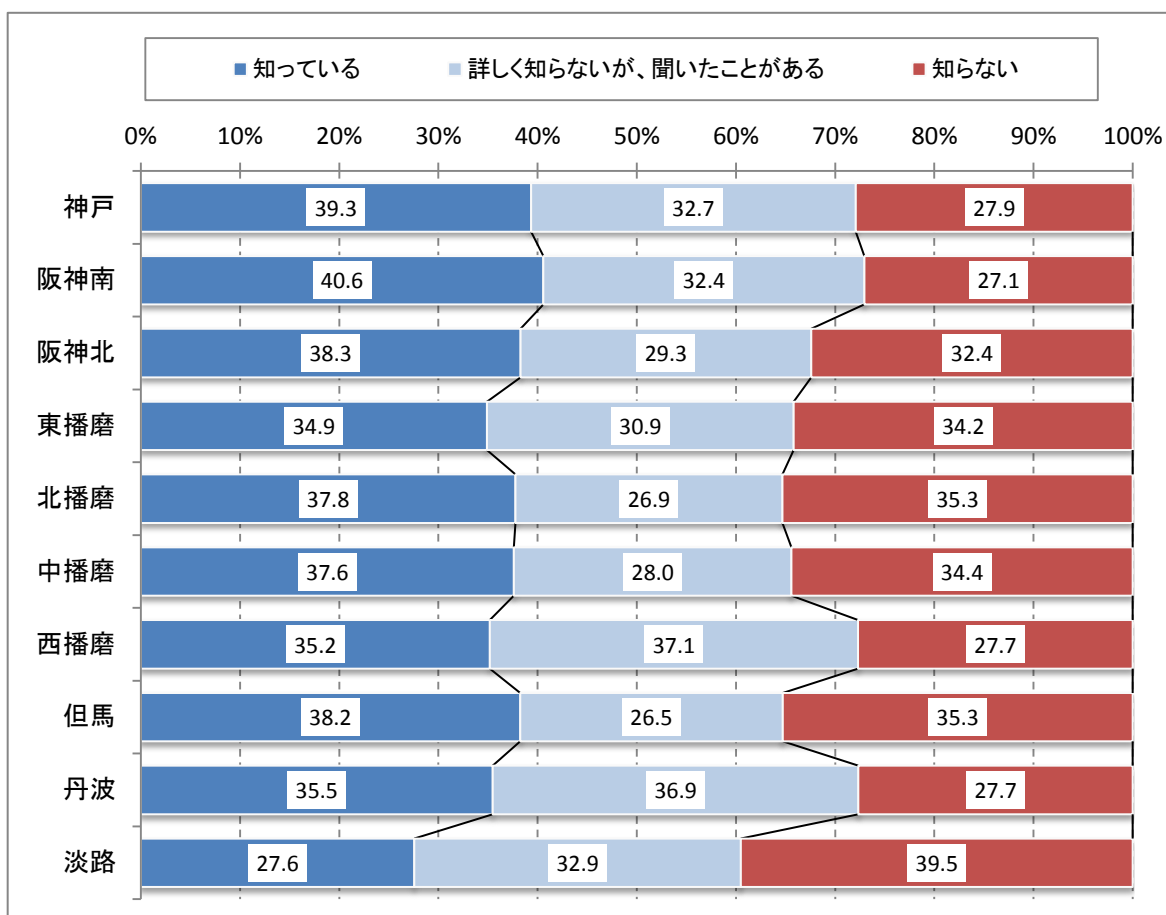
・通報は、間違ってもかまわないことについて、子育て経験がある人は“認知度”（83.4%）が8割以上となっており、子育て経験がない人（73.1%）と比べて高くなっている。



⑦ 通報・相談は匿名でも構わない

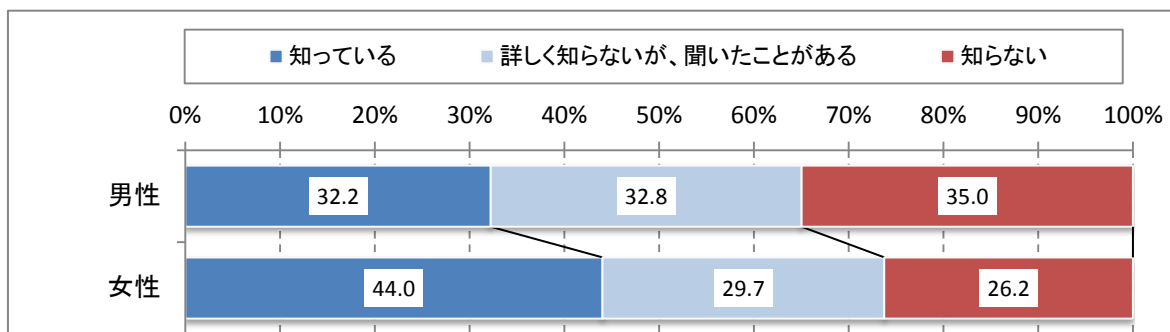
【地域別】

- ・通報・相談の匿名性について、全体的に6～7割の“認知度”となっている。
- ・阪神南(73.0%)、丹波(72.4%)、西播磨(72.3%)、神戸(72.0%)で“認知度”が7割以上と高くなっている。
- ・一方、淡路(60.5%)では“認知度”が比較的低く、認知している人は6割にとどまっている。



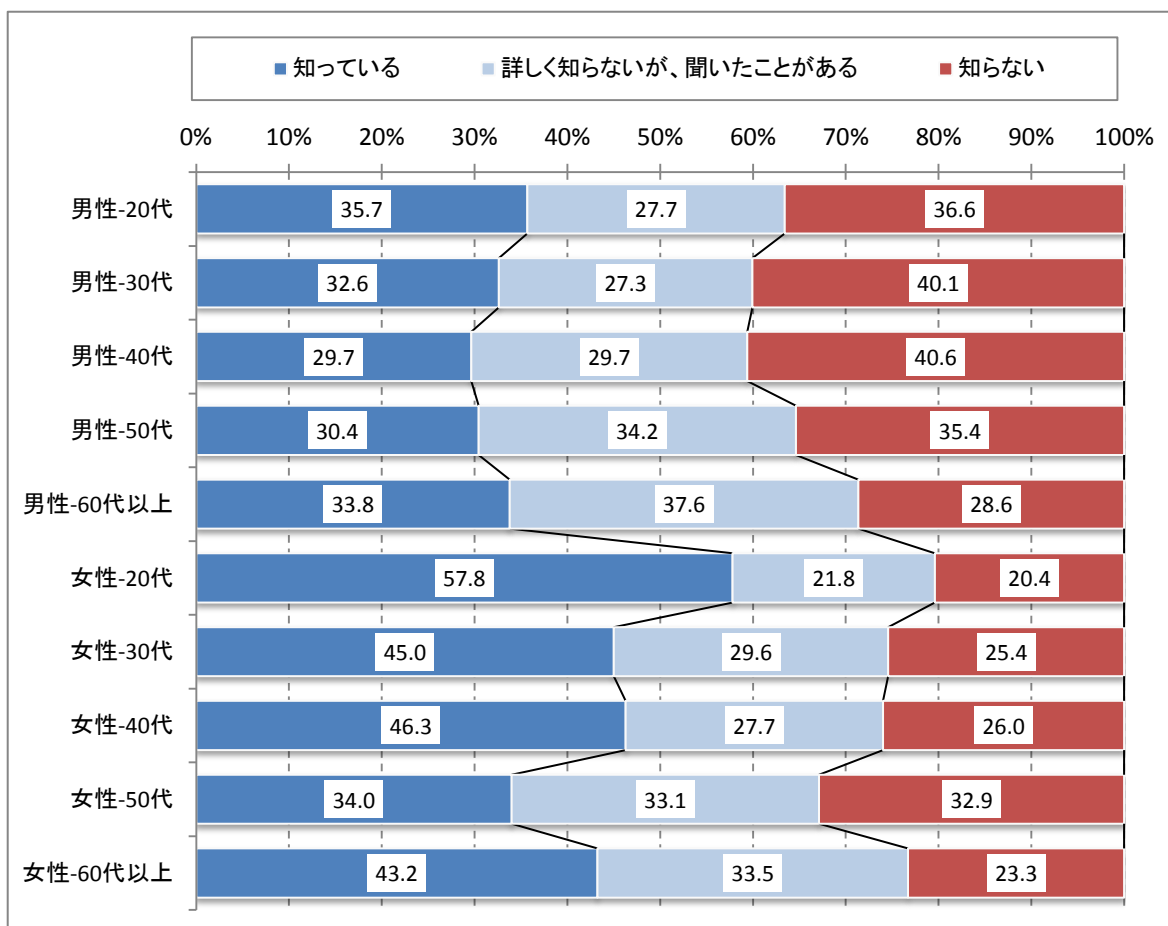
【性別】

- ・通報・相談の匿名性について、“認知度”は男性(65.0%)よりも女性(73.7%)の方がやや高くなっている。
- ・特に、女性は「知っている」(44.0%)が4割を超えており、男性(32.2%)よりも10ポイント以上高くなっている。



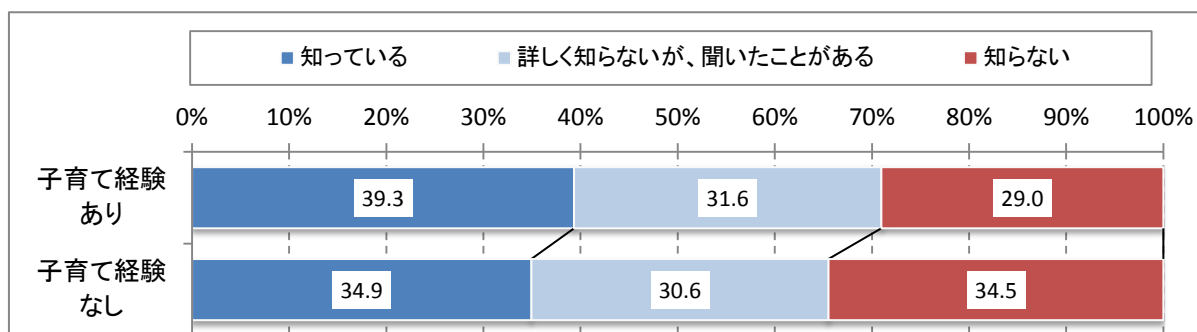
【性・年代別】

- ・女性20代で“認知度”が79.6%と最も高く、「知っている」も57.8%と半数を超えている。
- ・一方、男性30～40代は“認知度”が6割未満と他の層に比べて低く、「知らない」が4割を占めている。



【子育ての経験別】

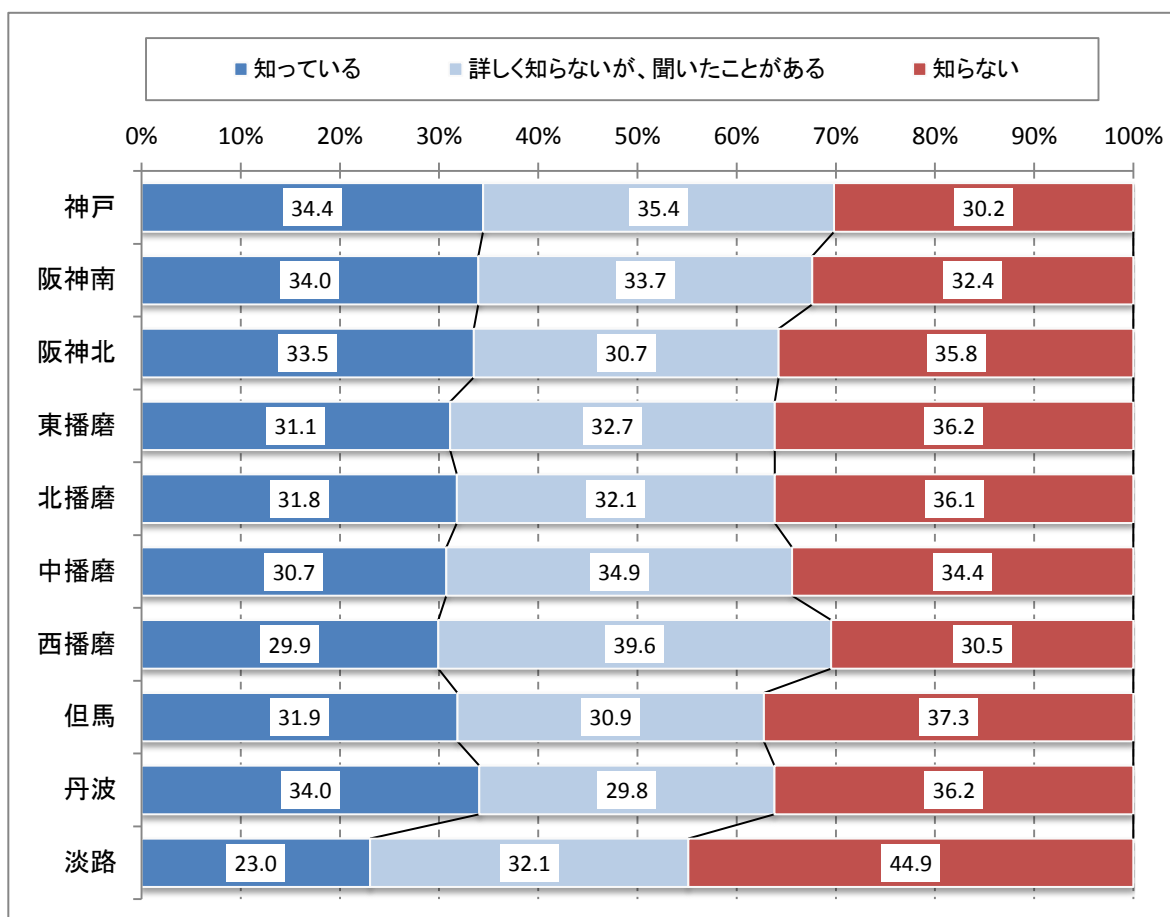
・通報・相談の匿名性について、子育て経験がある人は“認知度”（70.9%）が7割となっており、子育て経験がない人（65.5%）と比べてやや高くなっている。



⑧ 虐待を発見し、通報(通告)をした人の秘密は守られるので、誰が通報(通告)したか、相手方には知られない

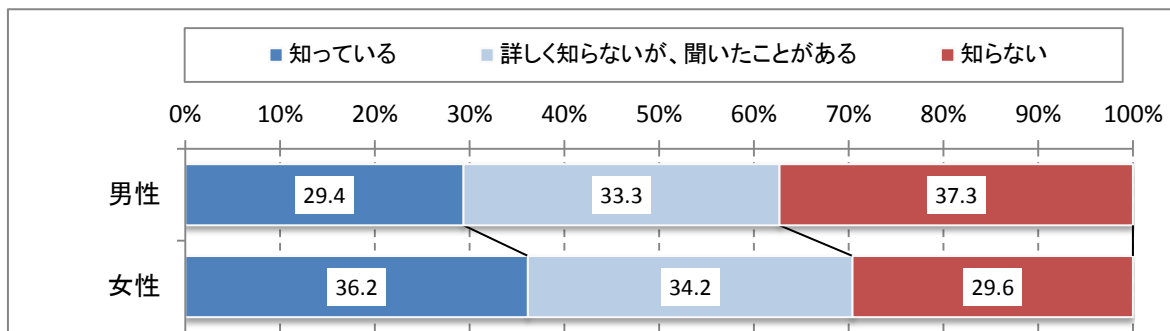
【地域別】

- ・通報(通告)した人の秘密厳守について、全体的に6~7割の“認知度”となっている。
- ・神戸(69.8%)や西播磨(69.5%)で“認知度”が約7割と高くなっている。
- ・一方、淡路(55.1%)では“認知度”が唯一5割台となっており、比較的低くなっている。



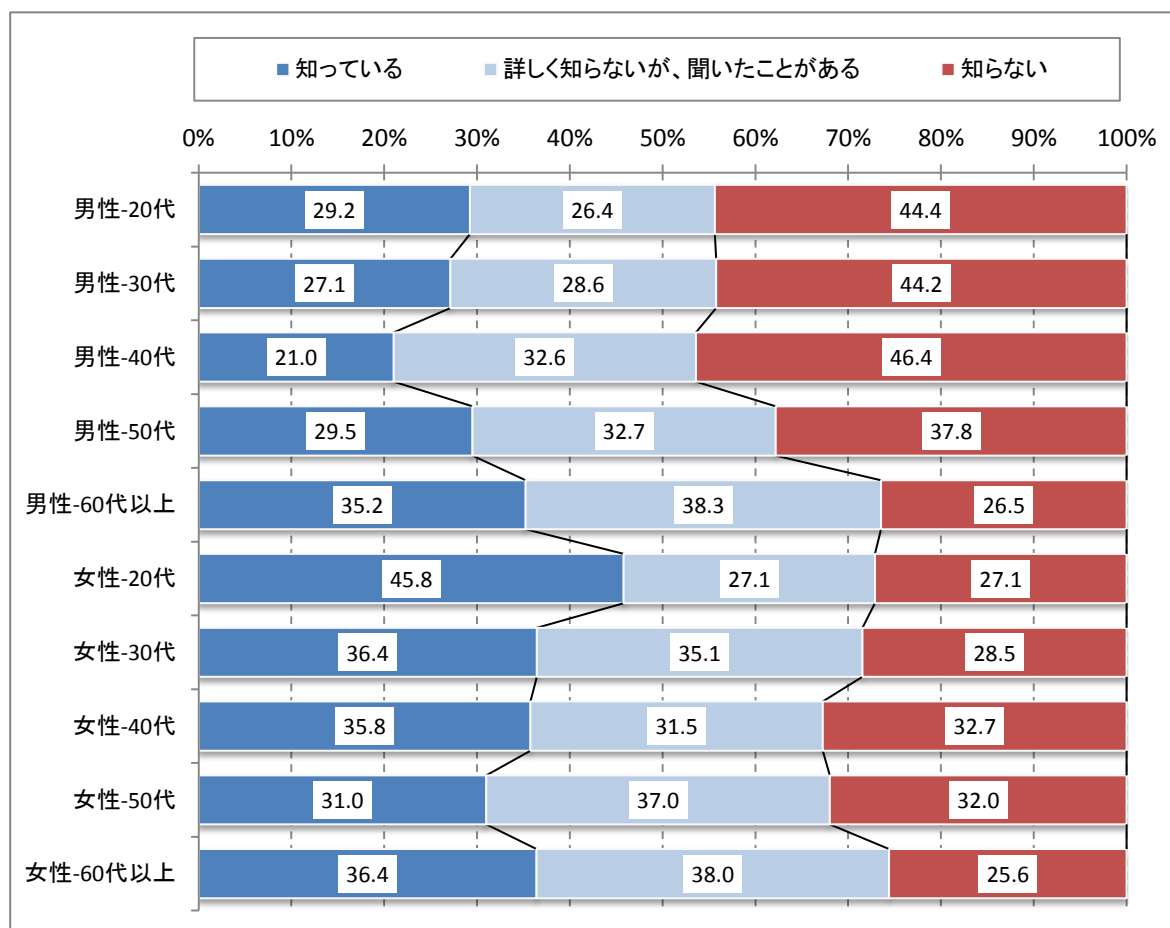
【性別】

・通報(通告)した人の秘密厳守について、“認知度”は男性(62.7%)よりも女性(70.4%)の方が高くなっている。



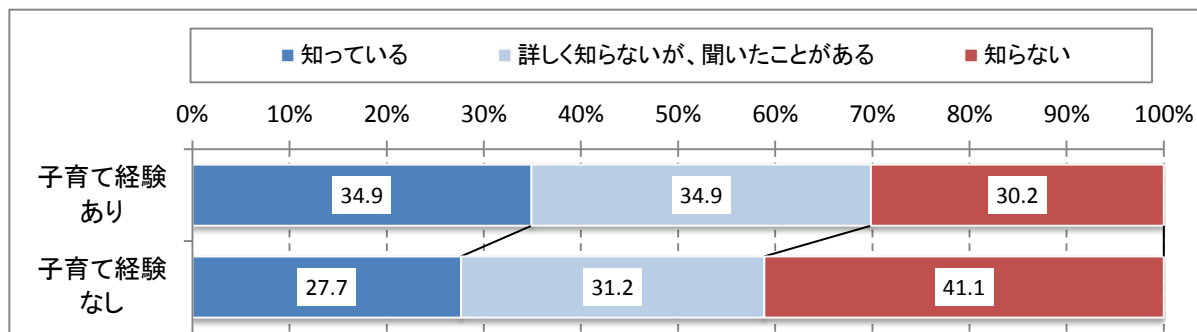
【性・年代別】

・女性20～30代と男女60代以上の“認知度”が7割以上となっており、高くなっている。
・特に、女性20代では「知っている」(45.8%)が4割を超えており、他の層に比べて多くなっている。
・一方、男性20～40代は“認知度”が5割台にとどまっておき、比較的低い。



【子育ての経験別】

・通報(通告)した人の秘密厳守について、子育て経験がある人は“認知度”(69.8%)が約7割となっており、子育て経験がない人(58.9%)と比べて高くなっている。



3.児童虐待の見聞、通報・相談について

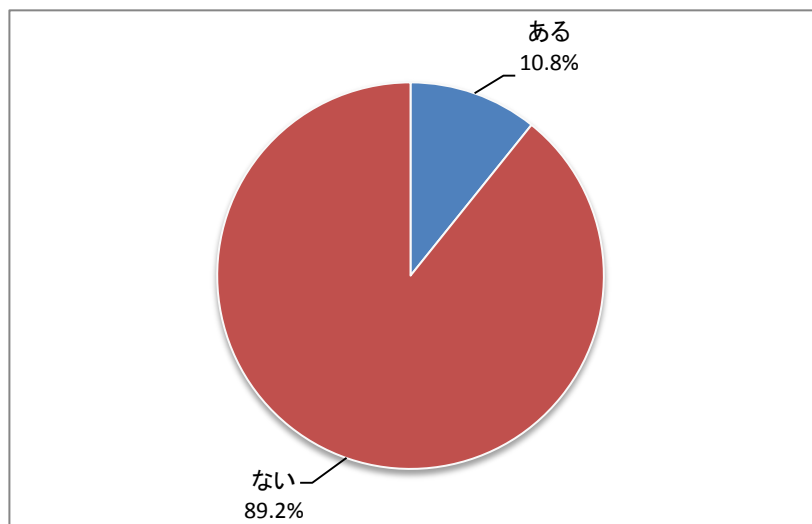
(1)身近なところでの児童虐待の有無

問13 身近なところで、児童虐待を受けていると思われる子どもを見たり、聞いたりしたことがありますか？

1. ある → 問14へ 2. ない → 問17へ

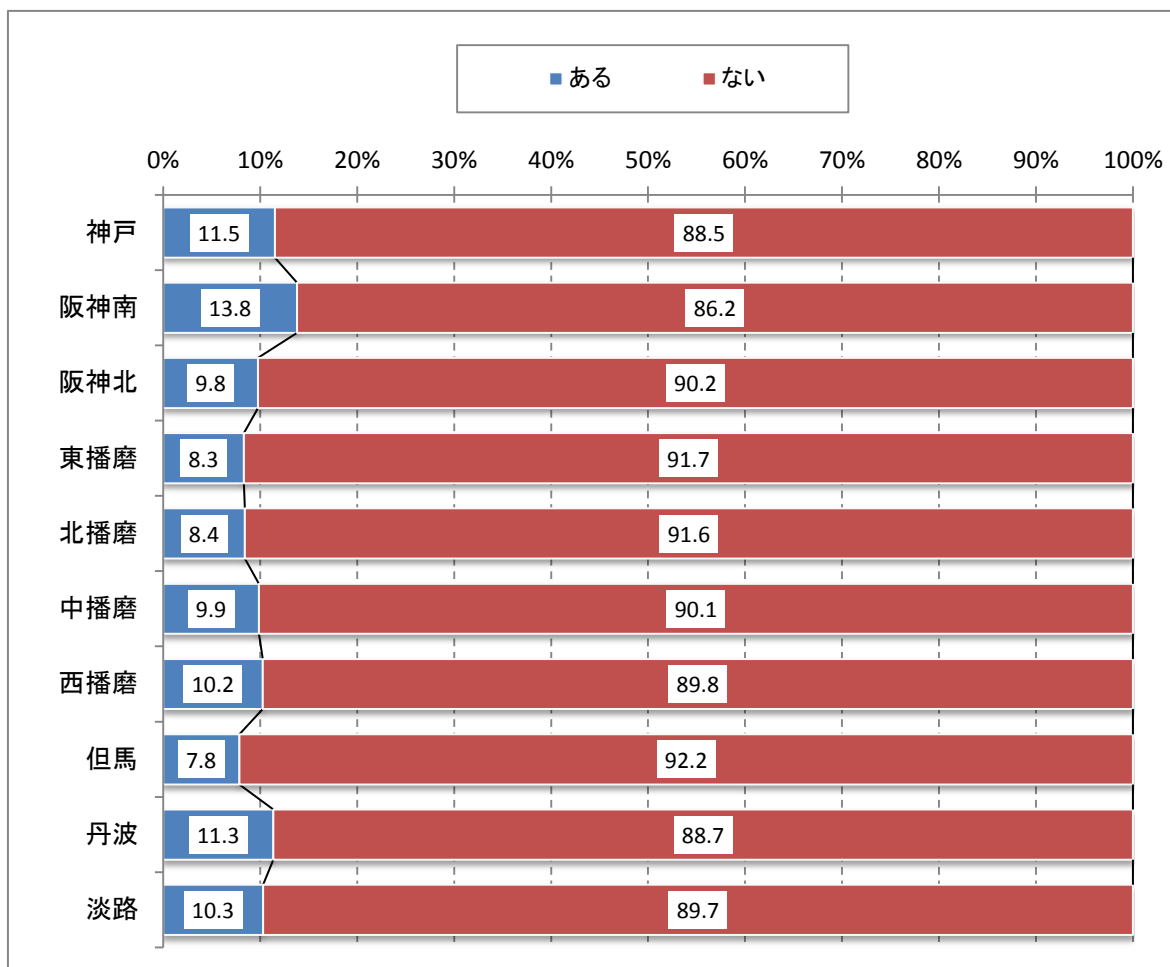
【全 県】

・身近なところで児童虐待を見たり、聞いたりしたことが「ある」(10.8%)と回答したのは全体の1割程度で、残りの約9割が「ない」(89.2%)と回答している。



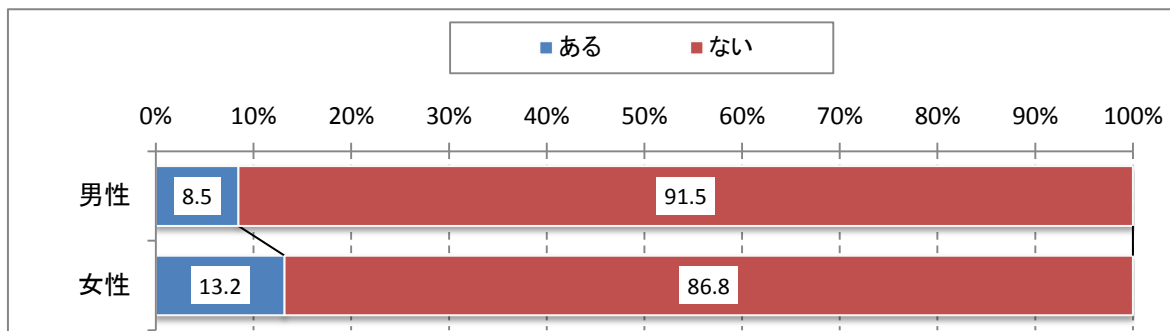
【地域別】

・阪神南で「ある」が13.8%と最も多くなっているが、他の地域も「ある」は1割前後となっており、地域間の差はあまりみられない。



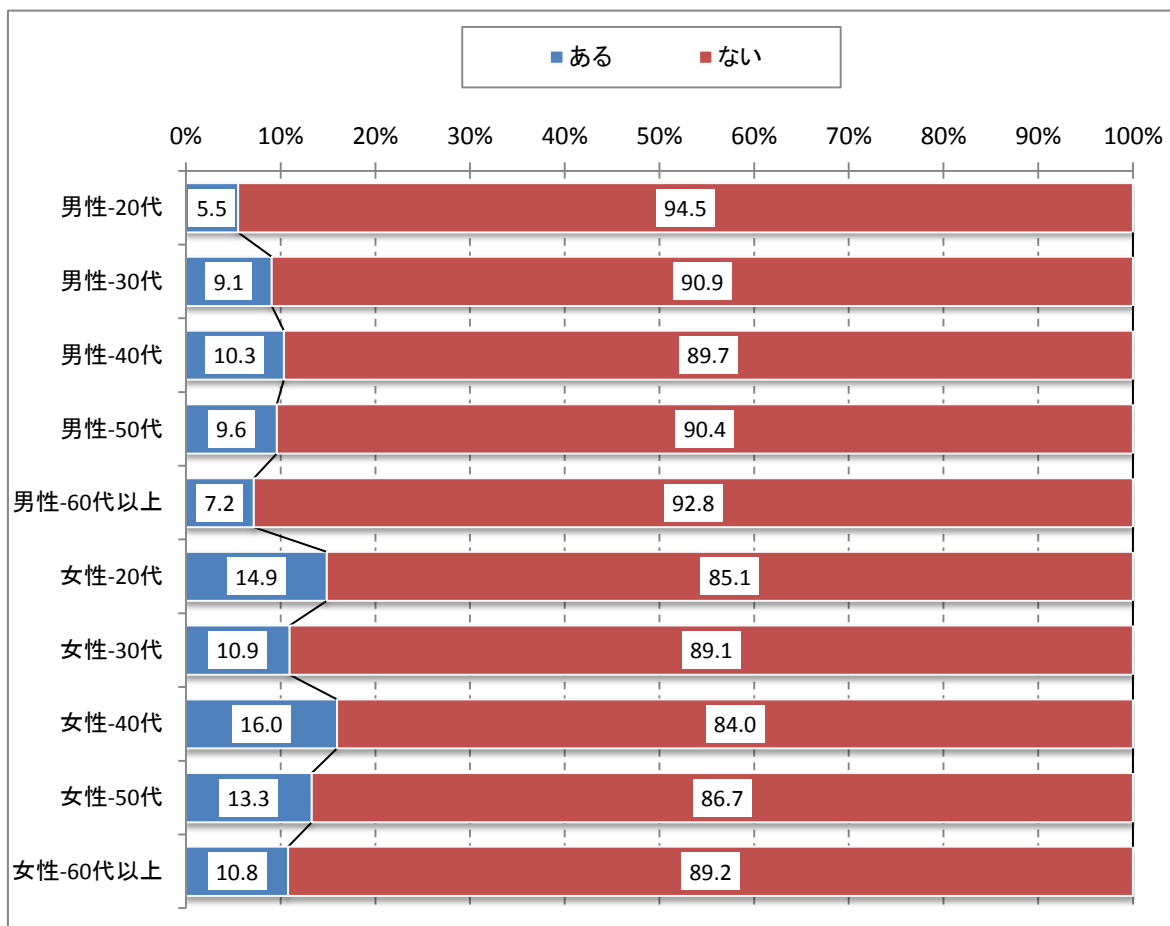
【性別】

・「ある」は男性(8.5%)よりも女性(13.2%)にやや多くみられる。



【性・年代別】

・「ある」は女性40代(16.0%)と女性20代(14.9%)などで他の層に比べて多くなっている。
・一方、男性20代は「ある」が5.5%と低い。



(2) 児童虐待の状況

※ 問13で「1. ある」を選択した人のみ回答

問14 児童虐待を受けていると思われる子どもを見たり、聞いたりしたとき、どのような状況でしたか？次の中からあてはまることをすべて選んでください。【複数回答可】

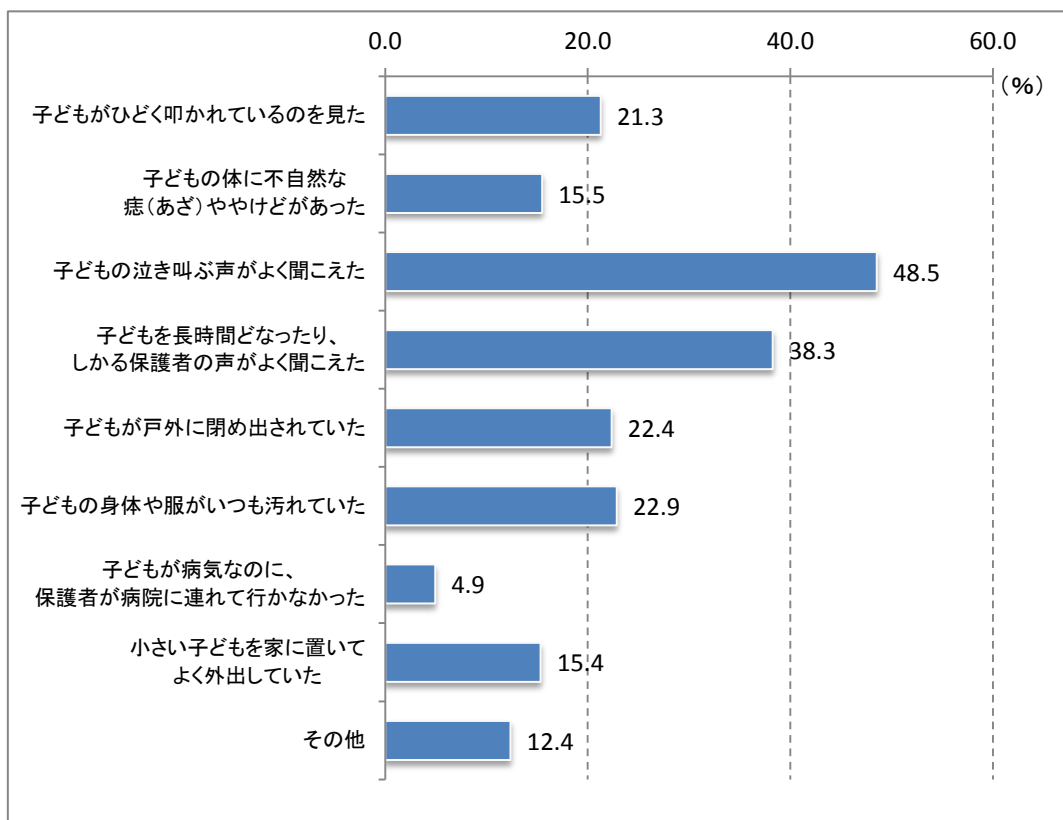
1. 子どもがひどく叩かれているのを見た
2. 子どもの体に不自然な痣(あざ)ややけどがあった
3. 子どもの泣き叫ぶ声がよく聞こえた
4. 子どもを長時間どなったり、しかる保護者の声がよく聞こえた
5. 子どもが戸外に閉め出されていた
6. 子どもの身体や服がいつも汚れていた
7. 子どもが病気なのに、保護者が病院に連れて行かなかった
8. 小さい子どもを家に置いてよく外出していた
9. その他

【全 県】

・児童虐待の状況をみると、最も多かったのは「子どもの泣き叫ぶ声がよく聞こえた」で48.5%、次いで「子どもを長時間どなったり、しかる保護者の声がよく聞こえた」が38.3%となっており、子どもや保護者の“声”によって気付くことが多くなっている。

・以下、「子どもの身体や服がいつも汚れていた」(22.9%)、「子どもが戸外に閉め出されていた」(22.4%)、「子どもがひどく叩かれているのを見た」(21.3%)などがほぼ並んで多くなっている。

・「その他」(12.4%)には「児童の行動・様子からそう感じた(家に帰りがらない、児童から相談を受けた、親に過剰に気を遣う)」(9件)、「食事を与えていない」(9件)、「学校へ行かせない」(5件)などがあげられている。



【地域別】

・阪神南で「子どもの泣き叫ぶ声がよく聞こえた」が63.5%と最も多くなっている。
 ・一方、但馬では「子どもの泣き叫ぶ声がよく聞こえた」が18.8%と比較的少なく、「子どもがひどく叩かれているのを見た」と「子どもの体に不自然な痣(あざ)ややけどがあった」(ともに31.3%)が他の地域に比べて多くなっている。

(複数回答・%)

	子どもがひどく叩かれているのを見た	子どもの体に不自然な痣(あざ)ややけどがあった	子どもの泣き叫ぶ声がよく聞こえた	子どもを長時間どなり、しかる保護者の声がよく聞こえた	子どもが戸外に閉め出されていた	子どもの身体や服がいつも汚れていた	子どもが病院内に連れて行かなかった	小さい子どもを家に置いてよく外出していた	その他
神戸	22.2	19.4	50.0	49.1	26.9	29.6	5.6	15.7	11.1
阪神南	17.3	11.5	63.5	32.7	15.4	15.4	1.9	15.4	9.6
阪神北	25.7	5.7	48.6	31.4	25.7	17.1	2.9	8.6	8.6
東播磨	23.9	15.2	39.1	37.0	21.7	28.3	2.2	15.2	26.1
北播磨	19.4	19.4	51.6	38.7	9.7	9.7	9.7	16.1	19.4
中播磨	16.3	16.3	39.5	37.2	30.2	34.9	7.0	20.9	4.7
西播磨	24.3	27.0	27.0	24.3	13.5	13.5	5.4	10.8	13.5
但馬	31.3	31.3	18.8	37.5	25.0	25.0	18.8	18.8	25.0
丹波	25.0	18.7	25.0	25.0	25.0	6.2	6.2	12.5	18.7
淡路	20.0	4.0	44.0	40.0	24.0	24.0	16.0	28.0	16.0

【性別／性・年代別】

・男性60代以上は「子どもの泣き叫ぶ声がよく聞こえた」が66.8%となっており、他の層よりも多くみられる。

・一方、男性20代は「子どもがひどく叩かれているのを見た」が48.3%と最も多くなっている。

(複数回答・%)

	子どもがひどく叩かれているのを見た	子どもの体(あざ)ややけどがあった	子どもの泣き叫ぶ声がよく聞こえた	子どもを長時間どなり、しかる保護者の声がよく聞こえた	子どもが戸外に閉め出されていた	子どもの身体や服がいつも汚れていた	子どもが病気に、保護者が病院に連れて行かなかった	小さい子どもを家に置いてよく外出していた	その他
男性	25.1	16.3	50.0	34.8	20.5	19.3	6.0	10.4	6.7
女性	18.7	14.9	47.6	40.6	23.6	25.3	4.2	18.7	16.2
男性-20代	48.3	20.0	38.5	33.6	22.4	17.5	14.9	8.9	19.6
男性-30代	28.2	8.1	40.0	29.4	37.7	22.5	4.2	20.2	5.3
男性-40代	15.8	25.6	43.8	30.8	7.9	23.3	12.7	11.4	5.4
男性-50代	30.3	15.6	46.2	35.2	31.8	18.8	2.6	9.6	9.7
男性-60代以上	21.6	13.0	66.8	41.3	11.0	14.8	2.4	4.8	3.3
女性-20代	15.2	24.3	44.0	26.5	17.7	19.7	4.1	10.8	15.6
女性-30代	23.7	21.2	43.5	37.1	21.4	23.0	11.2	23.9	20.1
女性-40代	23.6	13.3	50.0	41.4	25.5	25.9	2.2	22.8	13.5
女性-50代	13.6	11.7	49.8	48.1	31.9	31.0	4.7	14.7	11.8
女性-60代以上	14.8	8.3	47.0	43.8	15.7	23.2	0.0	18.2	23.8

(3) 児童虐待への対応

※ 問13で「1. ある」を選択した人のみ回答

問15 児童虐待を受けていると思われる子どもを見たり、聞いたりしたとき、どのような対応をしましたか？次の中からあてはまることをすべて選んでください。【複数回答可】

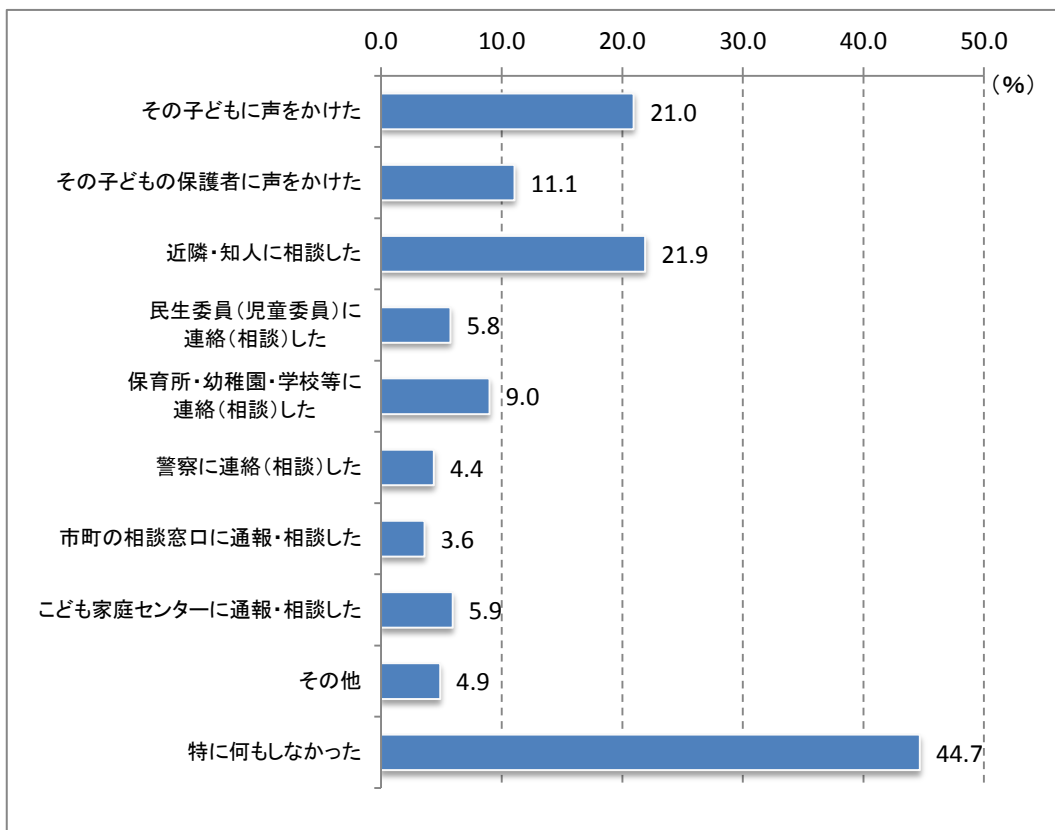
1. その子どもに声をかけた
2. その子どもの保護者に声をかけた
3. 近隣・知人に相談した
4. 民生委員(児童委員)に連絡(相談)した
5. 保育所・幼稚園・学校等に連絡(相談)した
6. 警察に連絡(相談)した
7. 市町の相談窓口に通報・相談した
8. こども家庭センターに通報・相談した
9. その他
10. 特に何もしなかった

【全 県】

・児童虐待を見たり、聞いたりした時の対応をみると、「特に何もしなかった」が44.7%と最も多くなっている。

・具体的な対応をした人の中では、「近隣・知人に相談した」(21.9%)、「その子どもに声をかけた」(21.0%)、「その子どもの保護者に声をかけた」(11.1%)が上位にあげられており、周囲や当事者に声をかけて対応した人が多くみられる。

・行政・関係機関への相談は全体的に少ないが、その中では「保育所・幼稚園・学校等に連絡(相談)した」が9.0%と多くなっている。



【地域別】

- ・阪神北は「特に何もしなかった」(54.3%)が半数以上と多くなっている。
- ・一方、中播磨は「特に何もしなかった」が32.6%と比較的少なくなっている。
- ・中播磨は「その子どもに声をかけた」(30.2%)、但馬は「警察に連絡(相談)した」と「こども家庭センターに通報・相談した」(ともに18.8%)、丹波では「近隣・知人に相談した」(31.2%)、淡路では「その子どもの保護者に声をかけた」(32.0%)が他の地域に比べて多くなっている。

(複数回答・%)

	その子どもに声をかけた	その子どもの保護者に声をかけた	近隣・知人に相談した	民生委員(児童委員)に連絡(相談)した	保育所・幼稚園・学校等に連絡(相談)した	警察に連絡(相談)した	市町の相談窓口に通報・相談した	こども家庭センターに通報・相談した	その他	特に何もしなかった
神戸	21.3	13.0	23.1	4.6	13.0	2.8	2.8	6.5	6.5	44.4
阪神南	17.3	7.7	25.0	5.8	5.8	3.8	1.9	3.8	7.7	46.2
阪神北	22.9	8.6	14.3	2.9	5.7	5.7	2.9	2.9	2.9	54.3
東播磨	21.7	8.7	19.6	8.7	6.5	2.2	4.3	10.9	0.0	45.7
北播磨	16.1	6.5	19.4	0.0	12.9	0.0	12.9	3.2	3.2	41.9
中播磨	30.2	14.0	27.9	9.3	14.0	14.0	4.7	7.0	2.3	32.6
西播磨	18.9	18.9	16.2	10.8	5.4	0.0	5.4	5.4	2.7	40.5
但馬	18.8	6.3	12.5	6.3	6.3	18.8	6.3	18.8	0.0	43.8
丹波	18.7	6.2	31.2	0.0	6.2	0.0	0.0	0.0	6.2	43.7
淡路	20.0	32.0	16.0	12.0	4.0	0.0	8.0	8.0	8.0	44.0

【性別／性・年代別】

- ・男女とも30代以下の若い層を中心に「特に何もしなかった」が多くみられる。
- ・男女とも50代は「特に何もしなかった」が比較的少なく、女性50代は「近隣・知人に相談した」が他の層に比べて多くなっている。

(複数回答・%)

	その子どもに声をかけた	その子どもの保護者に声をかけた	近隣・知人に相談した	民生委員(児童委員)に連絡(相談)した	保育所・幼稚園・学校等に連絡(相談)した	警察に連絡(相談)した	市町の相談窓口に通報・相談した	通報・相談した	子ども家庭センターに	その他	特に何もしなかった
男性	22.1	10.6	17.1	8.5	8.2	5.9	4.1	8.1	1.9	49.5	
女性	20.2	11.4	25.2	3.9	9.5	3.3	3.3	4.5	6.9	41.4	
男性-20代	28.4	22.4	0.0	8.9	8.9	14.9	8.9	14.9	5.1	60.4	
男性-30代	16.3	9.5	26.4	9.4	15.5	4.2	6.2	11.2	0.0	56.2	
男性-40代	23.6	13.6	12.9	9.8	8.1	0.0	0.0	11.4	0.0	47.1	
男性-50代	19.9	7.0	26.0	5.7	5.2	9.4	7.3	7.6	1.0	39.6	
男性-60代以上	24.7	9.3	11.1	9.4	6.8	7.0	2.4	2.4	4.8	54.1	
女性-20代	20.0	9.6	14.9	0.0	7.6	4.1	5.5	0.0	5.5	44.9	
女性-30代	15.6	2.0	15.2	0.0	9.0	3.7	5.7	9.9	13.6	49.9	
女性-40代	24.1	9.3	29.2	5.3	15.3	1.2	1.2	4.0	1.5	46.0	
女性-50代	17.6	16.2	34.3	3.1	7.1	3.3	2.3	2.0	8.3	29.9	
女性-60代以上	21.4	19.7	23.7	9.7	4.4	6.2	4.2	7.2	9.1	37.8	

【子育ての経験別】

- ・子育て経験がない人の半数以上が「特に何もしなかった」(54.8%)と回答しており、子育て経験がある人(41.1%)と比べて多くなっている。

(複数回答・%)

	その子どもに声をかけた	その子どもの保護者に声をかけた	近隣・知人に相談した	民生委員(児童委員)に連絡(相談)した	保育所・幼稚園・学校等に連絡(相談)した	警察に連絡(相談)した	市町の相談窓口に通報・相談した	通報・相談した	子ども家庭センターに	その他	特に何もしなかった
子育ての経験あり	22.9	11.9	26.1	7.4	9.6	5.1	4.0	4.9	3.6	41.1	
子育ての経験なし	15.4	8.9	10.3	1.1	7.2	2.4	2.5	8.7	8.6	54.8	

(4) 何も対応しなかった理由

※ 問15で「10. 特に何もしなかった」を選択した人のみ回答

問16 何もしなかった理由として思い当たることはどれですか？

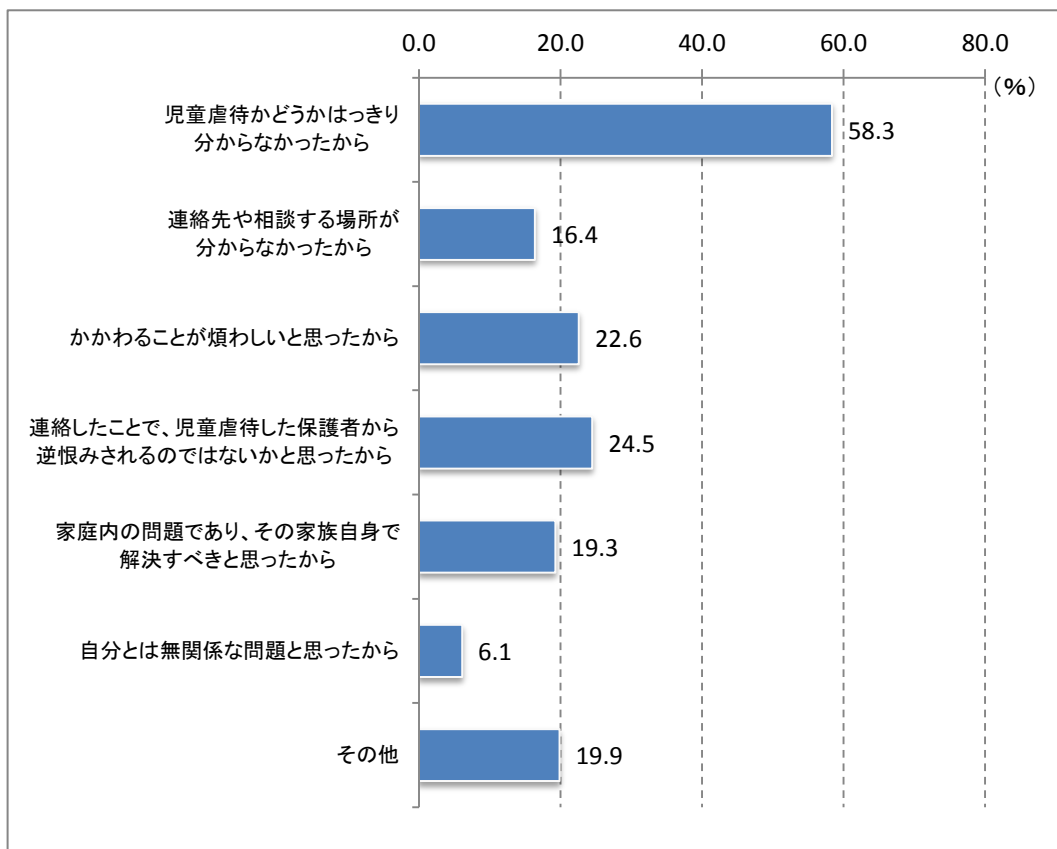
次の中からあてはまることをすべて選んでください。【複数回答可】

1. 児童虐待かどうかはつきり分からなかったから
2. 連絡先や相談する場所が分からなかったから
3. かかわることが煩わしいと思ったから
4. 連絡したことで、児童虐待した保護者から逆恨みされるのではないかと思ったから
5. 家庭内の問題であり、その家族自身で解決すべきと思ったから
6. 自分とは無関係な問題と思ったから
7. その他

【全 県】

・前問の“特に何もしなかった”理由として、「児童虐待かどうかはつきり分からなかったから」が58.3%と最も多く、以下、「連絡したことで、児童虐待した保護者から逆恨みされるのではないかと思ったから」(24.5%)、「かかわることが煩わしいと思ったから」(22.6%)、「家庭内の問題であり、その家族自身で解決すべきと思ったから」(19.3%)と続いている。

・「その他」(19.9%)には、「学校・幼稚園等が対応していると思ったから」(5件)、「保護されるなど、解消されていたから」(4件)、「自分が虐待を受けていたから」、「知らない人だったので」、「すでに行政・関係機関等に通報されていたので」、「近隣のため通報者が自分だとバレてしまうため」、「話を聞いていただけだったから」(いずれも3件)などがあげられている。



【地域別】

・北播磨では「児童虐待かどうかはつきり分からなかったから」が76.9%となっており、他の地域に比べて多くなっている。

・一方、但馬では「児童虐待かどうかはつきり分からなかったから」が28.6%と比較的少なくなっている。

・また、但馬の「その他」(42.9%)の内訳として、「お母さんが友達だったから」、「すでに行政のサポートを受けていたから」、「虐待している本人だから」がそれぞれ1件ずつあげられていた。

(複数回答・%)

	分児童虐待かどうかはつきり	分連絡先や相談する場所が	思わなかったことが煩わしいと	のしでたは保たないかと思つたから	連絡したことで、児童虐待	思つた家族の問題で、決すべきと	自分とは無関係な問題と	その他	不明
神戸	56.2	22.9	29.2	29.2	27.1	8.3	20.8	2.1	
阪神南	62.5	16.7	20.8	20.8	12.5	4.2	16.7	0.0	
阪神北	57.9	10.5	31.6	26.3	26.3	5.3	15.8	0.0	
東播磨	57.1	19.0	14.3	28.6	19.0	4.8	23.8	0.0	
北播磨	76.9	15.4	7.7	23.1	15.4	0.0	15.4	0.0	
中播磨	64.3	0.0	21.4	21.4	0.0	7.1	21.4	0.0	
西播磨	46.7	20.0	20.0	26.7	13.3	13.3	26.7	0.0	
但馬	28.6	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3	42.9	0.0	
丹波	57.1	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	0.0	
淡路	54.5	27.3	0.0	27.3	18.2	0.0	9.1	0.0	

【性別／性・年代別】

・性別では、男性は「かかわることが煩わしいと思ったから」(31.3%)や「家庭内の問題であり、その家族自身で解決すべきと思ったから」(25.1%)などで、女性よりも多くなっている。

・性・年代別でみると、男女とも20代は「かかわることが煩わしいと思ったから」が多く、特に男性20代では52.9%と半数を超えている。

・男性30代は「児童虐待かどうかははっきり分らなかったから」(72.4%)、男性60代以上は「家庭内の問題であり、その家族自身で解決すべきと思ったから」(47.0%)が比較的多くなっている。

(複数回答・%)

	分 か ら な か っ た う か ら は っ き り	分 連 か 絡 先 な や か 相 談 す る 場 所 が	思 か つ た わ か ら な か っ た う か ら は っ き り	の し で は な い か ら 思 っ た か ら	連 絡 し た こ と で 、 逆 恨 み さ れ る	思 っ た か ら 家 庭 内 の 自 身 で 解 決 す べ き と	思 自 分 と は 無 関 係 な 問 題 と	そ の 他	不 明
男性	56.6	18.6	31.3	26.3	25.1	10.6	19.1	0.0	
女性	59.7	14.6	15.5	23.0	14.6	2.5	20.5	1.1	
男性-20代	36.7	22.4	52.9	0.0	14.3	14.3	18.5	0.0	
男性-30代	72.4	12.6	31.1	34.5	21.8	9.1	3.5	0.0	
男性-40代	56.0	16.6	23.9	31.5	6.1	0.0	29.1	0.0	
男性-50代	36.1	13.8	20.7	19.1	20.2	17.5	20.8	0.0	
男性-60代以上	65.9	25.7	38.8	28.7	47.0	13.9	19.8	0.0	
女性-20代	56.5	13.6	33.8	24.2	18.2	3.4	31.8	0.0	
女性-30代	63.8	0.0	9.1	18.2	16.4	0.0	14.3	5.5	
女性-40代	62.4	22.5	15.9	27.9	13.2	3.3	19.5	0.0	
女性-50代	59.7	7.6	13.4	31.6	11.9	5.3	14.1	0.0	
女性-60代以上	51.3	25.6	7.5	7.5	15.0	0.0	27.1	0.0	

【子育ての経験別】

・子育て経験の有無にかかわらず、「児童虐待かどうかはつきり分からなかったから」が最も多くなっている。

・子育て経験がある人は、次いで「連絡したことで、児童虐待した保護者から逆恨みされるのではないかと思ったから」(23.8%)、「家庭内の問題であり、その家族自身で解決すべきと思ったから」(20.3%)、「かかわることが煩わしいと思ったから」(18.1%)が続く。

・一方、子育て経験がない人は、次いで「かかわることが煩わしいと思ったから」(31.9%)、「連絡したことで、児童虐待した保護者から逆恨みされるのではないかと思ったから」(26.0%)、「連絡先や相談する場所が分からなかったから」(17.7%)の順に多くなっている。

(複数回答・%)

	分児童虐待かどうかはつきり	分連絡先や相談する場所が	思わなかったことが煩わしいと	のし連絡したことで、児童虐待される	思つたから家庭内自身で解決すべきと	思つたから無関係な問題と	その他	不明
子育ての経験あり	60.5	15.7	18.1	23.8	20.3	5.9	22.2	0.0
子育ての経験なし	53.9	17.7	31.9	26.0	17.1	6.6	14.9	1.9

(5) 仮に児童虐待を見たり、聞いたりした場合の対応

※ 問13で「1. ない」を選択した人のみ回答

問17 もし、児童虐待を受けたと思われる子どもを見たり、聞いたりしたら、どのような対応をしますか？次の中からあてはまることをすべて選んでください。【複数回答可】

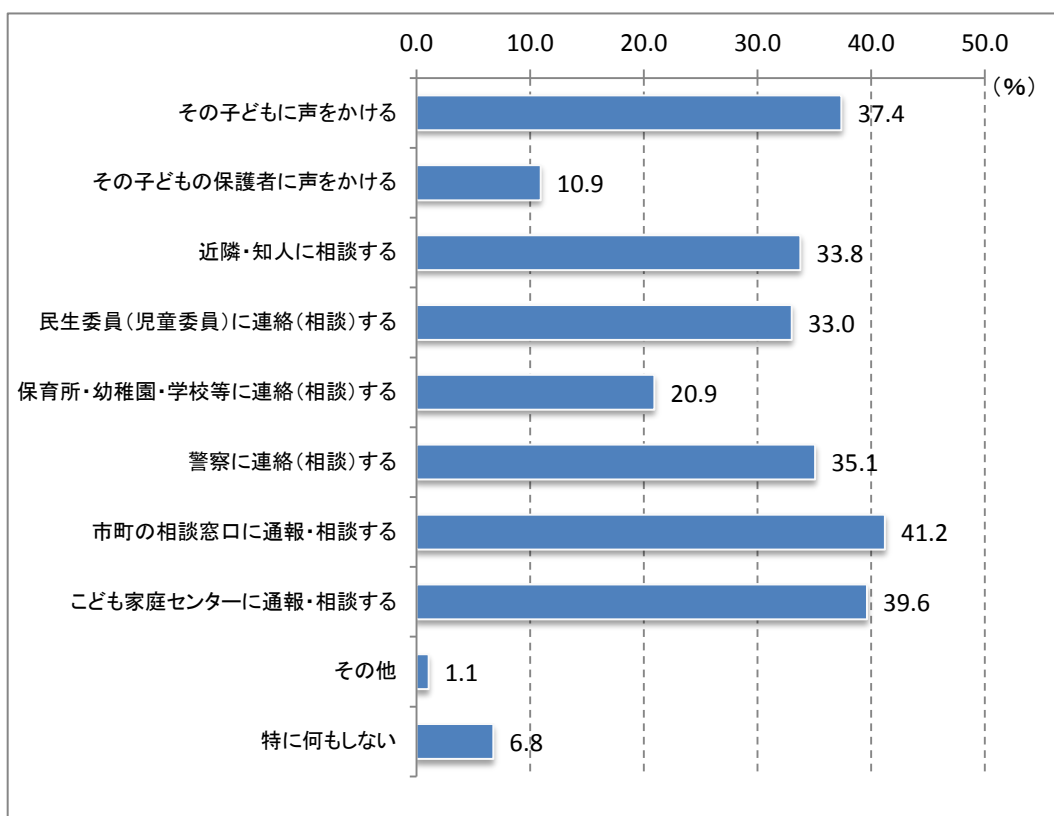
1. その子どもに声をかける
2. その子どもの保護者に声をかける
3. 近隣・知人に相談する
4. 民生委員（児童委員）に連絡（相談）する
5. 保育所・幼稚園・学校等に連絡（相談）する
6. 警察に連絡（相談）する
7. 市町の相談窓口に通報・相談する
8. こども家庭センターに通報・相談する
9. その他
10. 特に何もしない

【全 県】

・今まで身近に児童虐待がなかった人に対して、仮に児童虐待を見たり、聞いたりした場合にとる対応を聞いたところ、「市町の相談窓口に通報・相談する」（41.2%）と「こども家庭センターに通報・相談する」（39.6%）といった行政・関係機関への相談が上位にあがっている。

・次いで「その子どもに声をかける」（37.4%）、「警察に連絡（相談）する」（35.1%）、「近隣・地人に相談する」（33.8%）、「民生委員（児童委員）に連絡（相談）する」（33.0%）などもほぼ並んで多くなっている。

・一方、「特に何もしない」（6.8%）は1割未満と少なく、何らかの対応を考えている人が多い。



【地域別】

・神戸・阪神間を中心に「警察に連絡(相談)する」や「子ども家庭センターに通報・相談する」が多くなっている。

・丹波では「近隣・知人に相談する」(39.2%)が比較的多くなっている。

(複数回答・%)

	その子どもに声をかける	その子どもの保護者に声をかける	近隣・知人に相談する	民生委員(児童委員)に連絡(相談)する	保育所・幼稚園・学校等に連絡(相談)する	警察に連絡(相談)する	市町の相談窓口に通報・相談する	子ども家庭センターに通報・相談する	その他	特に何もしない	不明
神戸	40.6	12.8	34.1	31.9	19.8	40.1	42.0	43.4	1.0	6.5	0.5
阪神南	36.6	9.8	27.1	36.3	18.8	38.8	43.7	44.0	0.6	6.2	0.0
阪神北	39.0	9.9	35.0	27.6	21.4	35.3	44.3	41.2	1.5	5.9	0.0
東播磨	37.7	13.2	35.5	31.4	19.9	32.5	36.9	33.3	1.8	7.9	1.0
北播磨	31.2	10.1	33.2	33.8	24.0	26.4	45.1	39.2	1.2	7.4	0.0
中播磨	33.8	8.9	37.7	34.9	24.2	34.4	37.4	35.6	0.5	7.9	0.3
西播磨	32.7	8.0	37.0	38.6	25.0	27.2	40.1	33.3	0.6	6.8	0.3
但馬	36.2	9.0	34.6	38.3	23.4	23.9	38.8	36.2	1.6	8.0	0.0
丹波	38.4	12.0	39.2	37.6	25.6	24.0	40.8	37.6	1.6	4.0	0.0
淡路	35.3	9.2	35.3	27.5	17.0	26.1	34.4	28.9	1.4	7.3	0.0

【性別／性・年代別】

- ・性別では、男性は「警察に連絡(相談)する」(43.1%)、女性は「近隣・知人に相談する」(44.5%)が最も多くなっている。
- ・性・年代別で見ると、男性の60代以上で「警察に連絡(相談)する」(52.0%)が半数以上と他の層に比べて多くなっている。一方で、20～30代は「特に何もしない」が比較的多くなっている。
- ・女性は30代を中心に「近隣・知人に相談する」が多くなっている。
- ・男女とも60代以上で「民生委員(児童委員)に連絡(相談)する」が5割前後となっており、比較的多くなっている。

(複数回答・%)

	その子どもに声をかける	その子どもの保護者に声をかける	近隣・知人に相談する	民生委員(児童委員)に連絡(相談)する	保育所(幼稚園・学校等に連絡(相談)する	警察に連絡(相談)する	市町の相談窓口に通報・相談する	子ども家庭センターに通報・相談する	その他	特に何もしない	不明
男性	38.5	14.8	24.0	33.6	19.7	43.1	40.4	37.2	0.9	8.7	0.3
女性	36.2	6.6	44.5	32.4	22.3	26.2	42.0	42.3	1.2	4.6	0.3
男性-20代	30.3	8.3	27.1	26.7	15.8	37.4	30.6	37.3	0.5	18.4	0.0
男性-30代	35.1	8.2	19.8	23.8	13.3	36.5	37.7	38.6	0.7	13.8	0.0
男性-40代	35.0	13.4	28.0	27.2	18.1	35.9	37.8	31.1	1.0	9.7	0.0
男性-50代	43.0	12.5	20.5	28.5	18.0	42.6	37.1	33.8	1.1	8.2	0.6
男性-60代以上	41.5	22.0	25.0	46.8	25.5	52.0	48.1	42.2	1.0	3.5	0.5
女性-20代	36.2	5.8	44.4	31.0	23.4	23.1	43.3	49.6	0.3	5.2	0.5
女性-30代	29.6	6.0	56.9	19.5	23.4	18.6	36.0	43.6	0.9	5.3	0.3
女性-40代	38.9	6.7	45.3	26.5	22.6	23.3	41.0	40.8	1.8	6.5	0.5
女性-50代	38.2	5.8	37.5	34.7	20.4	32.2	45.5	42.2	1.6	2.5	0.0
女性-60代以上	37.3	8.4	39.1	50.5	22.4	32.6	44.8	38.8	1.0	3.8	0.3

【子育ての経験別】

・子育て経験がある人は「その子どもに声をかける」(39.7%)、「近隣・知人に相談する」(35.3%)、「民生委員(児童委員)に連絡(相談)する」(34.7%)、「保育所・幼稚園・学校等に連絡(相談)する」(23.8%)などが子育て経験がない人に比べて多くなっている。

・一方、子育て経験がない人は「市町の相談窓口に通報・相談する」(42.6%)、「こども家庭センターに通報・相談する」(40.6%)、「警察に連絡(相談)する」(36.6%)が子育て経験がある人よりも多くなっている。

・また、「特に何もしない」も子育て経験がない人の方が多くなっている。

(複数回答・%)

	その子どもに声をかける	その子どもの保護者に声をかける	近隣・知人に相談する	民生委員(児童委員)に連絡(相談)する	保育所・幼稚園・学校等に連絡(相談)する	警察に連絡(相談)する	市町の相談窓口に通報・相談する	こども家庭センターに通報・相談する	その他	特に何もしない	不明
子育ての経験あり	39.7	12.5	35.3	34.7	23.8	34.4	40.6	39.2	1.1	4.2	0.3
子育ての経験なし	32.2	7.4	30.3	29.2	14.5	36.6	42.6	40.6	1.1	12.3	0.3

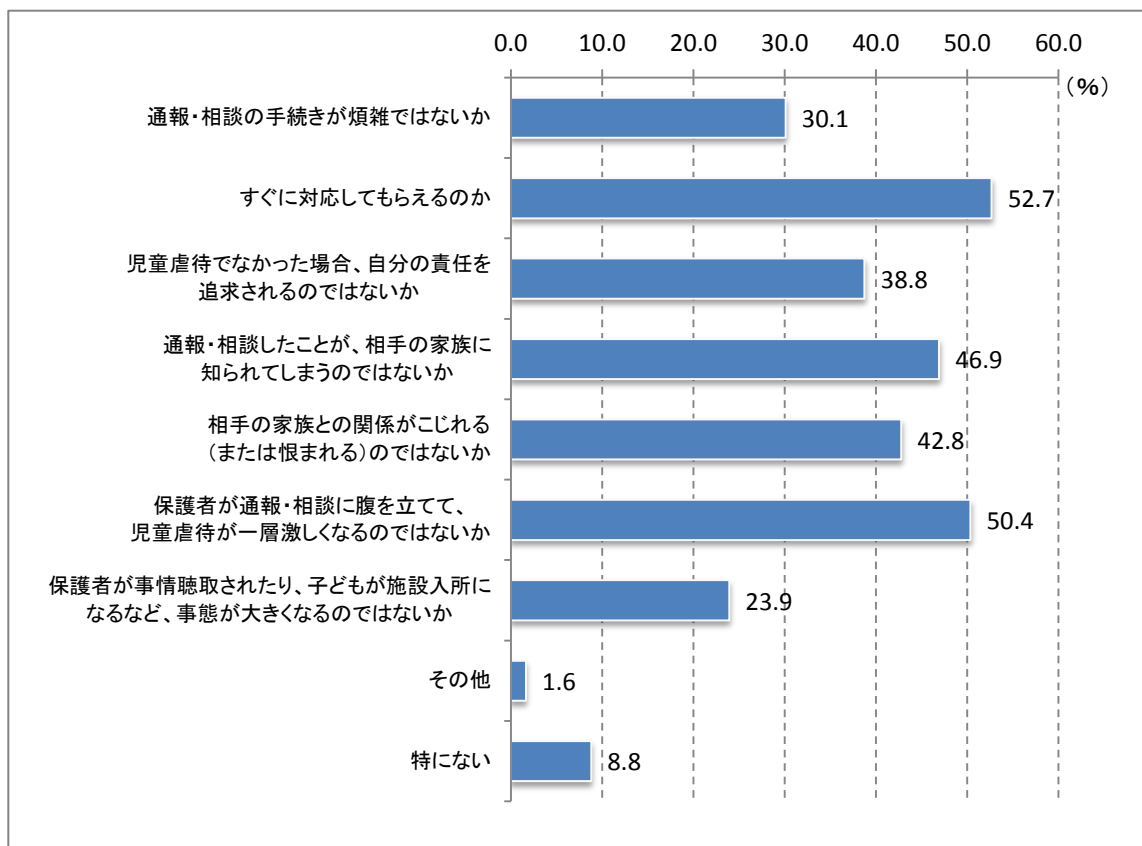
(6) 児童虐待を通報・相談する場合に不安に思うこと

問18 もし、児童虐待を受けたと思われる子どもを見たり、聞いたりして、市町や子ども家庭センター等に通報・相談する場合、不安に思うことはどのようなことですか？
次の中からあてはまることをすべて選んでください。【複数回答可】

1. 通報・相談の手続きが煩雑ではないか
2. すぐに対応してもらえるのか
3. 児童虐待でなかった場合、自分の責任を追求されるのではないか
4. 通報・相談したことが、相手の家族に知られてしまうのではないか
5. 相手の家族との関係がこじれる(または恨まれる)のではないか
6. 保護者が通報・相談に腹を立てて、児童虐待が一層激しくなるのではないか
7. 保護者が事情聴取されたり、子どもが施設入所になるなど、事態が大きくなるのではないか
8. その他
9. 特にない

【全 県】

・通報・相談に関して不安に思うことは、「すぐに対応してもらえるのか」(52.7%)と「保護者が通報・相談に腹を立てて、児童虐待が一層激しくなるのではないか」(50.4%)がともに半数を超えており、通報・相談することによって虐待が本当にすぐに止められるのかといった不安が多くなっている。
・次いで「通報・相談したことが、相手の家族に知られてしまうのではないか」(46.9%)、「相手の家族との関係がこじれる(または恨まれる)のではないか」(42.8%)、「児童虐待でなかった場合、自分の責任を追及されるのではないか」(38.8%)が続いており、自分と相手との関係に影響が及ぶと不安に思う声も多くなっている。



【地域別】

・東播磨では「通報・相談したことが、相手の家族に知られてしまうのではないか」が51.5%と半数を超えて最も多くなっている。

・但馬は「すぐに対応してもらえるのか」は45.1%と他の地域に比べて低く、「相手の家族との関係がこじれる(または恨まれる)のではないか」が48.5%と比較的多くなっている。

(複数回答・%)

	通報・相談の手続きが 煩雑ではないか	すぐに対応してもらえるのか	自分虐待でなかつた場合、 ないか	児童虐待でなかつた場合、 ないか	家族に知られたら、 通報・相談したことが、 家族に知られてしまうのか	（相手の家族との関係がこじれる か）	立て続けに通報・相談に 激しい者がいるか	保護者が通報・相談に 対応して、 保護者が大きくなるか	子どもが施設に入所した り、 保護者が施設に入所した り、 その他	特 に な い
神戸	32.8	55.3	37.4	49.0	40.7	53.8	23.7	1.3	7.4	
阪神南	28.4	57.8	38.2	41.9	41.1	50.4	25.2	2.1	9.8	
阪神北	25.4	51.1	39.9	46.1	41.6	50.0	20.1	3.4	9.2	
東播磨	28.4	47.4	37.3	51.5	46.7	49.5	23.5	0.9	8.3	
北播磨	29.3	50.5	39.4	47.0	43.8	48.4	26.4	1.4	9.5	
中播磨	35.8	52.1	42.9	47.9	44.0	45.2	25.9	1.4	8.9	
西播磨	27.4	48.5	40.4	45.7	44.9	49.0	24.1	0.8	9.7	
但馬	27.0	45.1	36.8	47.1	48.5	51.5	22.5	1.0	12.7	
丹波	34.8	50.4	39.7	43.3	47.5	50.4	28.4	1.4	6.4	
淡路	29.2	47.3	39.5	42.0	41.6	44.0	23.9	1.6	10.7	

【性別／性・年代別】

- ・性別では、概ねどの項目も女性の方が回答割合が高くなっており、関心の高さがうかがえる。
- ・性・年代別で見ると、女性50代以下では「保護者が通報・相談に腹を立てて、児童虐待が一層激しくなるのではないか」が6割前後と最も多くなっている。
- ・また、女性30～40代では「児童虐待でなかった場合、自分の責任を追及されるのではないか」や「通報・相談したことが、相手の家族に知られてしまうのではないか」、「相手の家族との関係がこじれる(または恨まれる)のではないか」なども他の層に比べて多くなっている。

(複数回答・%)

	通報・相談の手続きが煩雑ではないか	すぐに対応してもらえないのか	児童虐待でなかった場合、自分の責任を追及されるのではないか	家族に知られたことが、相手の通報・相談したことが、相手の家族に知られてしまうのではないか	（相手の家族との関係がこじれるのではないか	立て、児童虐待が一層激しくなるのではないか	保護者が大きく通報・相談に腹を立て、児童虐待が一層激しくなるのではないか	子どもが施設に入所したなど、保護者が事情聴取に取られたり、事柄が聞き取れないなど、事態が大きく入所したなど、保護者が事情聴取に取られたり、事柄が聞き取れないなど、	その他	特になし
男性	30.6	52.3	33.9	42.5	39.2	42.1	17.7	1.8	11.6	
女性	29.6	53.1	43.8	51.5	46.5	59.0	30.5	1.5	5.9	
男性-20代	33.2	48.4	37.6	34.0	36.3	44.2	15.7	2.5	15.6	
男性-30代	33.1	55.9	35.0	38.4	35.8	36.3	14.9	0.7	12.7	
男性-40代	31.7	47.5	33.8	45.8	43.6	41.8	17.7	1.3	11.4	
男性-50代	29.9	46.3	32.2	41.6	38.8	40.6	18.4	2.8	13.2	
男性-60代以上	28.7	58.7	33.5	43.4	39.4	43.3	19.0	1.7	9.1	
女性-20代	32.5	54.2	47.8	49.3	45.3	59.2	31.8	2.0	6.6	
女性-30代	32.2	50.5	49.7	55.0	53.8	63.4	34.5	2.4	5.9	
女性-40代	31.4	53.2	45.9	56.7	50.4	60.6	32.6	1.2	4.2	
女性-50代	27.7	53.2	37.7	48.8	43.0	58.1	27.3	1.2	4.9	
女性-60代以上	25.0	54.5	40.0	46.1	38.9	53.6	26.6	1.0	8.6	

4. オレンジリボンキャンペーンについて

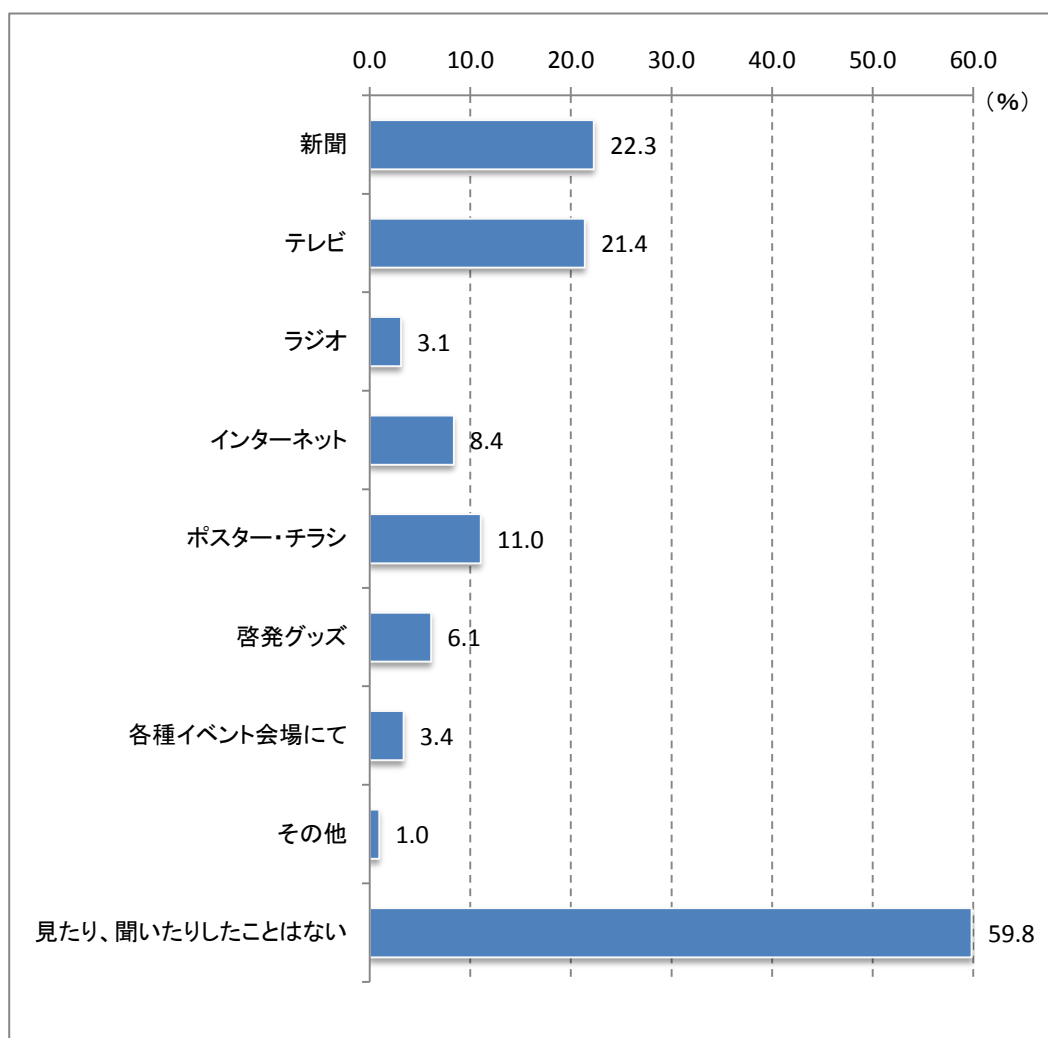
(1) オレンジリボンキャンペーンを見たり、聞いたりした媒体

問19 県や市では、児童虐待に関する社会的関心を高めるため、市町や関係・協力団体と連携しながら集中的な広報・啓発活動(オレンジリボンキャンペーン)を実施しています。オレンジリボンキャンペーンの取り組みについて、見たり、聞いたりしたことがある媒体をすべて選んでください。【複数回答可】

- | | | |
|--------|-------------|--------------------|
| 1. 新聞 | 4. インターネット | 7. 各種イベント会場にて |
| 2. テレビ | 5. ポスター・チラシ | 8. その他 |
| 3. ラジオ | 6. 啓発グッズ | 9. 見たり、聞いたりしたことはない |

【全 県】

・オレンジリボンキャンペーンの取り組みについて、「見たり、聞いたりしたことはない」(59.8%)が全体の約6割を占めて最も多くなっている。
・具体的に見たり、聞いたりしたとしてあげられた媒体では、「新聞」(22.3%)、「テレビ」(21.4%)、「ポスター・チラシ」(11.0%)、「インターネット」(8.4%)、「啓発グッズ」(6.1%)などの順に多くなっている。



【地域別】

- ・神戸は「新聞」(29.0%)、西播磨は「テレビ」(26.3%)が他の地域に比べて多くなっている。
- ・また、「啓発グッズ」は丹波(12.8%)、但馬(10.8%)、東播磨(10.1%)などで比較的多い。

(複数回答・%)

	新聞	テレビ	ラジオ	インターネット	ポスター・チラシ	啓発グッズ	各種イベント会場にて	その他	見たりこりは聞いたり
神戸	29.0	20.1	3.2	8.8	11.2	5.1	3.6	0.6	56.4
阪神南	18.3	22.3	2.9	8.2	10.9	4.5	1.3	1.1	61.5
阪神北	19.6	24.9	2.5	7.0	10.3	4.7	3.9	1.4	60.9
東播磨	24.1	20.4	3.4	8.7	12.5	10.1	6.3	0.7	58.2
北播磨	18.5	20.1	3.0	8.2	10.6	6.5	3.3	0.8	63.3
中播磨	21.3	19.5	2.5	9.6	11.2	6.0	2.5	0.9	63.3
西播磨	20.5	26.3	3.3	8.6	9.7	5.3	2.5	1.4	57.6
但馬	11.3	18.6	1.5	6.9	9.3	10.8	3.4	2.5	65.2
丹波	13.5	19.1	6.4	7.1	14.2	12.8	4.3	0.0	61.7
淡路	18.9	21.4	6.6	7.0	9.5	5.8	2.5	0.8	63.0

【性別／性・年代別】

- ・性別では、男女間であまり大きな差はみられない。
- ・性・年代別でみると、男性は50代以上は「新聞」が最も多く、特に60代以上では「新聞」(33.1%)が3割を超えている。
- ・一方、男性20代では「テレビ」(21.3%)が最も多く、また20～30代では「インターネット」も比較的多くなっている。
- ・女性は50代以上は「新聞」と「テレビ」がほぼ並んで多く、40代以下は「テレビ」が最も多くなっている。
- ・また、女性30代では「ポスター・チラシ」(15.7%)、「啓発グッズ」(11.1%)、40代でも「ポスター・チラシ」(14.4%)が他の層に比べて多くなっている。

(複数回答・%)

	新聞	テレビ	ラジオ	インターネット	ポスター・チラシ	啓発グッズ	各種イベント会場にて	その他	見たり、聞いたり
男性	24.5	20.4	3.5	9.5	9.8	5.4	2.9	0.9	60.4
女性	20.0	22.4	2.7	7.2	12.3	6.9	3.9	1.0	59.3
男性-20代	12.9	21.3	4.7	13.4	6.8	1.8	1.7	1.4	64.6
男性-30代	17.6	16.2	2.3	13.2	10.5	5.6	2.1	0.0	62.7
男性-40代	18.5	18.8	2.0	8.1	7.6	5.4	4.0	0.4	64.9
男性-50代	26.4	20.2	3.8	10.7	8.0	4.2	2.5	0.9	59.1
男性-60代以上	33.1	23.2	4.4	6.7	12.9	7.1	3.1	1.4	56.3
女性-20代	13.2	19.0	2.5	7.9	11.0	5.4	4.4	1.1	65.4
女性-30代	15.1	21.7	2.7	8.2	15.7	11.1	3.6	0.7	55.5
女性-40代	21.2	23.4	3.1	7.6	14.4	6.1	4.1	1.1	58.5
女性-50代	20.4	19.7	2.2	6.1	7.5	5.2	2.0	1.5	62.3
女性-60代以上	27.1	27.0	2.8	6.6	12.5	6.5	5.8	0.7	57.0

(2)「オレンジリボンはばタン」の認知度

問20 兵庫県では、県の児童虐待防止のシンボルマークとして、「オレンジリボンはばタン」を作成し、広報・啓発に取り組んでいます。

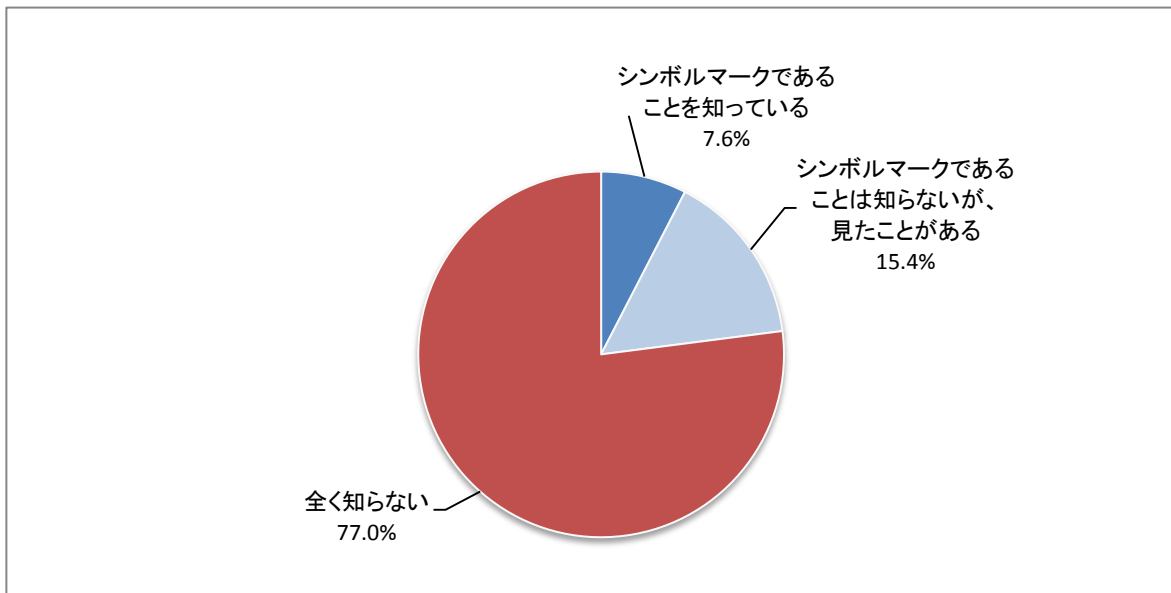
「オレンジリボンはばタン」が、県の児童虐待防止のシンボルマークであることを知っていますか？

1. シンボルマークであることを知っている
2. シンボルマークであることは知らないが、見たことがある
3. 全く知らない



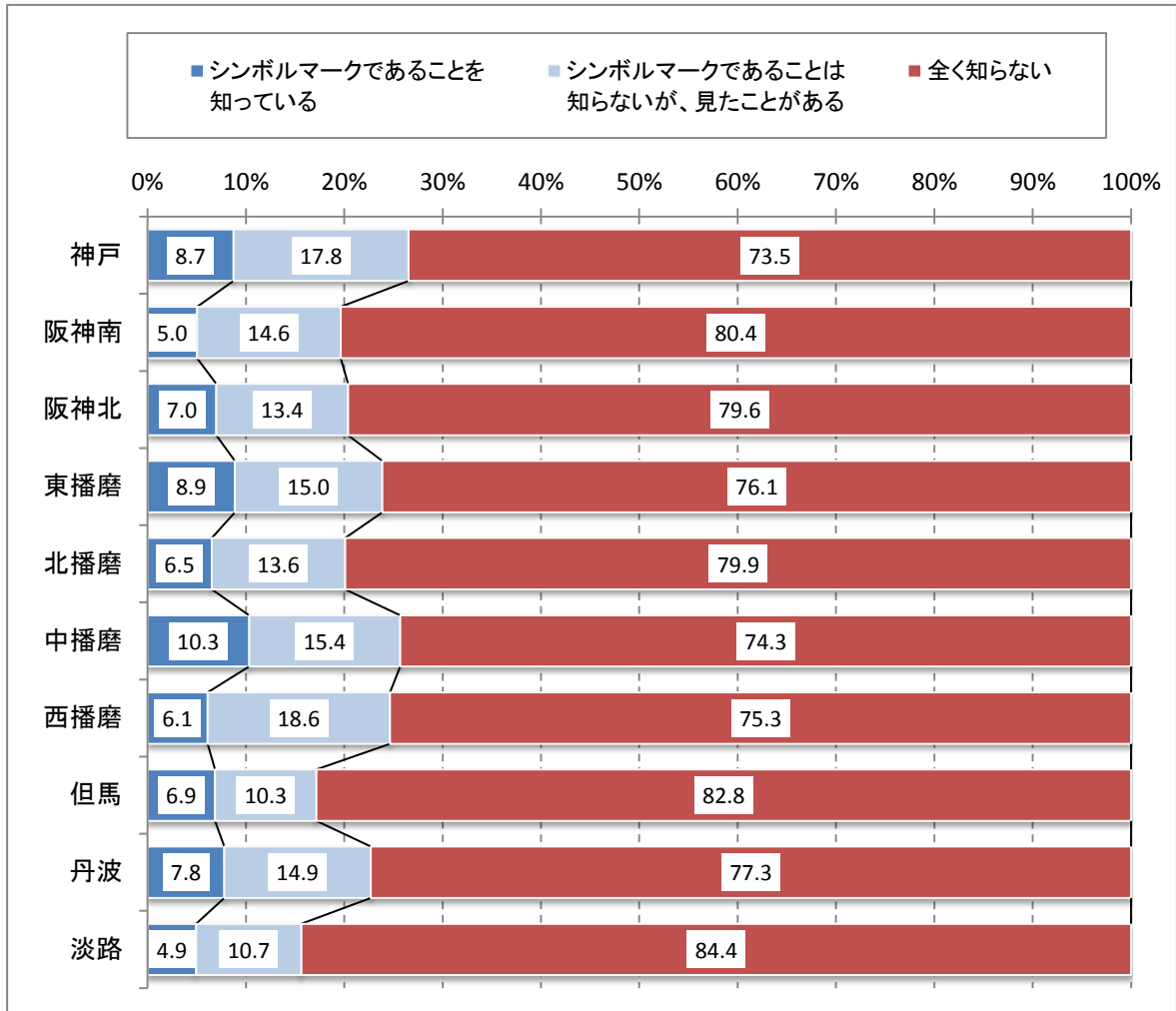
【全 県】

・「オレンジリボンはばタン」について、「シンボルマークであることを知っている」が7.6%、「シンボルマークであることは知らないが、見たことがある」が15.4%となっており、「オレンジリボンはばタン」の“認知度”（「—知っている」+「—見たことがある」）はあわせて23.0%であった。



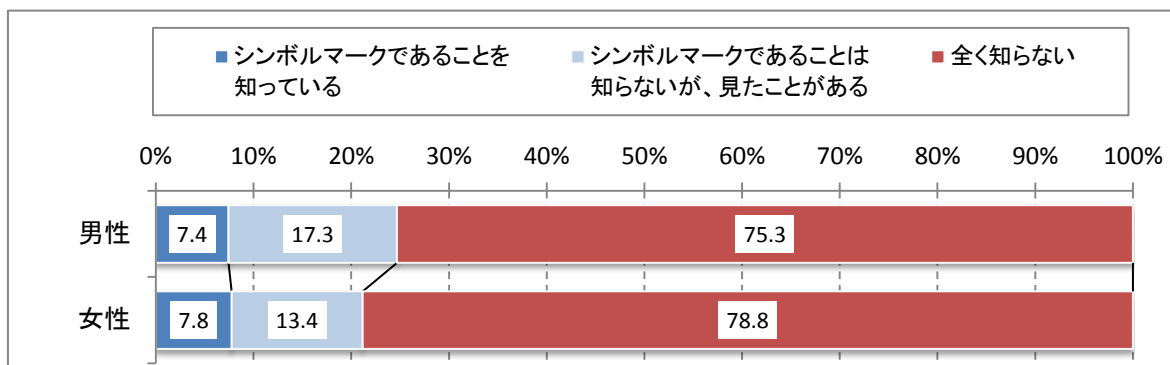
【地域別】

- ・「オレンジリボンはばタン」の“認知度”が最も高かったのは、神戸で26.5%となっている。
- ・一方、“認知度”が比較的低かったのは、淡路(15.6%)と但馬(17.2%)であった。



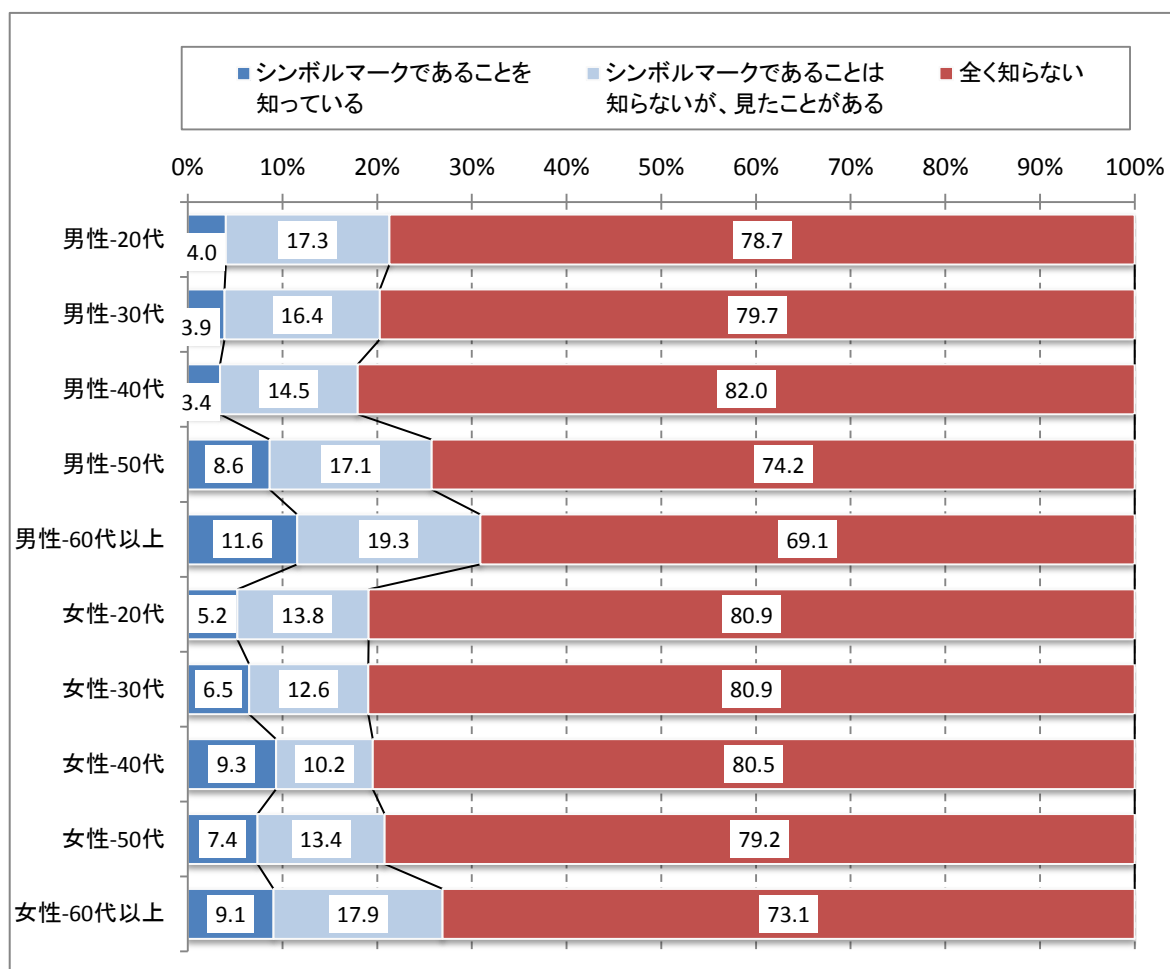
【性別】

・男性の“認知度”が24.7%、女性の“認知度”が21.2%となっており、男性は「シンボルマークであることは知らないが、見たことがある」(17.3%)が女性(13.4%)よりもやや多くなっている。



【性・年代別】

・男女とも60代以上の“認知度”は3割前後となっており、他の層に比べて高くなっている。
 ・男性40代の“認知度”が17.9%と最も低くなっている。
 ・「知っている」は男性40代以下は4%以下であるのに対し、50代では8.6%、60代以上では11.6%と高くなっている。



5.施設・里親について

(1)児童養護施設や乳児院に関する認知度

問21 次の児童養護施設や乳児院に関する内容【①～⑦】について、あなたはどの程度ご存知ですか？それぞれひとつずつ選んでください。

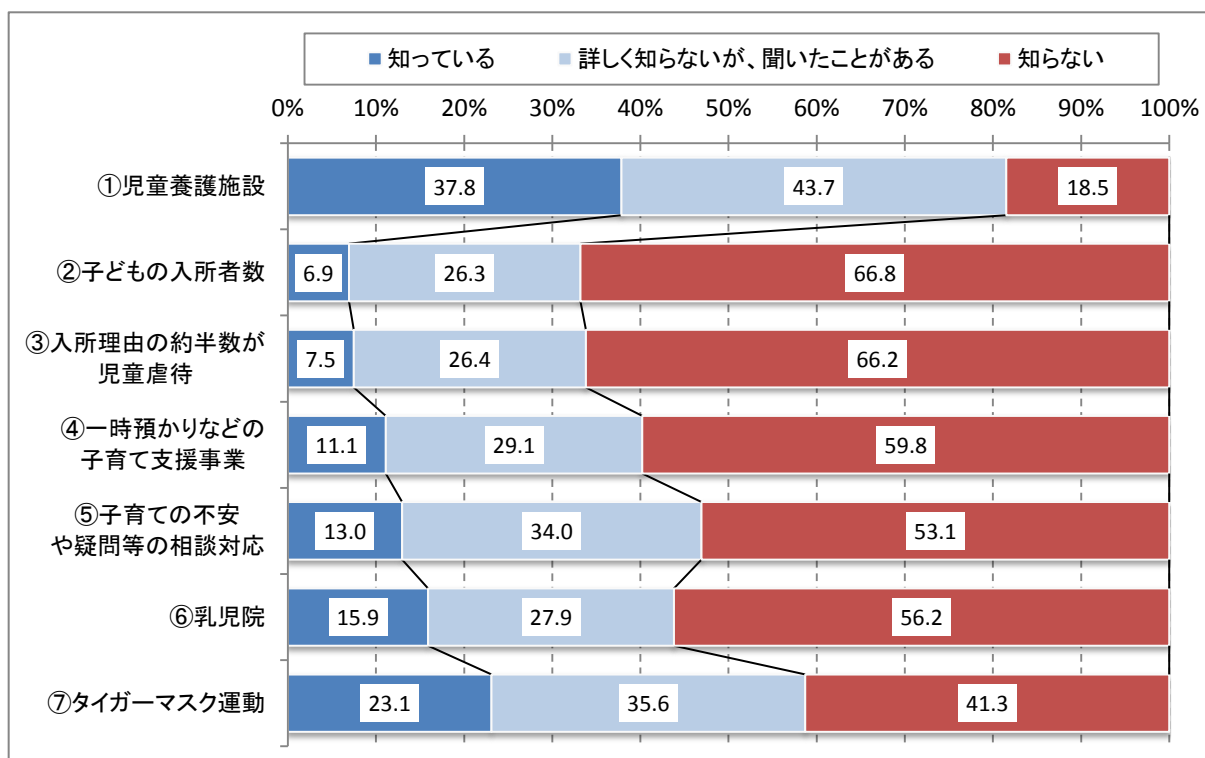
- ①児童養護施設とは、保護者の死亡や傷病、児童虐待などのため、保護者と一緒に暮らすことができない子どもが生活する施設である
- ②兵庫県内の児童養護施設には、概ね3歳から高校を卒業するまでの子ども、約1,400人が生活している
- ③児童養護施設で生活する子どものうち、約半数が児童虐待を理由に入所している
- ④児童養護施設の多くでは、保護者が病氣や育児疲れのとき、子どもを一時的に預かる子育て支援の事業(ショートステイ、トワイライトステイ)を行っている
- ⑤児童養護施設では、保護者等からの子育てに関する不安や疑問等の相談に応じている
- ⑥児童養護施設とは別に、主に乳幼児(概ね0～2歳児)が生活する乳児院がある
- ⑦平成22年度以降、「タイガーマスク運動」など全国の児童養護施設で生活する子どもを支援する動きが広がっている

1. 知っている 2. 詳しくは知らないが、聞いたことがある 3. 知らない

【全 県】

・児童養護施設や乳児院に関する内容について、“認知度”(「知っている」+「一聞いたことがある」)が最も高かったのは、「①児童養護施設とは、保護者の死亡や傷病、児童虐待などのため、保護者と一緒に暮らすことができない子どもが生活する施設である」(81.5%)で8割以上となっており、次いで「⑦平成22年度以降、「タイガーマスク運動」など全国の児童養護施設で生活する子どもを支援する動きが広がっている」(58.7%)が約6割で続いている。

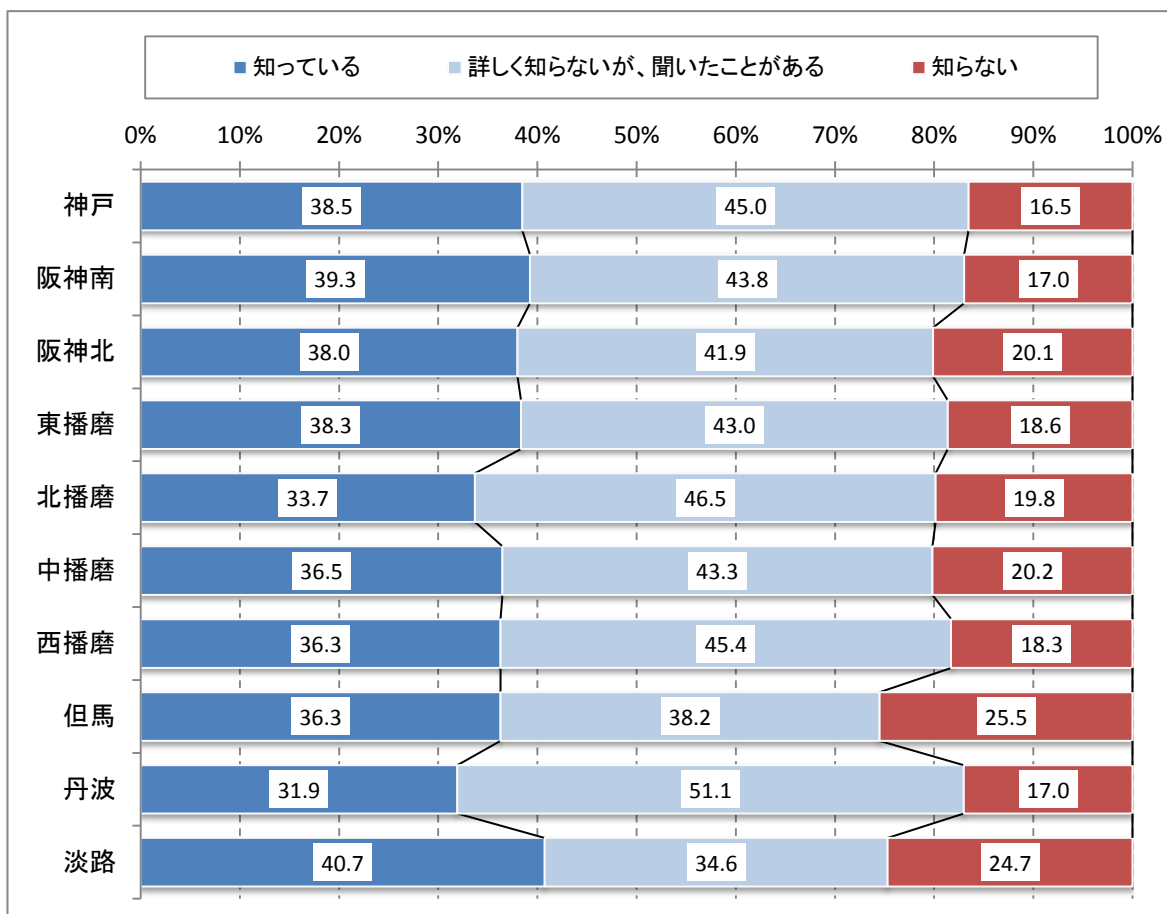
・一方、認知度が比較的低かったのは、「②兵庫県内の児童養護施設には、概ね3歳から高校を卒業するまでの子ども、約1,400人が生活している」(33.2%)、「③児童養護施設で生活する子どものうち、約半数が児童虐待を理由に入所している」(33.9%)で3割程度となっている。



- ① 児童養護施設とは、保護者の死亡や傷病、児童虐待などのため、保護者と一緒に暮らすことができない子どもが生活する施設である

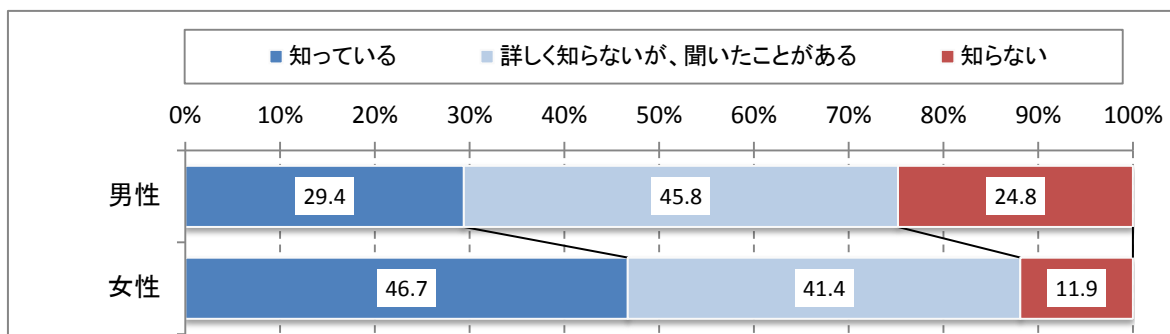
【地域別】

- ・児童養護施設について、全体的に8割前後の“認知度”となっている。
- ・ほぼすべての地域で“認知度”が8割前後となっている中、但馬での“認知度”は74.5%、淡路では「知っている」は40.7%と最も高いものの、“認知度”は75.3%となっており、他の地域に比べて低くなっている。



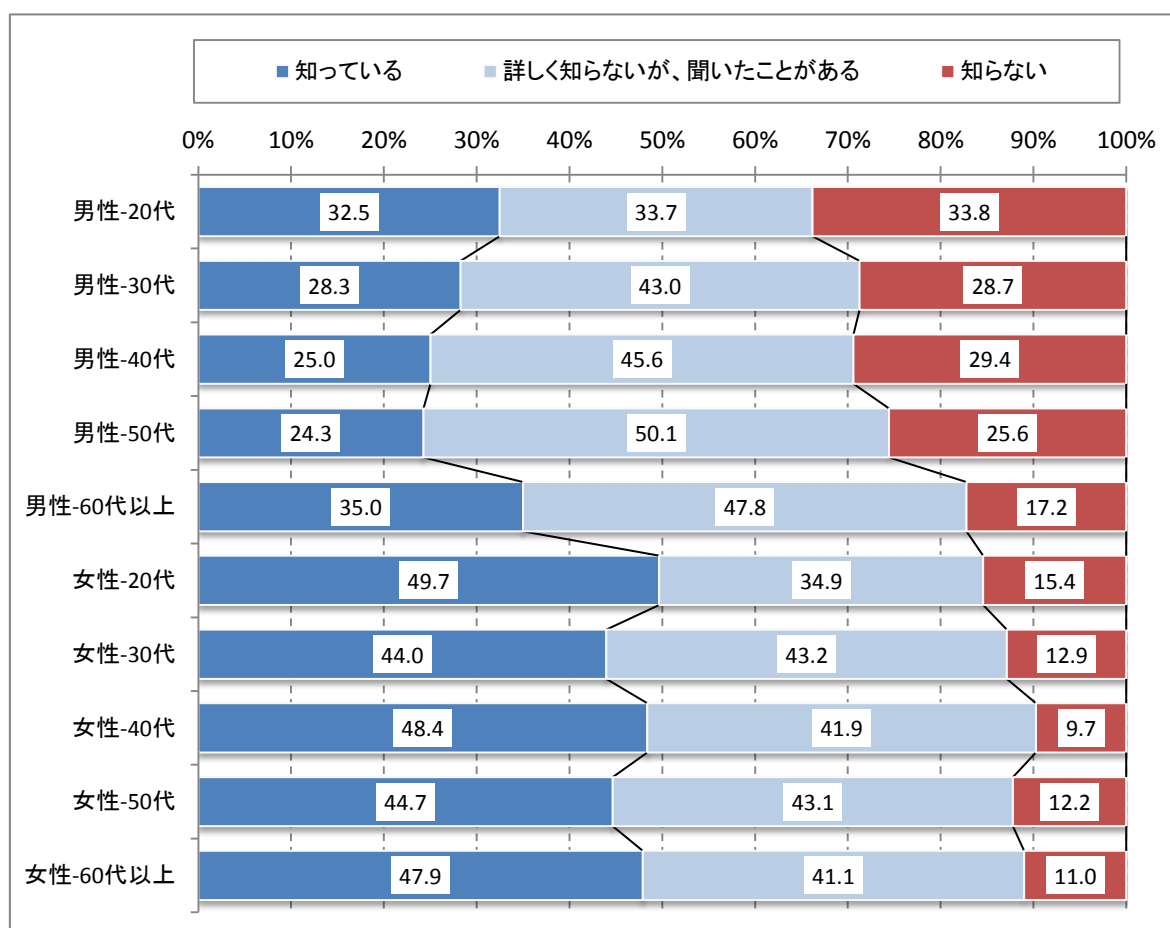
【性別】

- ・児童養護施設について、女性の“認知度”はあわせて88.1%と9割近くになっているのに対し、男性の“認知度”は75.2%にとどまっている。
- ・特に、女性は「知っている」が46.7%と半数近くを占めて多くなっている。



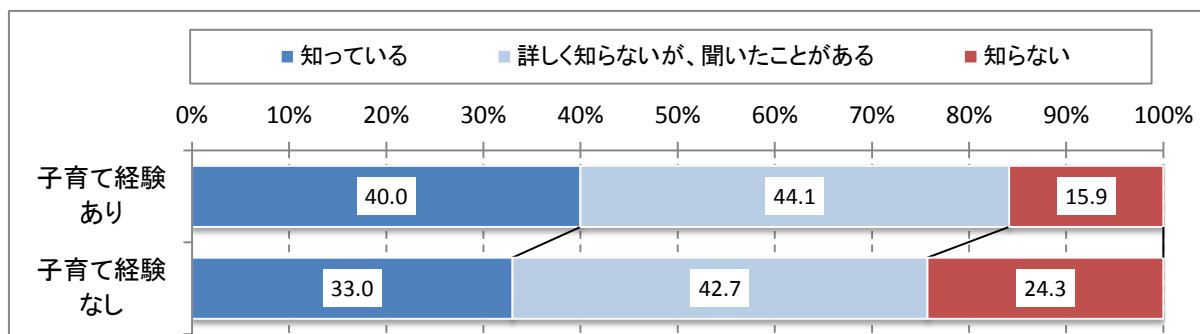
【性・年代別】

- ・男性は年代の高い層ほど“認知度”が高く、男性60代以上の“認知度”（82.8%）は8割を超える。
- ・一方、女性はすべての年代で“認知度”が8割以上となっており、最も高い女性40代の“認知度”（90.3%）は9割を超える。



【子育ての経験別】

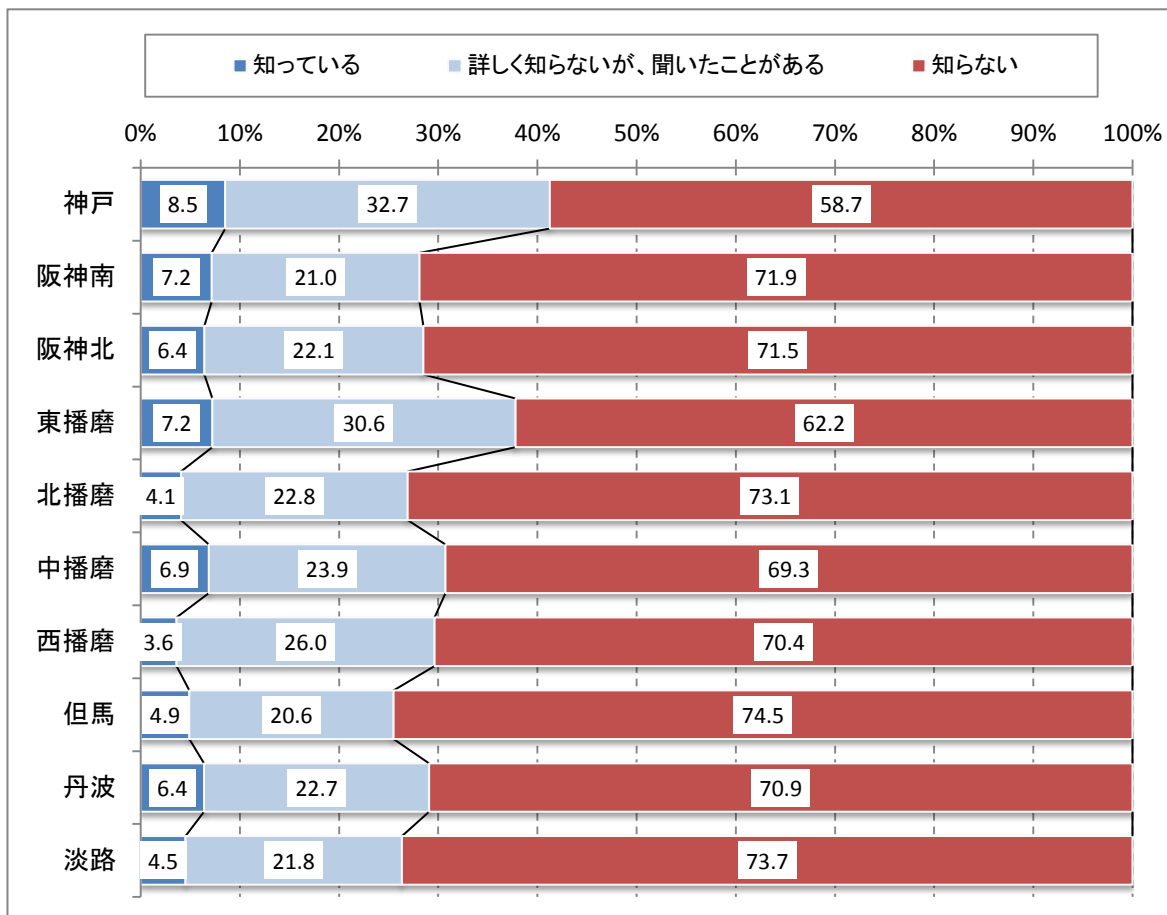
- ・児童施設について、子育て経験がある人の“認知度”が84.1%と8割を超えている。
- ・一方、子育て経験がない人は75.7%とやや低い。



② 兵庫県内の児童養護施設には、概ね3歳から高校を卒業するまでの子ども、約1,400人が生活している

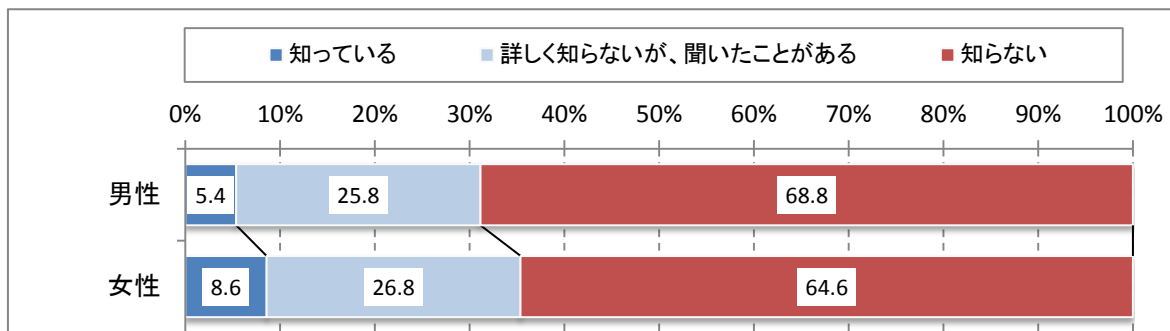
【地域別】

- ・子どもの入所者数について、全体的に3割前後の“認知度”となっている。
- ・神戸(41.2%)と東播磨(37.8%)で“認知度”が4割前後となっており、他の地域に比べて高くなっている。
- ・概ね6～7割は「知らない」と回答しており、児童養護施設については認知していても、規模まで認知している人は少ない。



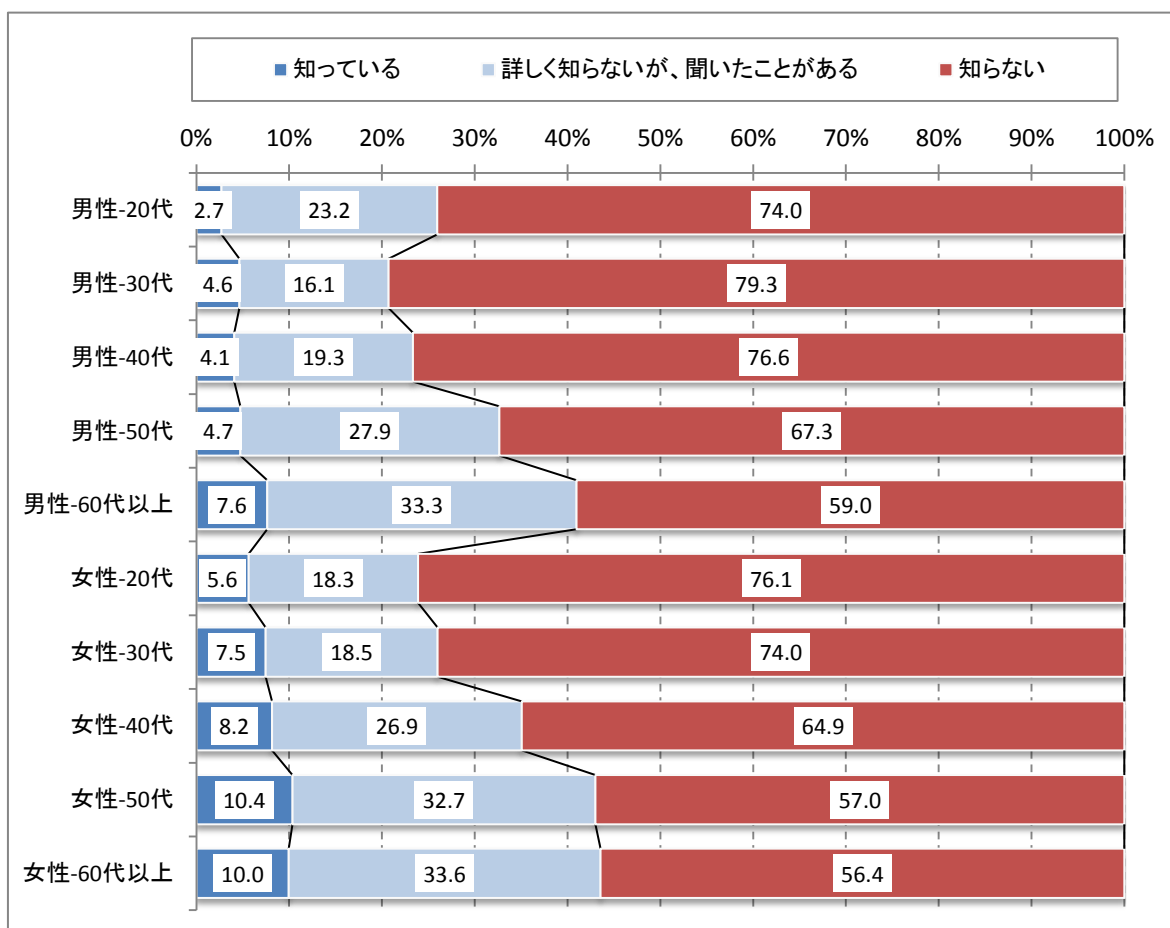
【性別】

・子どもの入所者数について、女性の“認知度”は35.4%となっており、男性(31.2%)と比べてやや多くなっている。



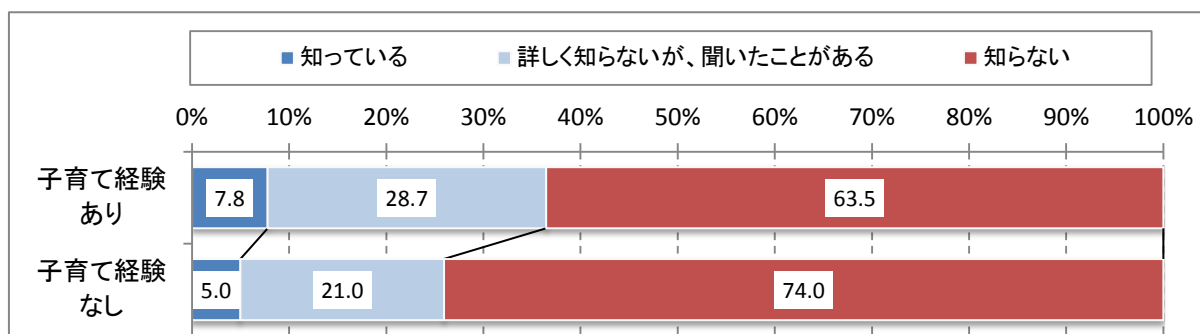
【性・年代別】

・男女とも概ね年代の高い層ほど“認知度”が高くなっており、特に男性60代以上(40.9%)、女性50代(43.1%)、女性60代以上(43.6%)では4割以上と高くなっている。



【子育ての経験別】

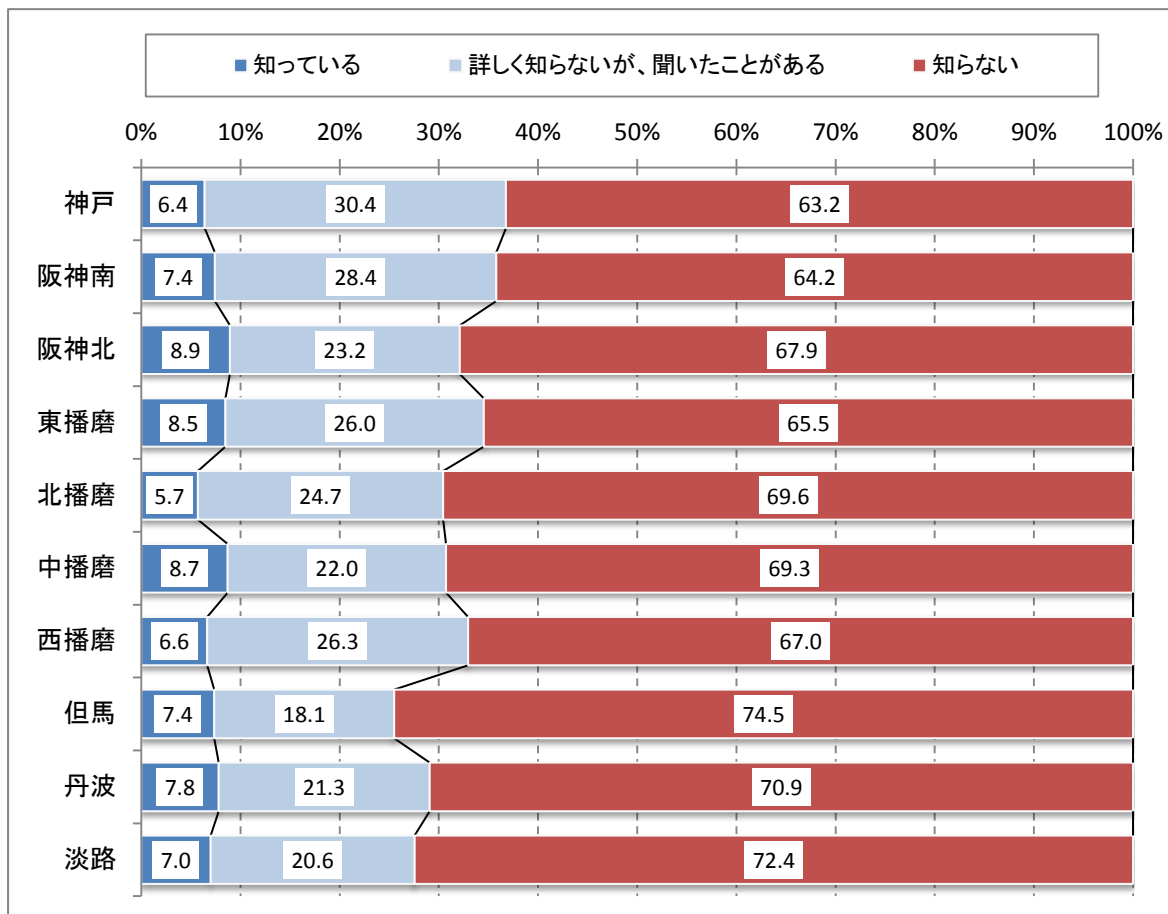
・子どもの入所者数について、子育て経験のある人は“認知度”が36.5%となっており、子育て経験のない人(26.0%)と比べて10ポイント程度高くなっている。



③ 児童養護施設で生活する子どものうち、約半数が児童虐待を理由に入所している

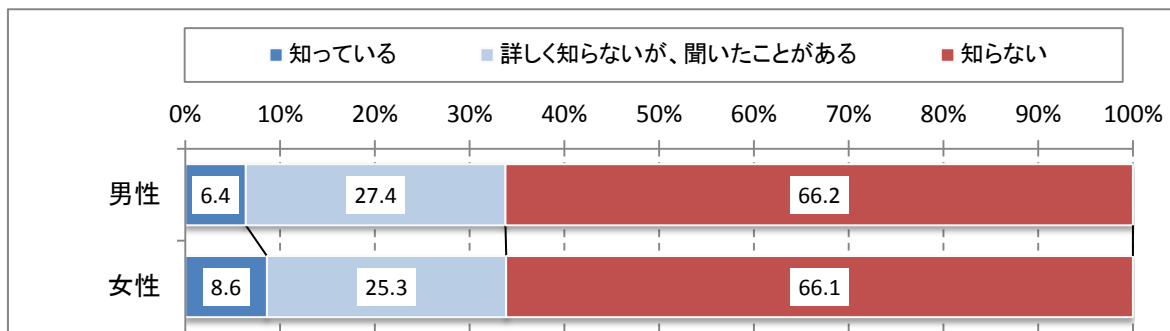
【地域別】

- ・入所理由の約半数が児童虐待であることについて、全体的に3割前後の“認知度”となっている。
- ・“認知度”は神戸(36.8%)や阪神南(35.8%)などで比較的高くなっている。
- ・一方、他の地域に比べて“認知度”が低かったのは、但馬(25.5%)や淡路(27.6%)であった。
- ・規模と同様に、概ね6~7割は「知らない」と回答しており、児童養護施設については認知しているも、入所理由まで認知している人は少ない。



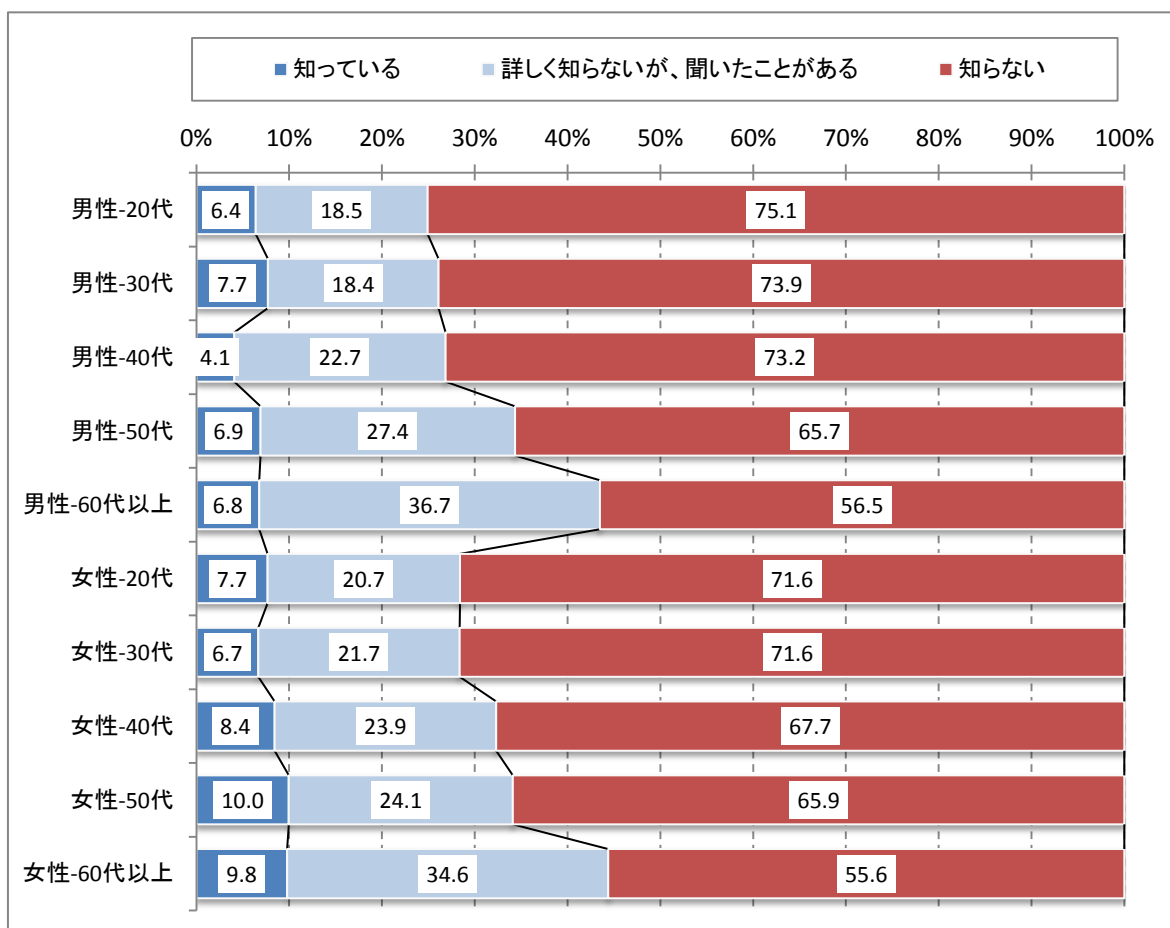
【性別】

・入所理由の約半数が児童虐待であることについて、男性(33.8%)と女性(33.9%)の“認知度”にほとんど差はみられないが、「知っている」の割合はやや女性(8.6%)の方が高い。



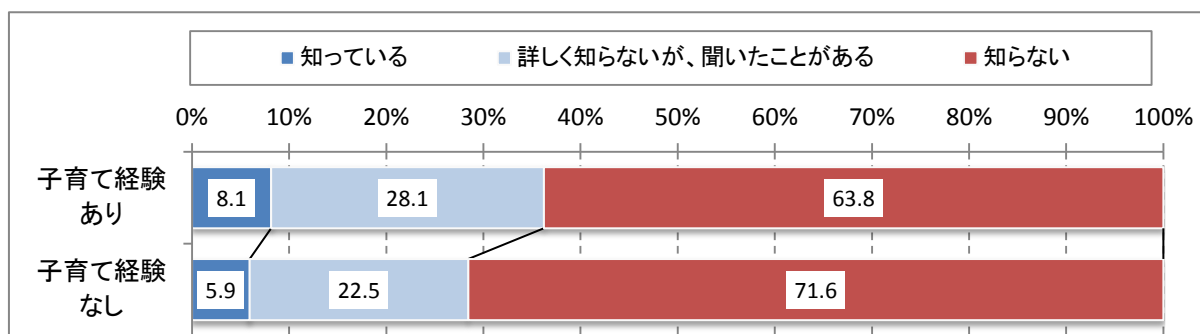
【性・年代別】

・年代の高い層ほど“認知度”が高くなっており、男女とも60代以上の“認知度”は4割を超えている。
 ・一方、男性40代以下と女性30代以下では“認知度”が3割以下となっており、比較的低くなっている。



【子育ての経験別】

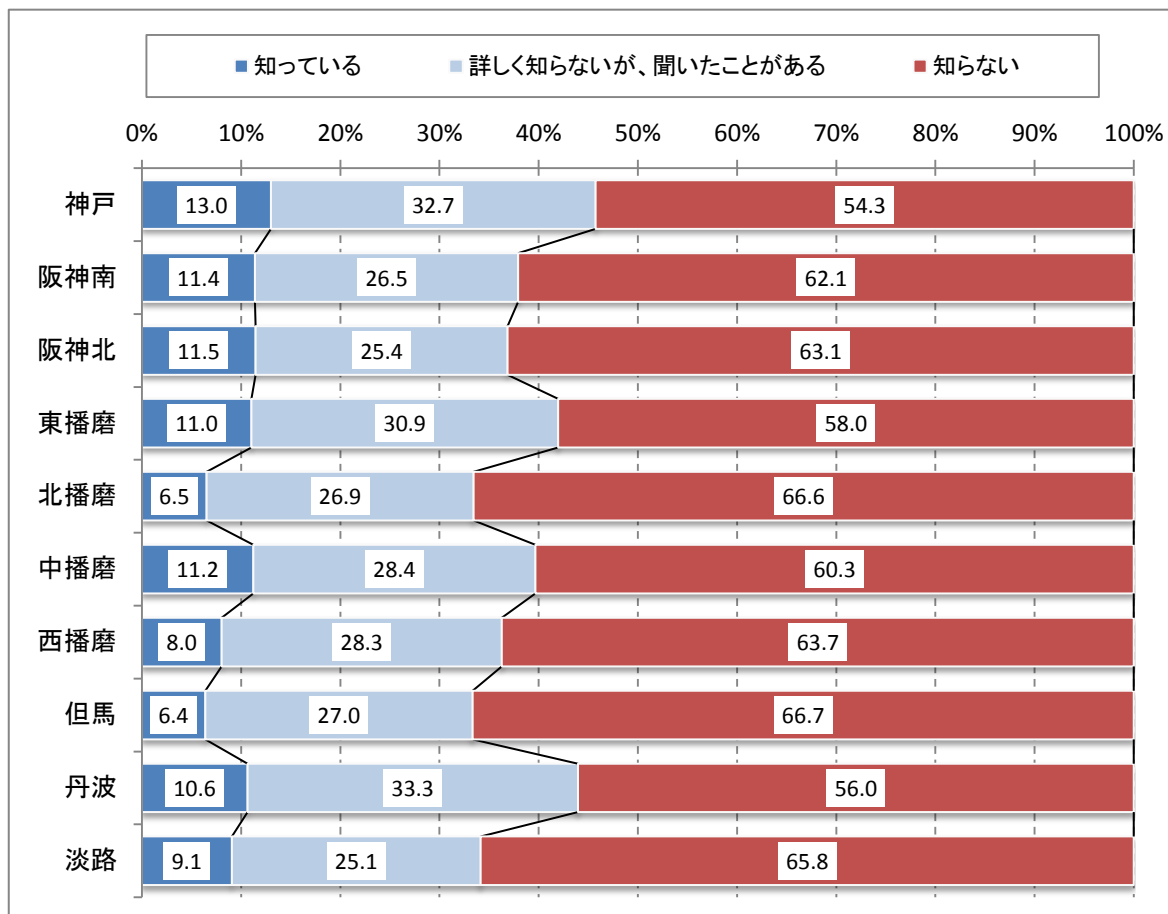
・入所理由の約半数が児童虐待であることについて、子育て経験がある人の“認知度”は36.2%となっており、子育て経験がない人(28.4%)と比べて多くなっている。



④ 児童養護施設の多くでは、保護者が病気や育児疲れのとき、子どもを一時的に預かる子育て支援の事業(ショートステイ、トワイライトステイ)を行っている

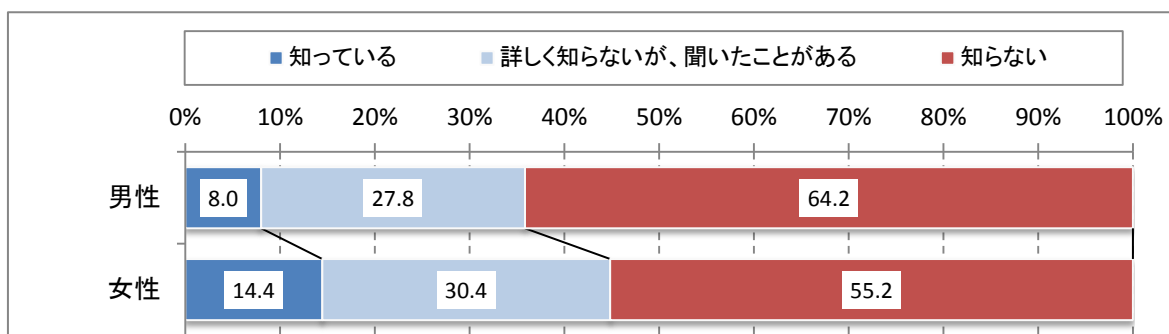
【地域別】

- ・一時預かりなどの子育て支援事業について、全体的に概ね4割前後の“認知度”となっている。
- ・“認知度”は神戸(45.7%)や丹波(43.9%)などで比較的高くなっている。
- ・一方、“認知度”が比較的低かったのは、北播磨や但馬(いずれも33.4%)、淡路(34.2%)であった。



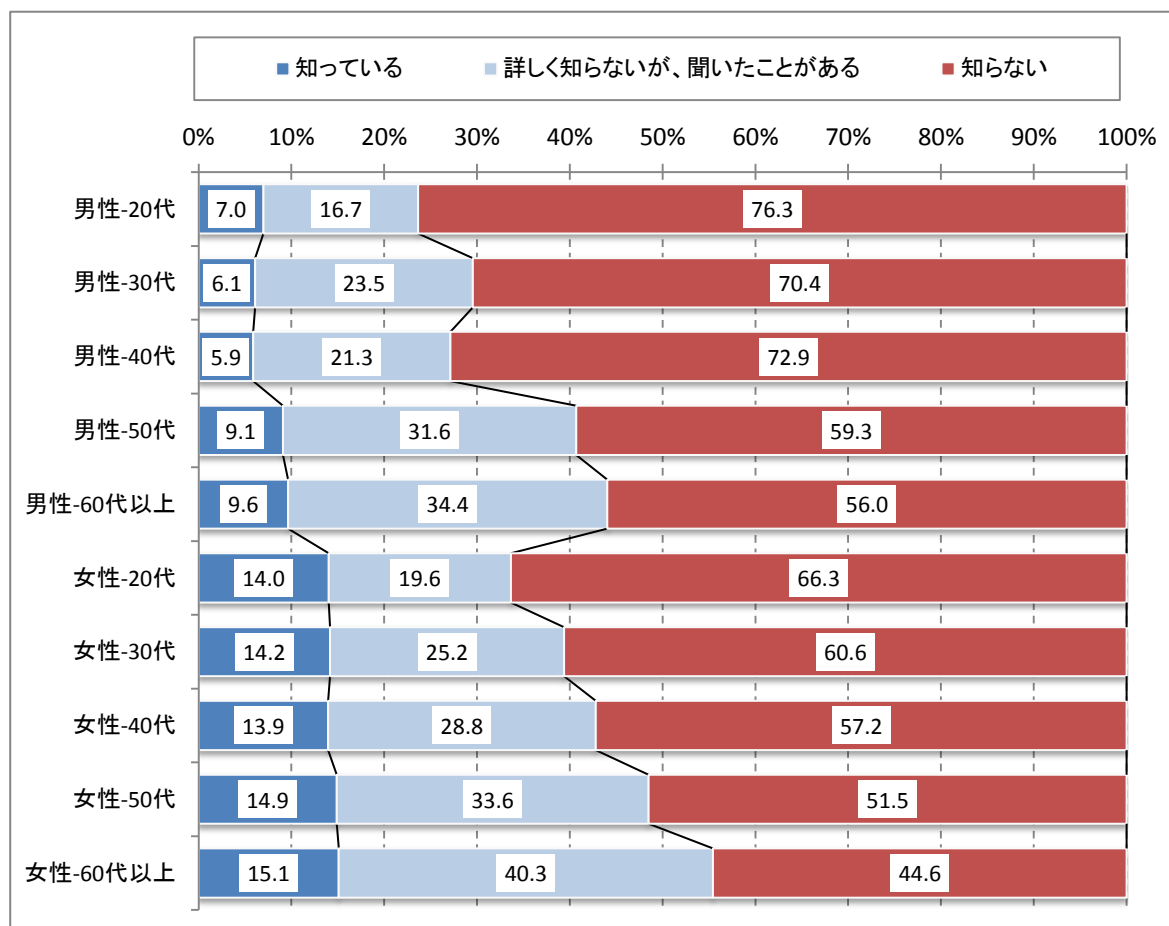
【性別】

・一時預かりなどの子育て支援事業について、女性の“認知度”が44.8%となっており、男性の“認知度”（35.8%）と比べて高くなっている。



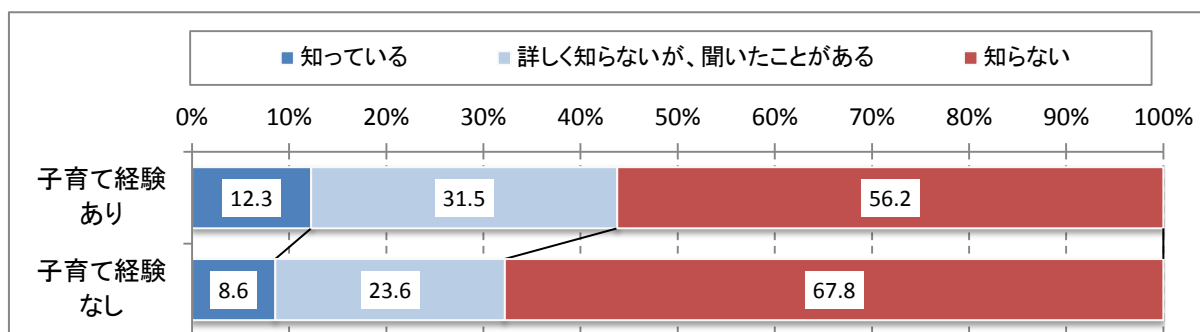
【性・年代別】

・男性40代以下は“認知度”が3割未満となっており、他の層に比べて低くなっている。
・女性は年代の高い層ほど“認知度”が高くなっており、女性60代以上の“認知度”が55.4%と半数を超える。
・細かくみると、女性は「知っている」は全年代で14%程度だが、「詳しく知らないが、聞いたことがある」が年代の高い層ほど多くなっている。



【子育ての経験別】

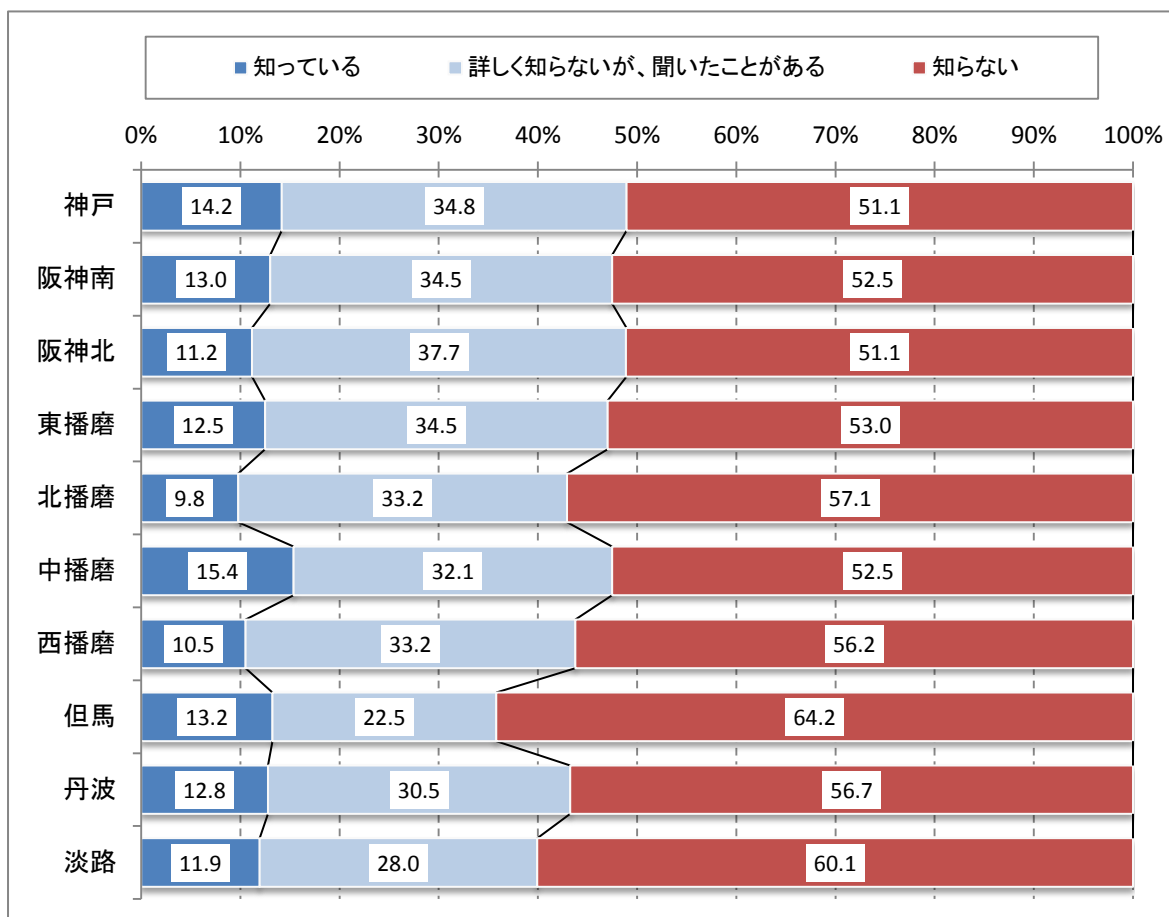
・一時預かりなどの子育て支援事業について、子育て経験がある人の“認知度”は43.8%となっており、子育て経験がない人(32.2%)と比べて10ポイント以上高くなっている。



⑤ 児童養護施設では、保護者等からの子育てに関する不安や疑問等の相談に応じている

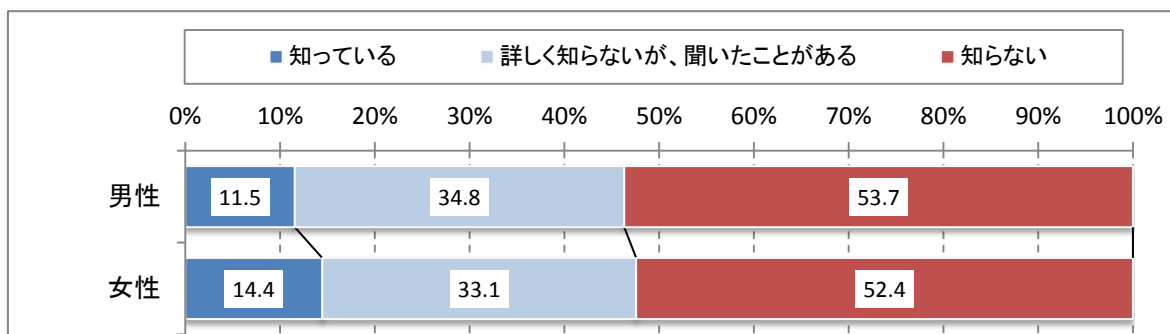
【地域別】

- ・子育ての不安や疑問等の相談を行っていることについて、全体的に概ね4～5割の“認知度”となっている。
- ・ほぼすべての地域で“認知度”が4割以上となっており、神戸(49.0%)や阪神北(48.9%)の“認知度”は半数近くとなっている。
- ・一方、但馬では“認知度”が35.7%となっており、他の地域に比べて低くなっている。
- ・地域間の差は「知っている」よりも「詳しく知らないが、聞いたことがある」の項目に差がみられる。



【性別】

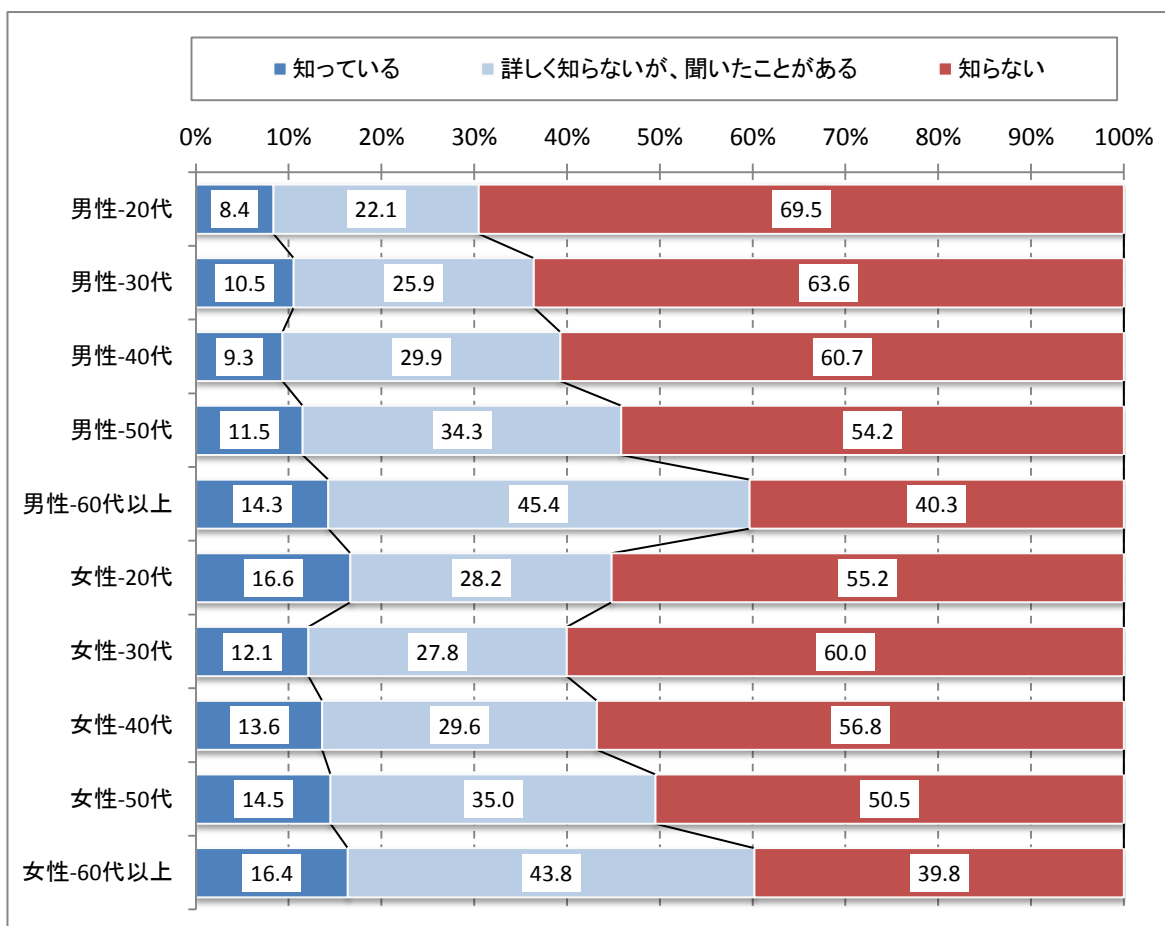
・子育ての不安や疑問等の相談を行っていることについて、男性(46.3%)と女性(47.5%)の“認知度”にあまり大きな差はみられないが、「知っている」はやや女性(14.4%)の方が高くなっている。



【性・年代別】

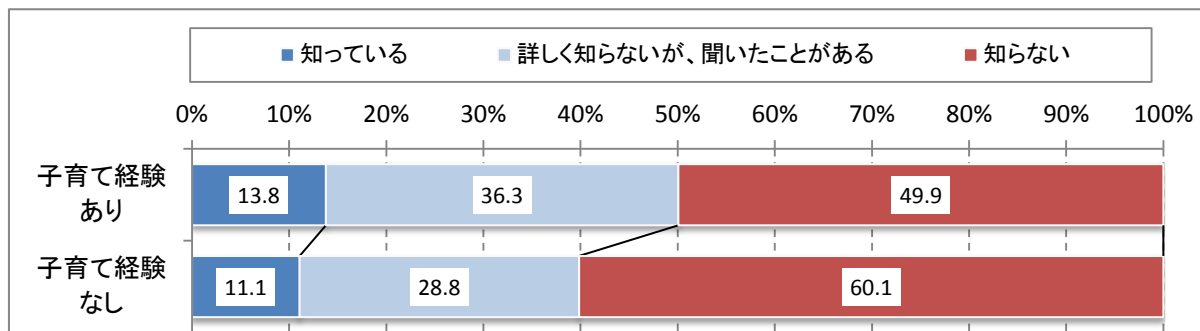
・年代の高い層ほど“認知度”が高くなる傾向があり、男女とも60代以上の“認知度”は約6割と高くなっている。

・一方、女性20代の“認知度”が44.8%となっているのに対し、男性20代の“認知度”は30.8%となっており、同年代でも性別によって違いがみられる。



【子育ての経験別】

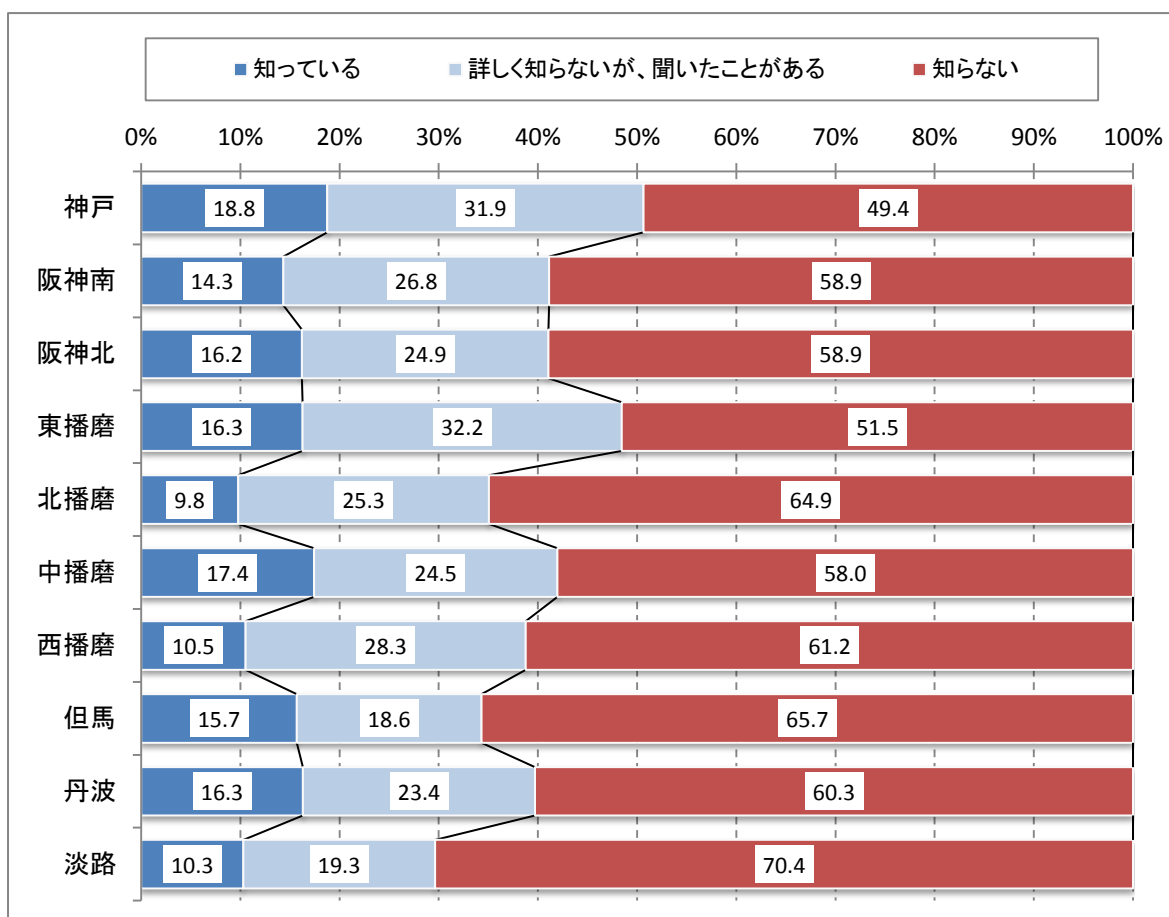
・子育ての不安や疑問等の相談を行っていることについて、子育て経験がある人の半数が“認知”（50.1%）しており、子育て経験がない人（39.9%）と比べて10ポイント程度高くなっている。



⑥ 児童養護施設とは別に、主に乳幼児(概ね0～2歳児)が生活する乳児院がある

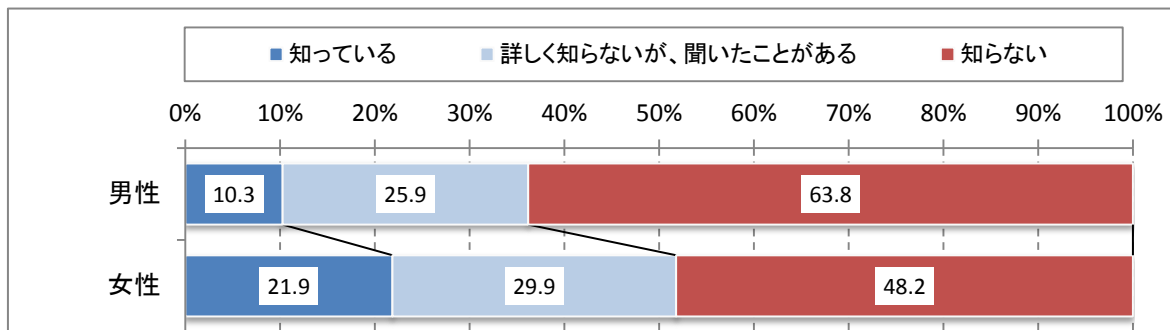
【地域別】

- ・乳児院について、全体的に概ね4割前後の“認知度”となっている。
- ・“認知度”は神戸(50.7%)と東播磨(48.5%)で概ね半数にのぼり、比較的高くなっている。
- ・一方、淡路では“認知度”が29.6%と唯一3割を下回っており、他の地域に比べて低くなっている。



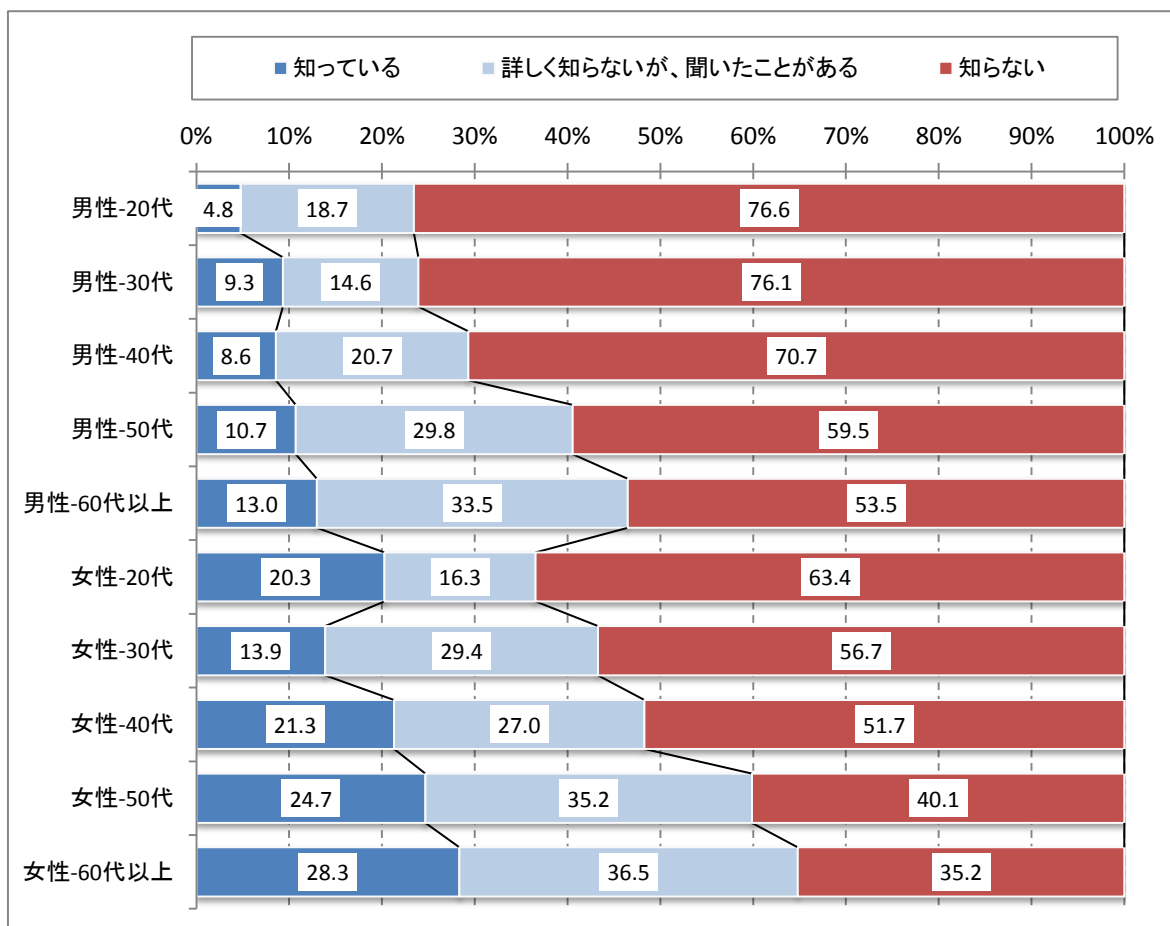
【性別】

- ・乳児院について、女性の“認知度”が51.8%と半数を超えているのに対し、男性の“認知度”は36.2%にとどまっており、男女間で差がみられる。
- ・特に、女性は「知っている」が21.9%となっており、男性(10.3%)よりも10ポイント程度多くなっている。



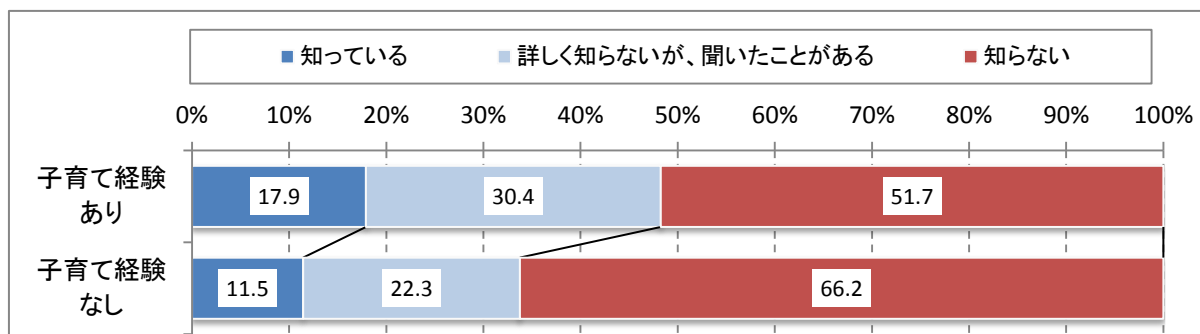
【性・年代別】

- ・男女ともに年代の高い層ほど“認知度”が高く、年代の若い層は比較的低くなっている。
- ・男性は50代以上の“認知度”が4割以上となっているが、40代以下では3割未満となっており、若い層の“認知度”が低くなっている。
- ・女性は50代以上の“認知度”が高く、6割前後となっている。



【子育ての経験別】

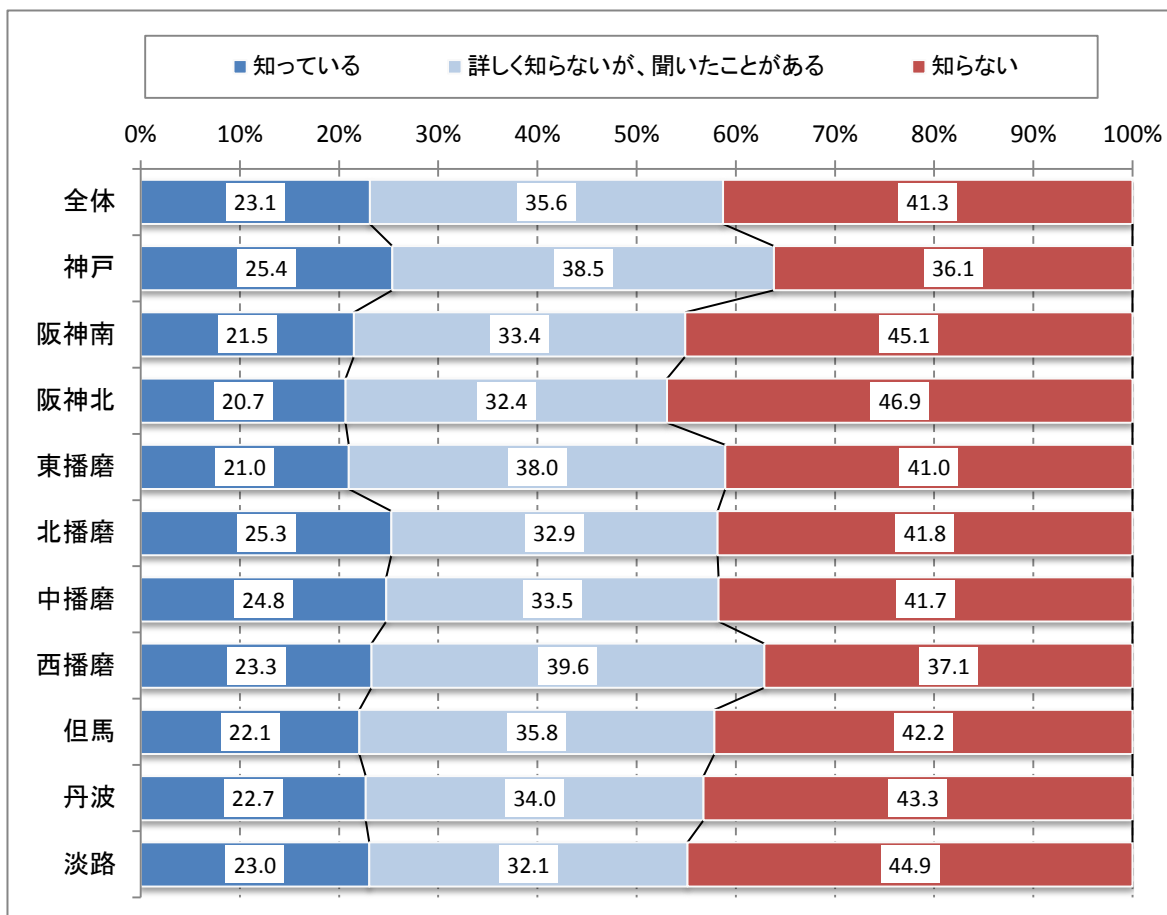
・乳児院について、子育て経験がある人の約半数が“認知”（48.3%）しており、子育て経験がない人（33.8%）と比べて15ポイント程度高くなっている。



⑦ 平成22年度以降、「タイガーマスク運動」など全国の児童養護施設で生活する子どもを支援する動きが広がっている

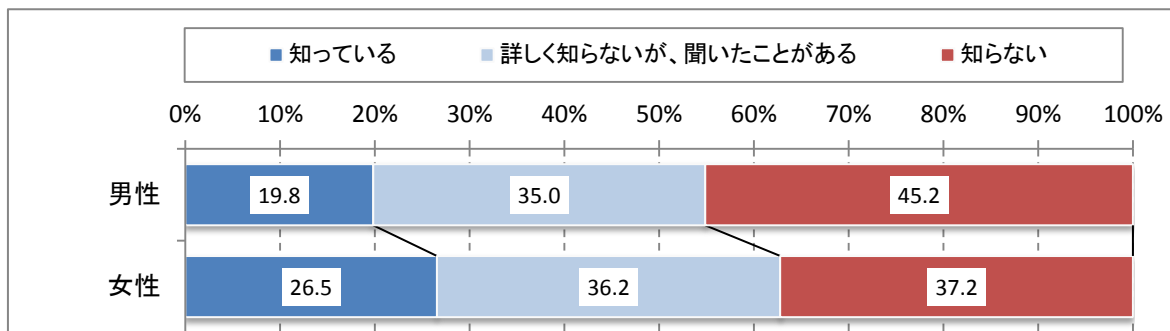
【地域別】

・タイガーマスク運動について、いずれの地域も「知っている」が2割以上、「詳しく知らないが、聞いたことがある」は3割以上となっており、あわせて6割近くが認知している。ニュースやマスコミでも相次いで取り上げられたこともあり、児童養護施設の認知に次いで“認知度”が高くなっている。
 ・神戸(63.9%)と西播磨(62.9%)で“認知度”が6割以上と高くなっている。



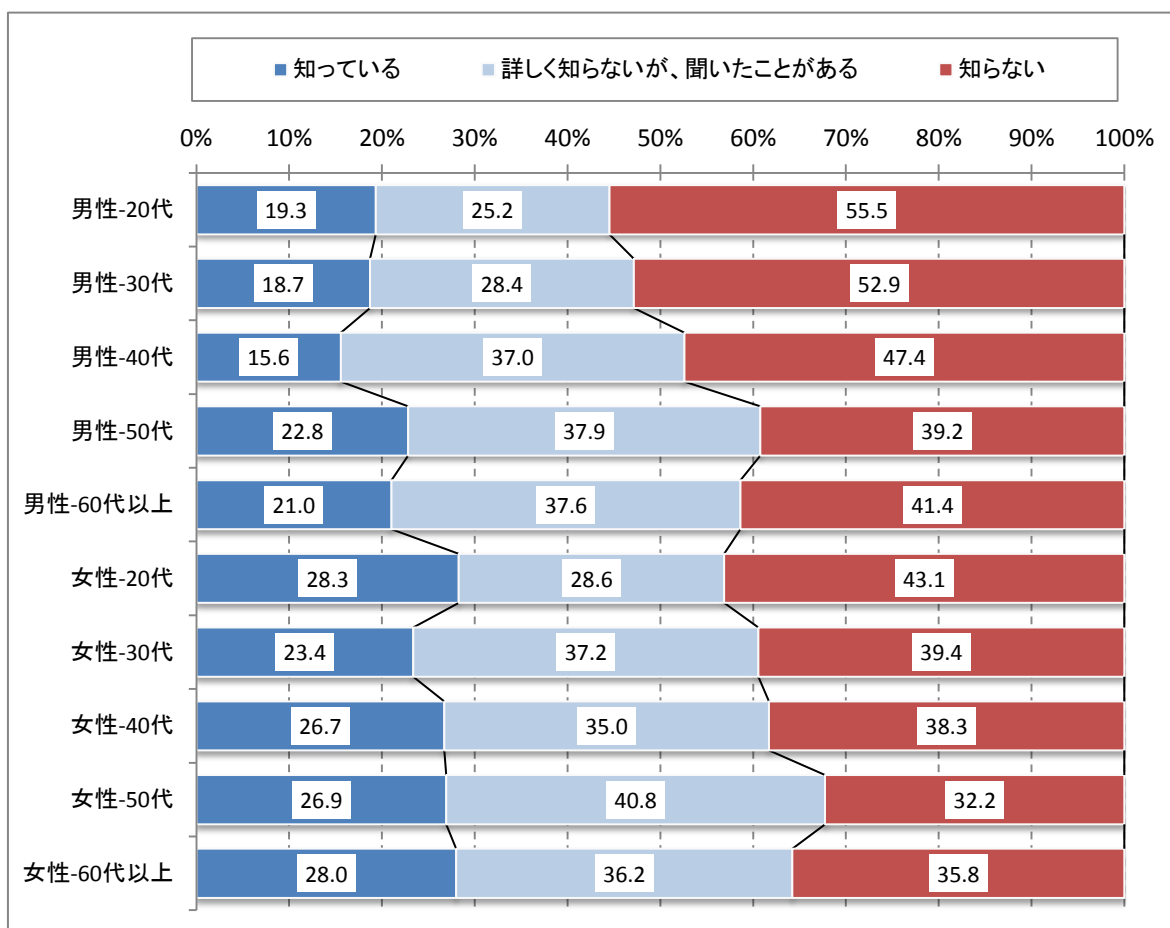
【性別】

・タイガーマスク運動について、女性の“認知度”が62.7%となっており、男性の“認知度”（54.8%）と比べて高くなっている。



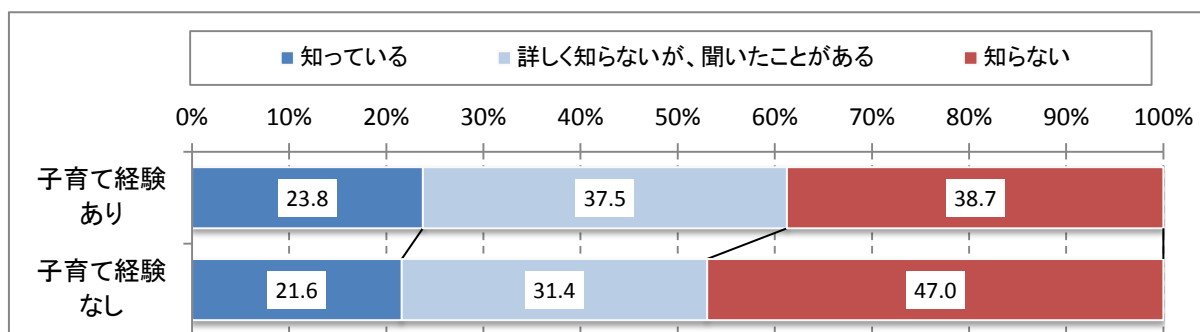
【性・年代別】

・男女とも50代の“認知度”が最も高く、男性50代の“認知度”が60.7%、女性50代の“認知度”は67.7%となっている。



【子育ての経験別】

・タイガーマスク運動について、子育て経験がある人の“認知度”（61.3%）は6割以上となっており、子育て経験がない人（53.0%）と比べて多くなっている。



(2) 里親(制度)に関する認知度

問22 次の里親(制度)に関する内容【①～⑦】について、あなたはどの程度ご存知ですか？
それぞれひとつずつ選んでください。

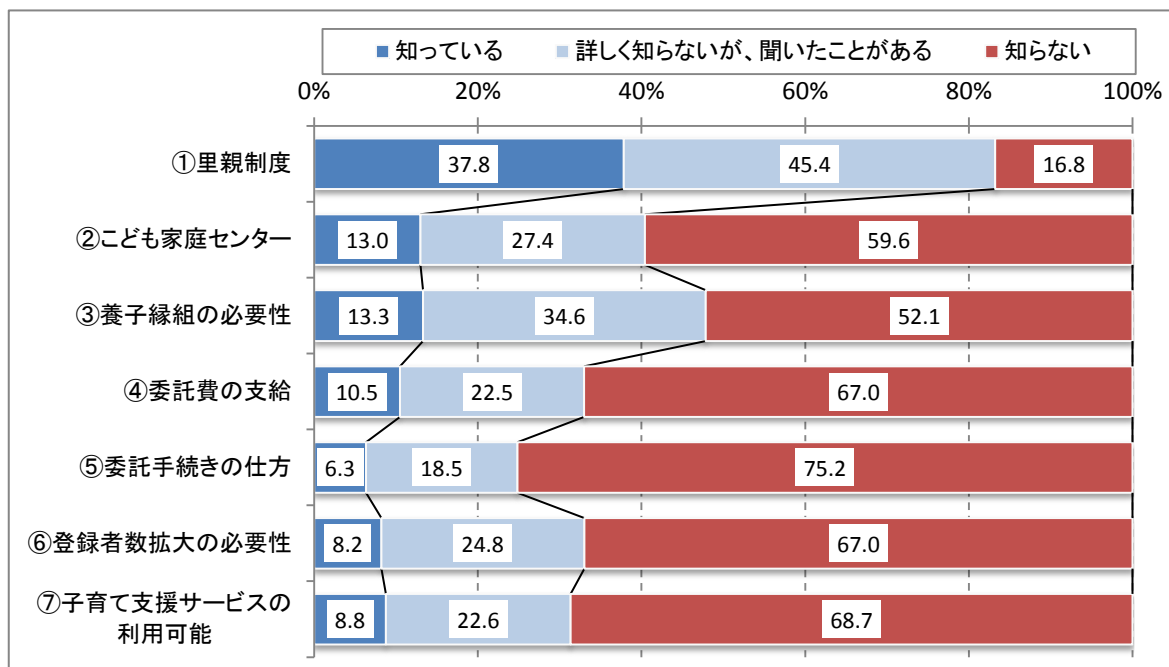
- ①里親制度とは、保護者の死亡や傷病、児童虐待などのため、保護者と一緒に暮らすことができない子どもを保護者に代わって、里親が養育する制度である
- ②里親になるためには、子ども家庭センターに登録する必要がある
- ③里親制度は、養子縁組制度とは異なるが、委託した子どもとの間で親子関係が築かれた場合には養子縁組を結ぶことがある
- ④子ども家庭センターから委託を受けて子どもを養育する里親には、児童福祉法に基づき委託費が支給される
- ⑤子どもを里親に委託する手続きは、子ども家庭センターが行う
- ⑥現在、県内には約300組の里親が登録されているが、家庭的な環境で子どもを育てることが求められているため、今後は、里親登録者を増やしていく必要がある
- ⑦里親家庭も、他の子育て家庭と同様、保育所や市町の各種子育て支援サービスを利用することができる

1. 知っている 2. 詳しくは知らないが、聞いたことがある 3. 知らない

【全 県】

・里親(制度)に関する内容について、「①里親制度とは、保護者の死亡や傷病、児童虐待などのため、保護者と一緒に暮らすことができない子どもを保護者に代わって、里親が養育する制度である」という制度そのものの“認知度”(「知っている」+「一聞いたことがある」)は83.2%と高く、次いで「③里親制度は、養子縁組制度とは異なるが、委託した子どもとの間で親子関係が築かれた場合には養子縁組を結ぶことがある」が47.9%と約半数で続いている。

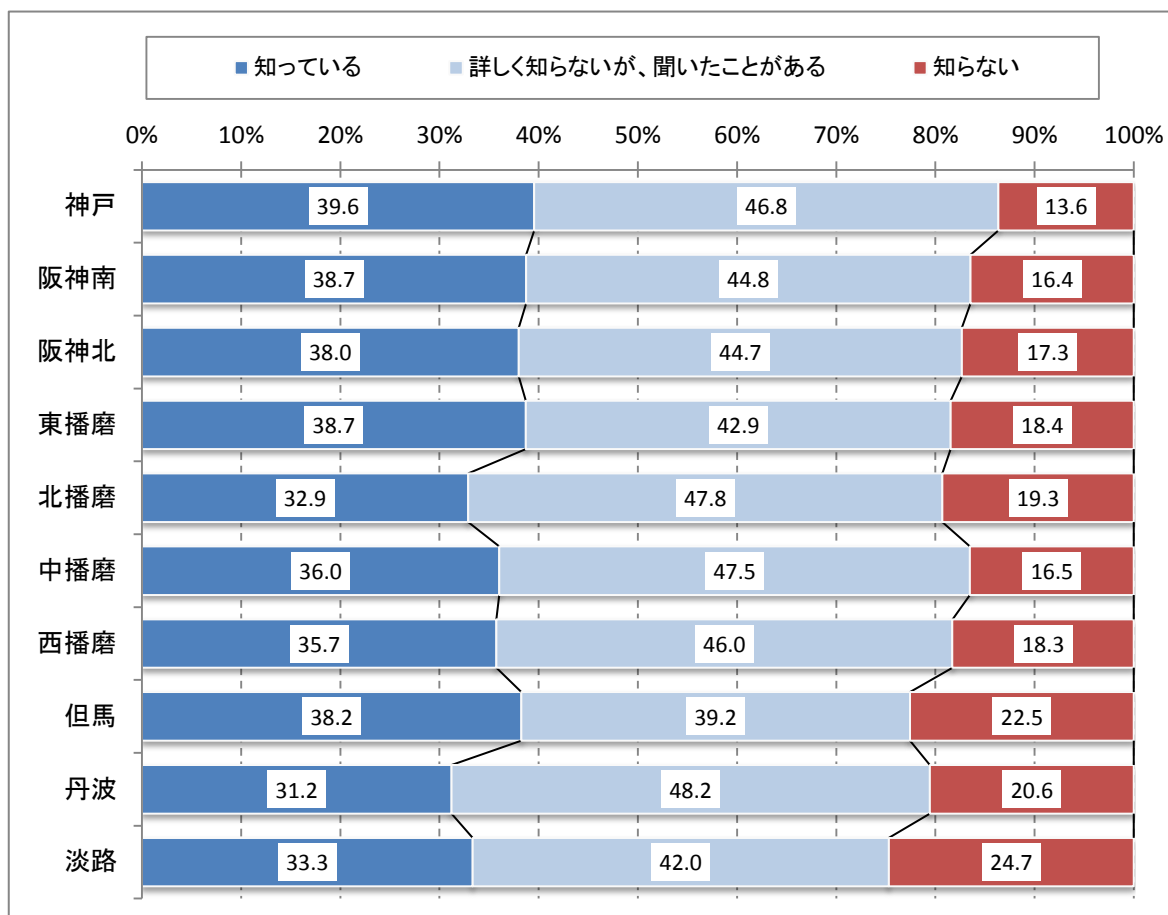
・一方、“認知度”が低くなっているのは、「⑤子どもを里親に委託する手続きは、子ども家庭センターが行う」(24.8%)や「⑦里親家庭も、他の子育て家庭と同様、保育所や市町の各種子育て支援サービスを利用することができる」(31.4%)、「④子ども家庭センターから委託を受けて子どもを養育する里親には、児童福祉法に基づき委託費が支給される」、「⑥現在、県内には約300組の里親が登録されているが、家庭的な環境で子どもを育てることが求められているため、今後は、里親登録者を増やしていく必要がある」(いずれも33.0%)などで、2～3割程度の“認知度”であった。



- ① 里親制度とは、保護者の死亡や傷病、児童虐待などのため、保護者と一緒に暮らすことができない子どもを保護者に代わって、里親が養育する制度である

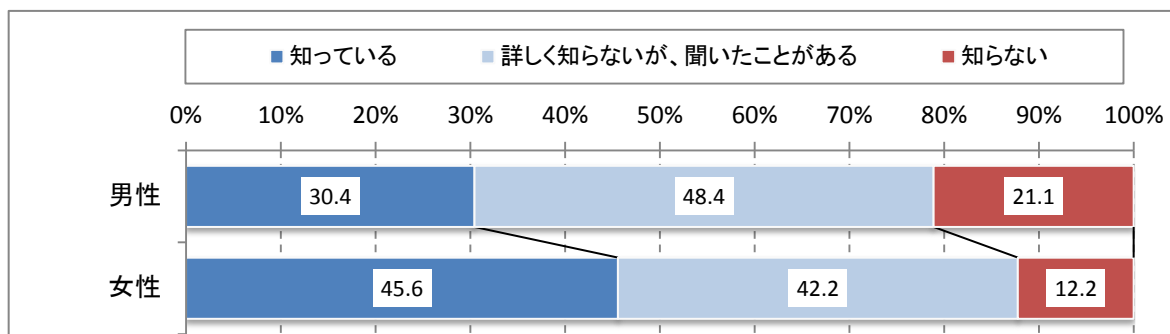
【地域別】

- ・里親制度について、全体的には概ね8割前後の“認知度”となっている。
- ・“認知度”は神戸で86.4%と最も高く、淡路で75.3%と最も低くなっている。



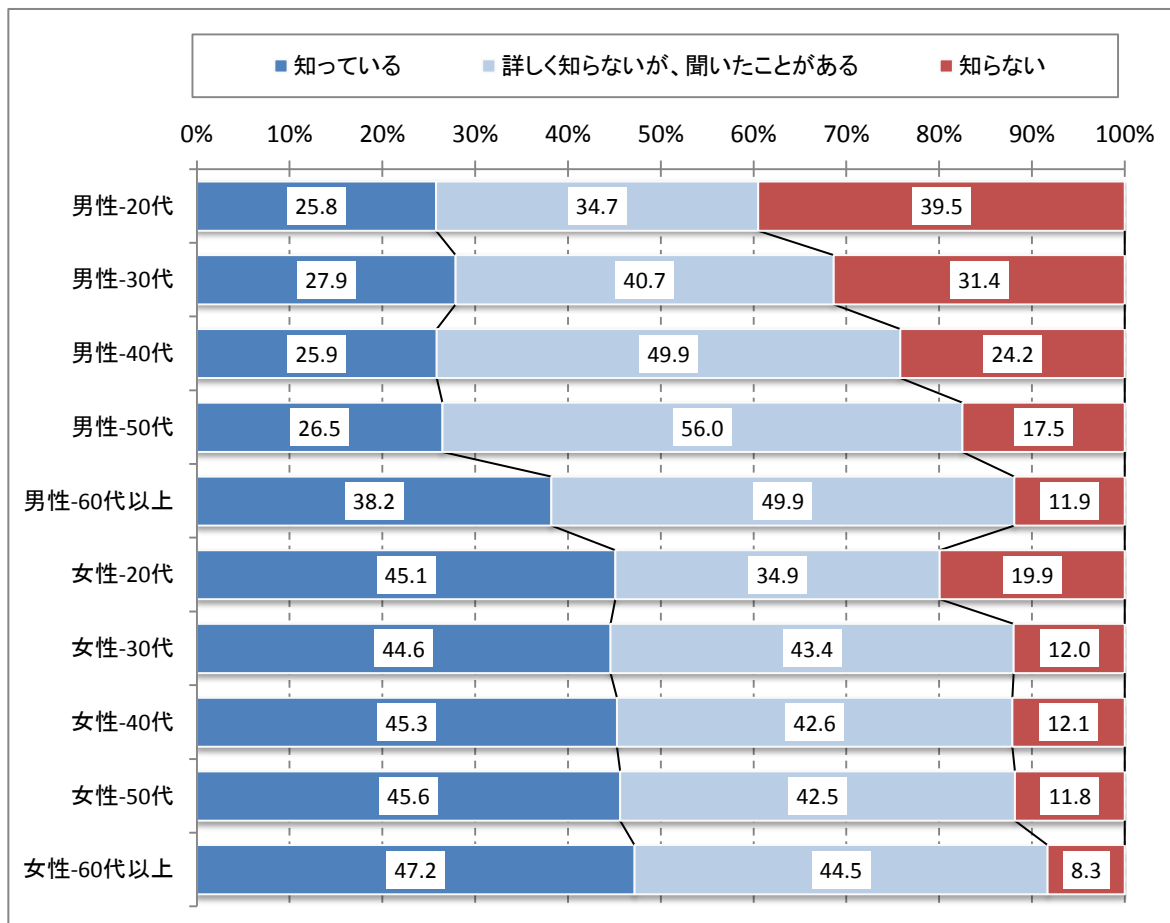
【性別】

- ・里親制度について、女性の“認知度”が87.8%となっており、男性の“認知度”(78.8%)と比べて高くなっている。
- ・特に、女性は「知っている」が45.6%と多くなっている。



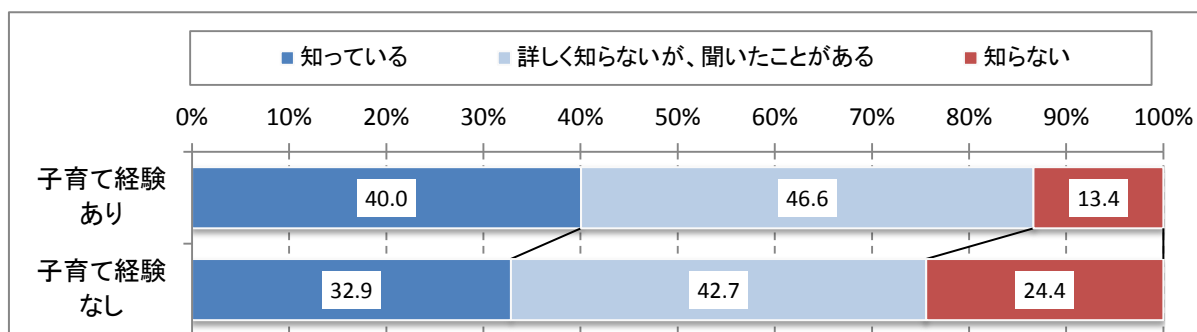
【性・年代別】

- ・男性は年代の高い層ほど“認知度”が高く、男性60代以上の“認知度”(88.1%)が約9割となっているのに対し、男性20代の“認知度”(60.5%)は6割にとどまっている。
- ・男性は「知っている」は60代以上を除き、25%程度となっており、「詳しく知らないが、聞いたことがある」の回答割合によって年代に差がみられる。
- ・女性は30代以上の“認知度”が9割前後と高くなっている。
- ・女性は「知っている」が45%前後でほぼ並んでおり、「詳しく知らないが、聞いたことがある」は20代(34.9%)でやや低くなっている。



【子育ての経験別】

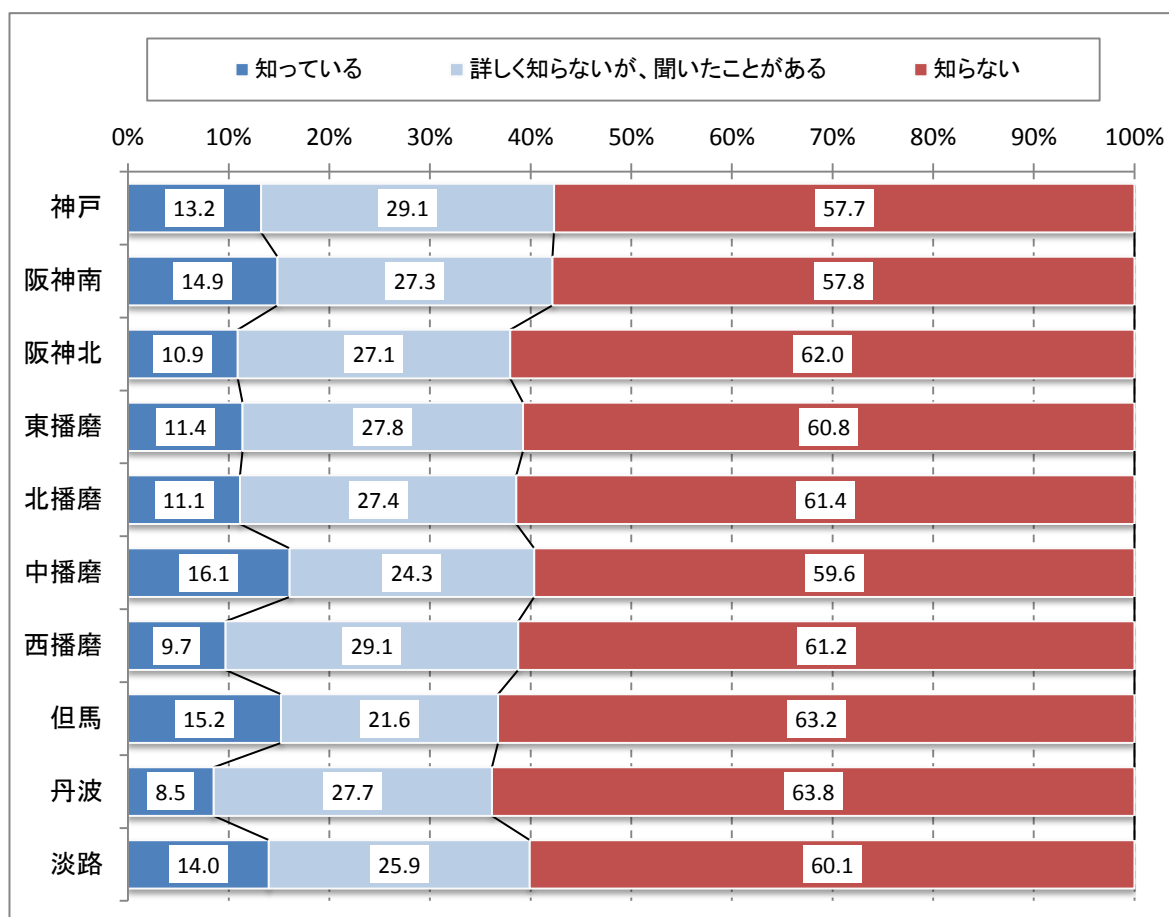
・里親制度について、子育て経験がある人の“認知度”は86.6%となっており、子育て経験がない人(75.6%)と比べて10ポイント以上多くなっている。



② 里親になるためには、子ども家庭センターに登録する必要がある

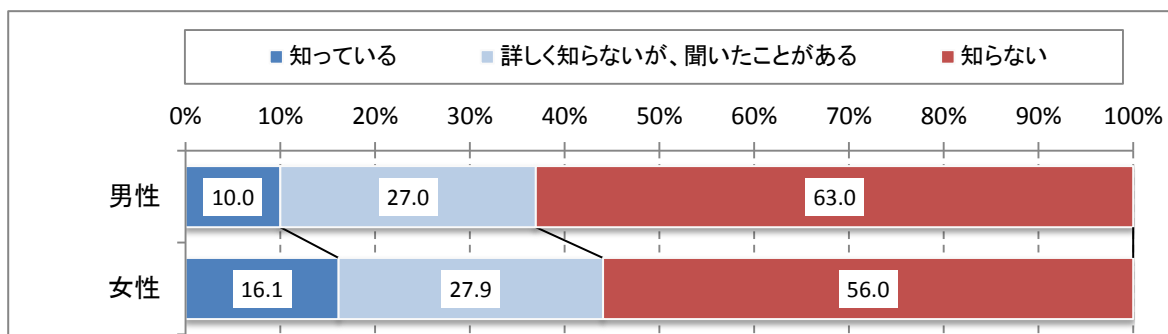
【地域別】

- ・子ども家庭センターへの登録について、全体的には概ね4割前後の“認知度”となっている。
- ・“認知度”は地域間であまり大きな差はみられないが、「知っている」は中播磨(16.1%)や但馬(15.2%)、淡路(14.0%)などで他の地域に比べて多くなっている。



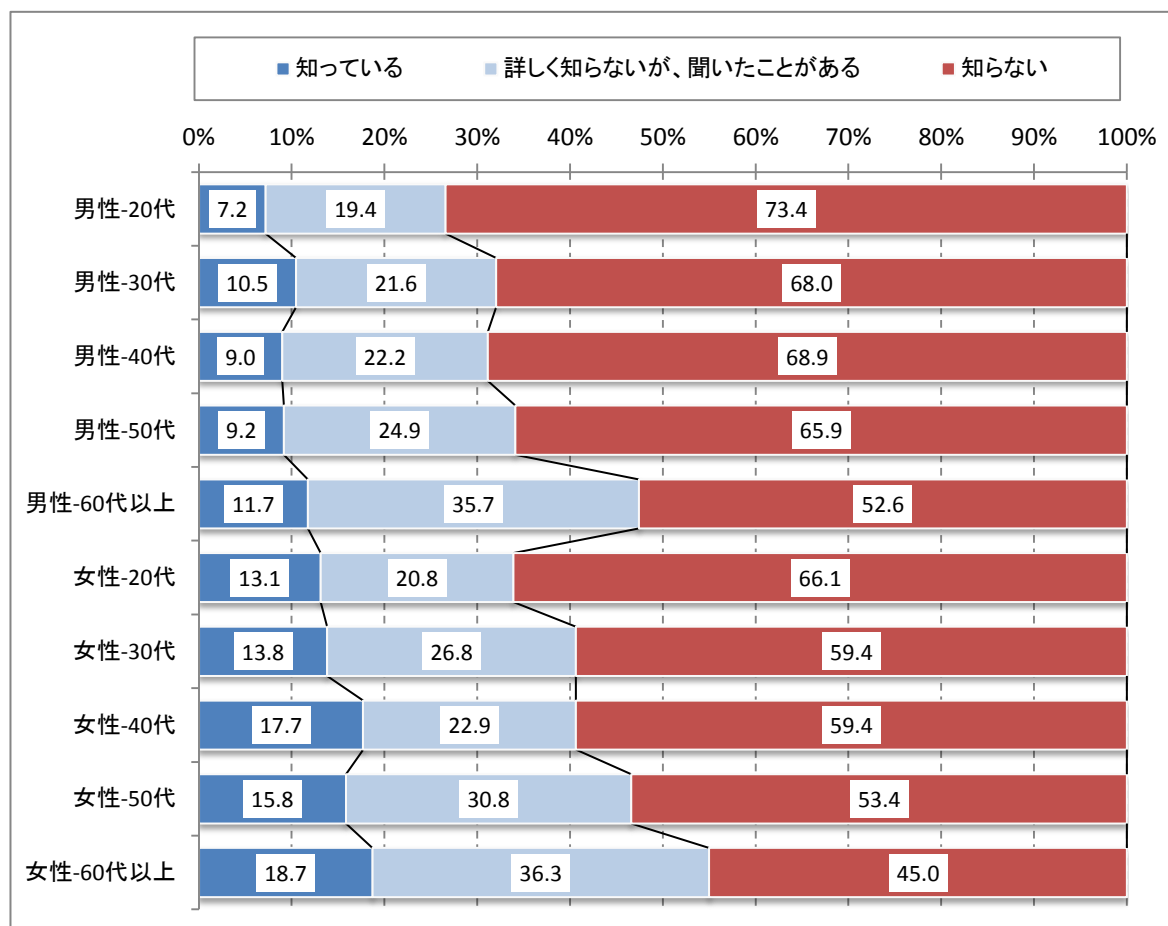
【性別】

- ・こども家庭センターへの登録について、女性の“認知度”が44.0%となっており、男性の“認知度”（37.0%）と比べて高くなっている。
- ・特に、女性は「知っている」が16.1%となっており、男性（10.0%）よりも多くなっている。



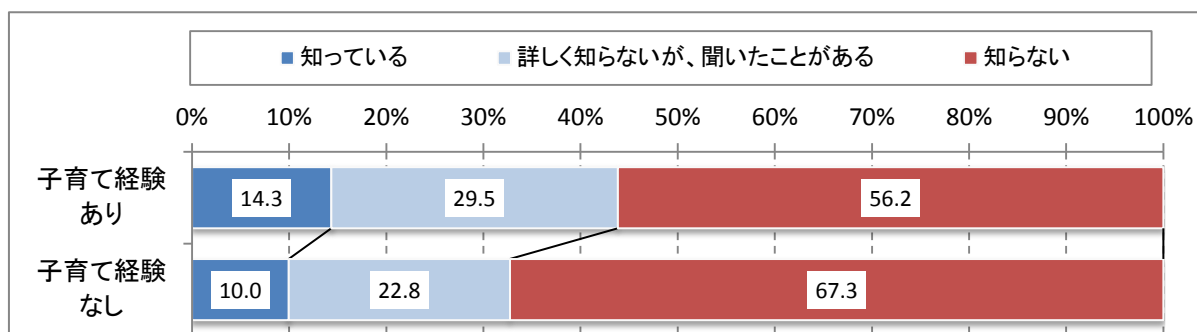
【性・年代別】

- ・男女とも概ね年代の高い層ほど“認知度”が高く、男性60代以上で47.4%、女性60代以上では55.0%が“認知している”と回答している。
- ・男性20代の“認知度”は26.6%と唯一2割台となっており、他の層に比べて低くなっている。



【子育ての経験別】

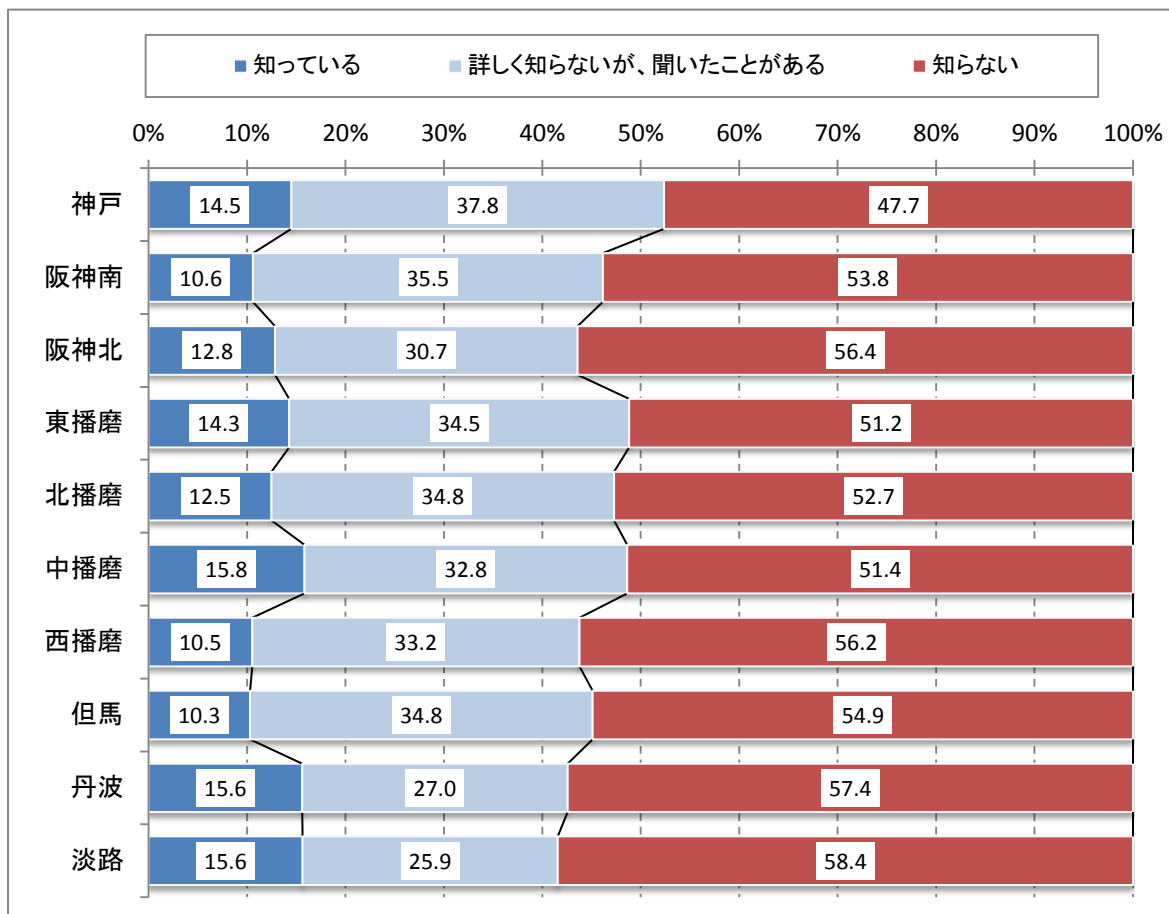
・こども家庭センターへの登録について、子育て経験がある人の“認知度”は43.8%となっており、子育て経験がない人(32.8%)と比べて10ポイント以上高くなっている。



③ 里親制度は、養子縁組制度とは異なるが、委託した子どもとの間で親子関係が築かれた場合には養子縁組を結ぶことがある

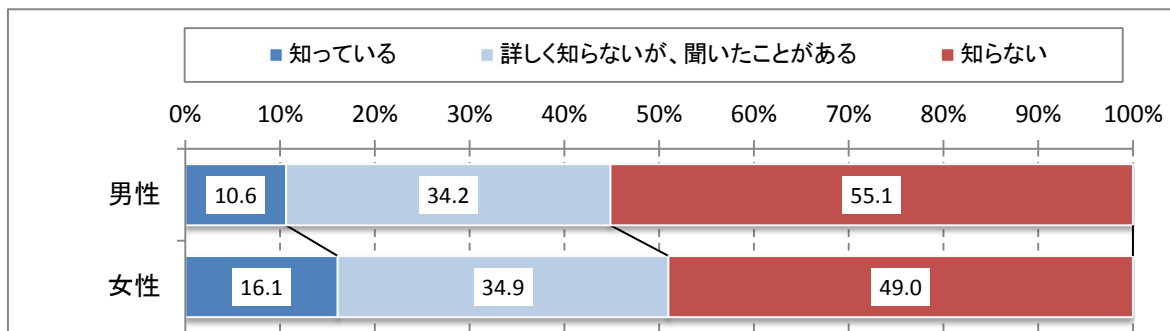
【地域別】

- ・養子縁組の必要性について、全体的には概ね4～5割の“認知度”となっている。
- ・神戸の“認知度”が52.3%となっており、唯一半数を超えて多くなっている。
- ・一方、淡路では“認知度”が41.5%となっており、最も低くなっている。



【性別】

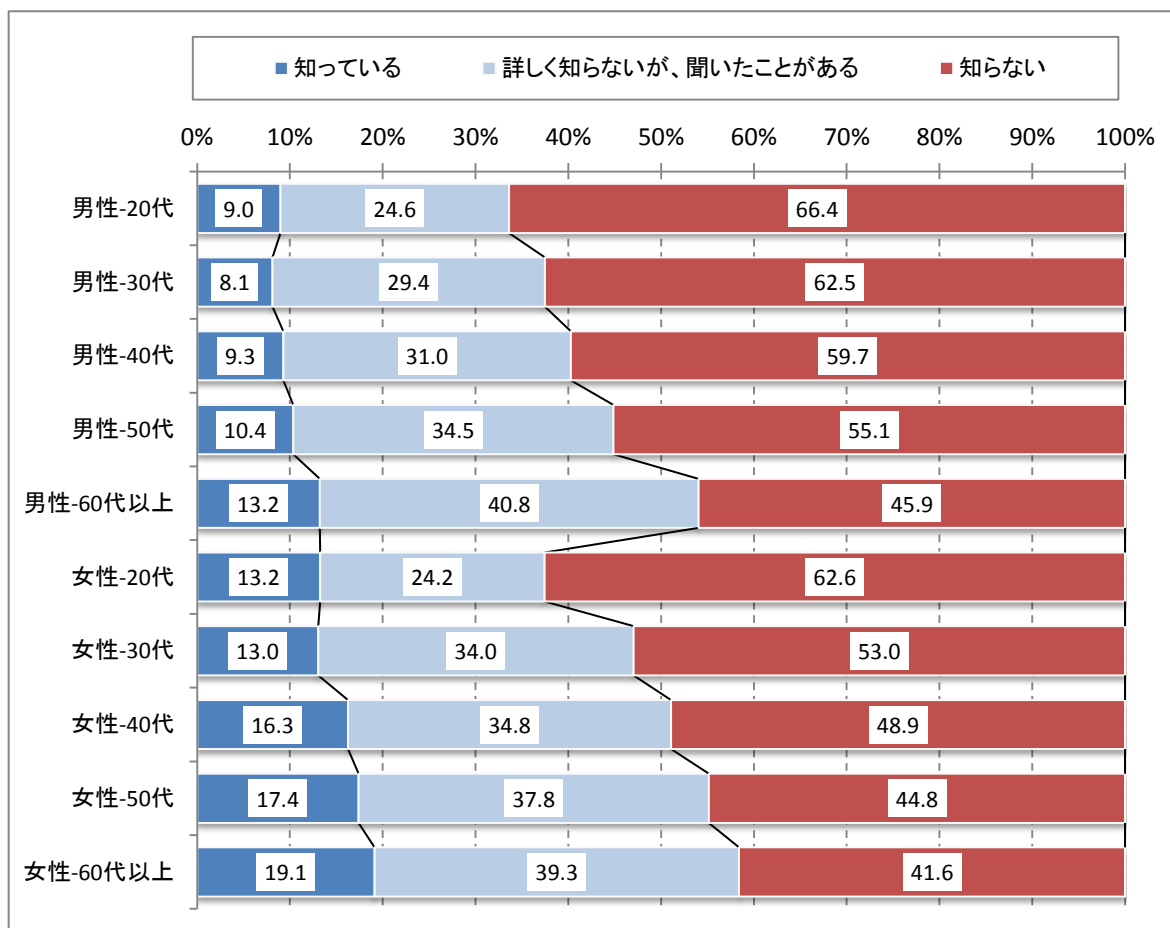
・養子縁組の必要性について、女性の“認知度”が51.0%と半数を超えており、男性(44.8%)よりもやや高くなっている。



【性・年代別】

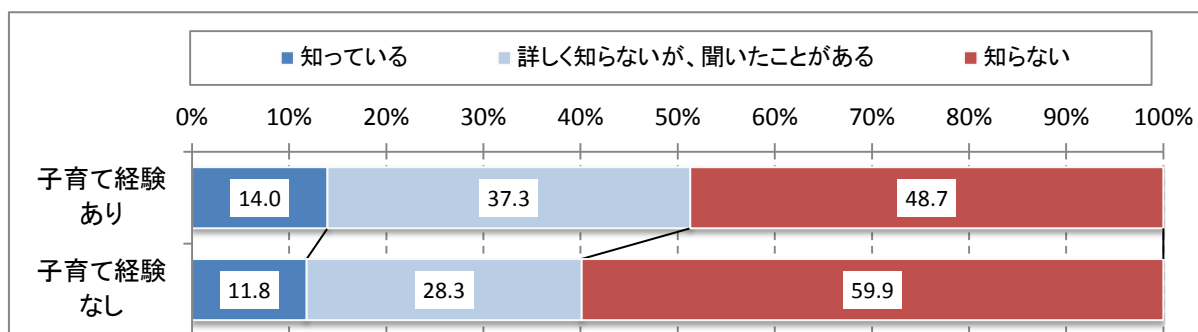
・男女とも年代の高い層ほど“認知度”が高く、男性60代以上は54.0%、女性60代以上では58.4%が“認知している”と回答している。

・男性20～30代、女性20代の若い層では“認知度”が4割を下回っており、低くなっている。



【子育ての経験別】

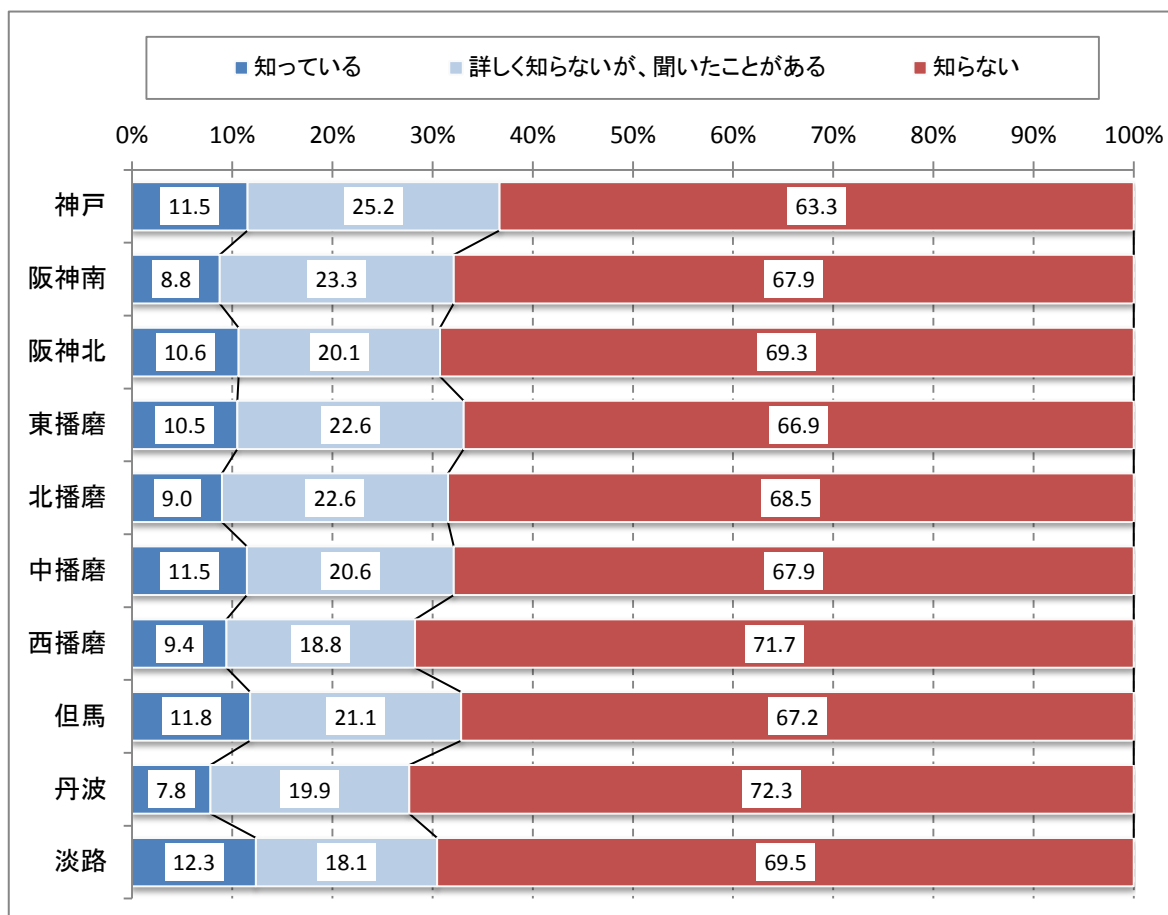
・養子縁組の必要性について、子育て経験がある人の“認知度”は51.3%と半数以上となっており、子育て経験がない人(40.1%)と比べて10ポイント程度高くなっている。



④ こども家庭センターから委託を受けて子どもを養育する里親には、児童福祉法に基づき委託費が支給される

【地域別】

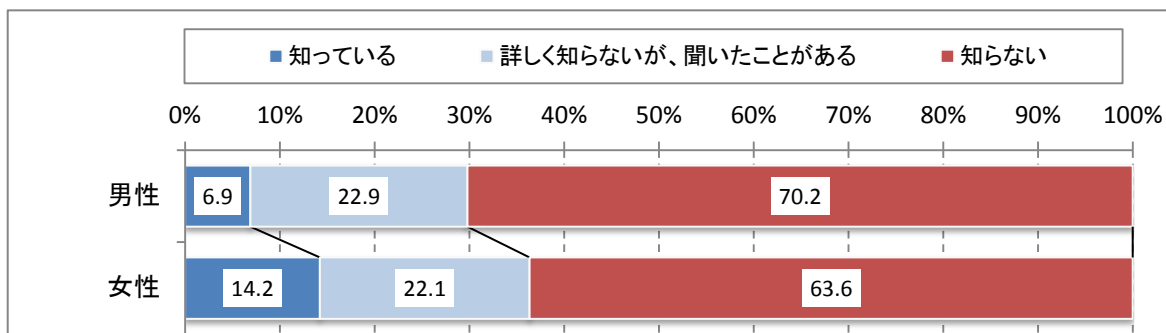
・委託費の支給についての“認知度”は、どの地域でも3割前後となっており、地域間で大きな差はみられない。



【性別】

・委託費の支給について、女性の“認知度”が36.3%となっており、男性(29.8%)と比べてやや高くなっている。

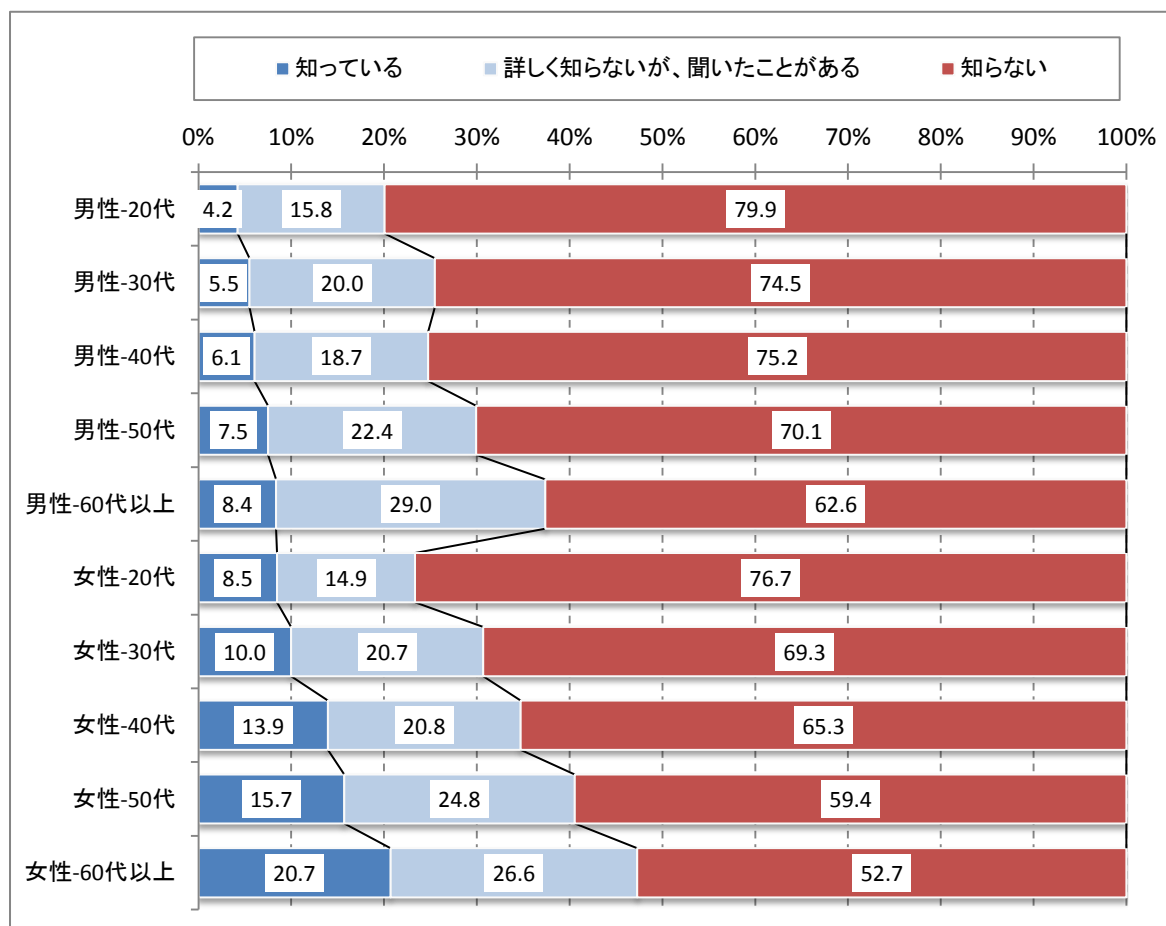
・特に、女性は「知っている」が14.2%となっており、男性(6.9%)と比べて高くなっている。



【性・年代別】

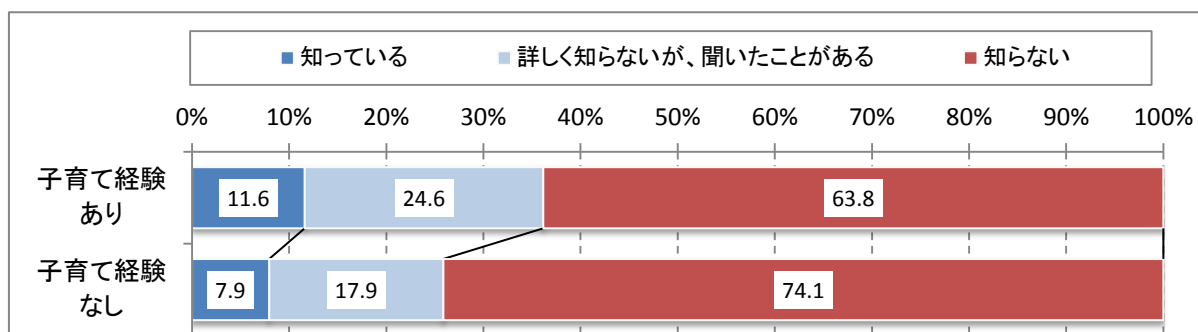
・男女とも年代の高い層ほど“認知度”が高く、男性60代以上で37.4%と4割近く、女性60代以上では47.3%と半数近くが“認知している”と回答している。

・一方、男女とも20代の“認知度”は2割程度にとどまっている。



【子育ての経験別】

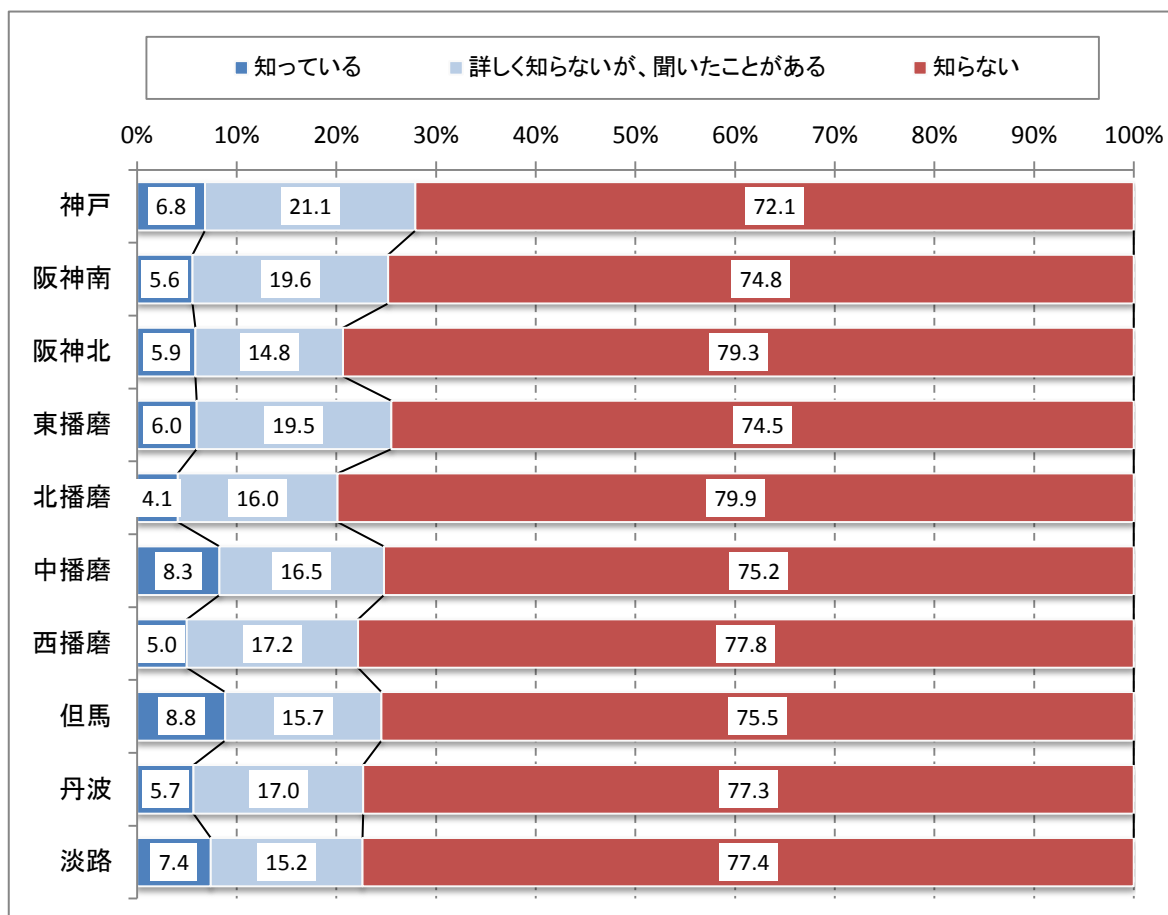
・委託費の支給について、子育て経験がある人の“認知度”は36.2%となっており、子育て経験がない人(25.8%)と比べて10ポイント程度高くなっている。



⑤ 子どもを里親に委託する手続きは、こども家庭センターが行う

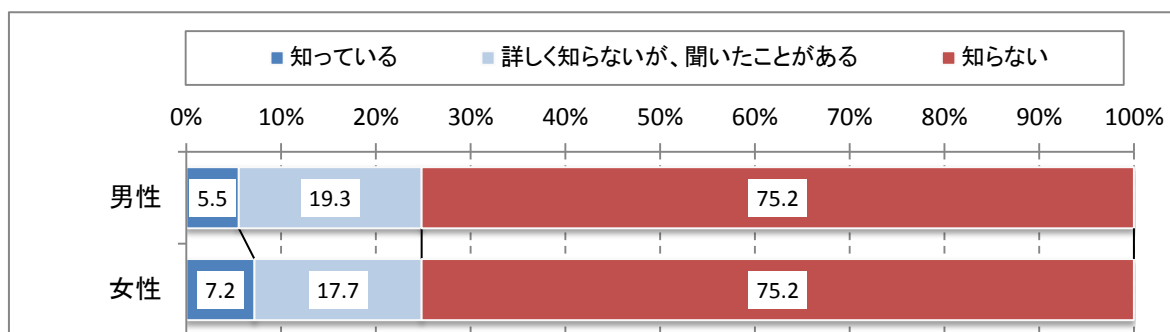
【地域別】

・委託の手続きについての“認知度”は、どの地域でも2割台となっており、地域間で大きな差はみられない。



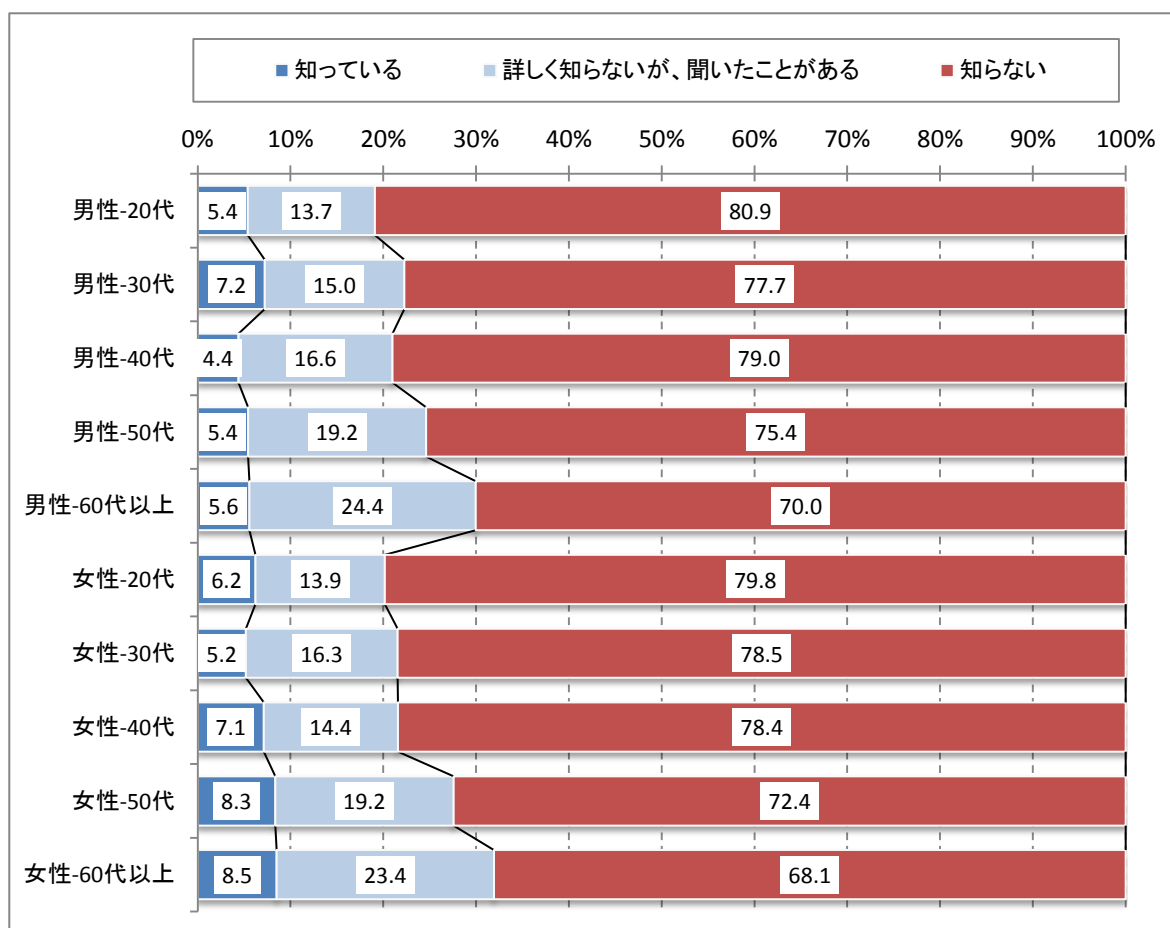
【性別】

・委託の手続きについて、男性(24.8%)と女性(24.9%)の“認知度”にほとんど差はみられない。



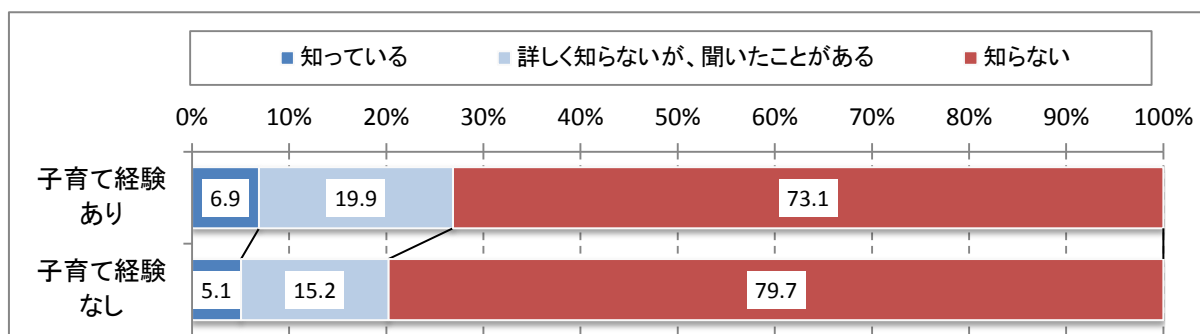
【性・年代別】

- ・男女とも60代以上の“認知度”が3割以上となっており、年代の高い層で高くなっている。
- ・「知っている」はどの性・年代別でもあまり変わらないが、「詳しくは知らないが、聞いたことがある」は男女とも60代以上で2割を超えており、多くなっている。
- ・一方、男女とも40代以下では“認知度”が2割程度となっており、やや低くなっている。



【子育ての経験別】

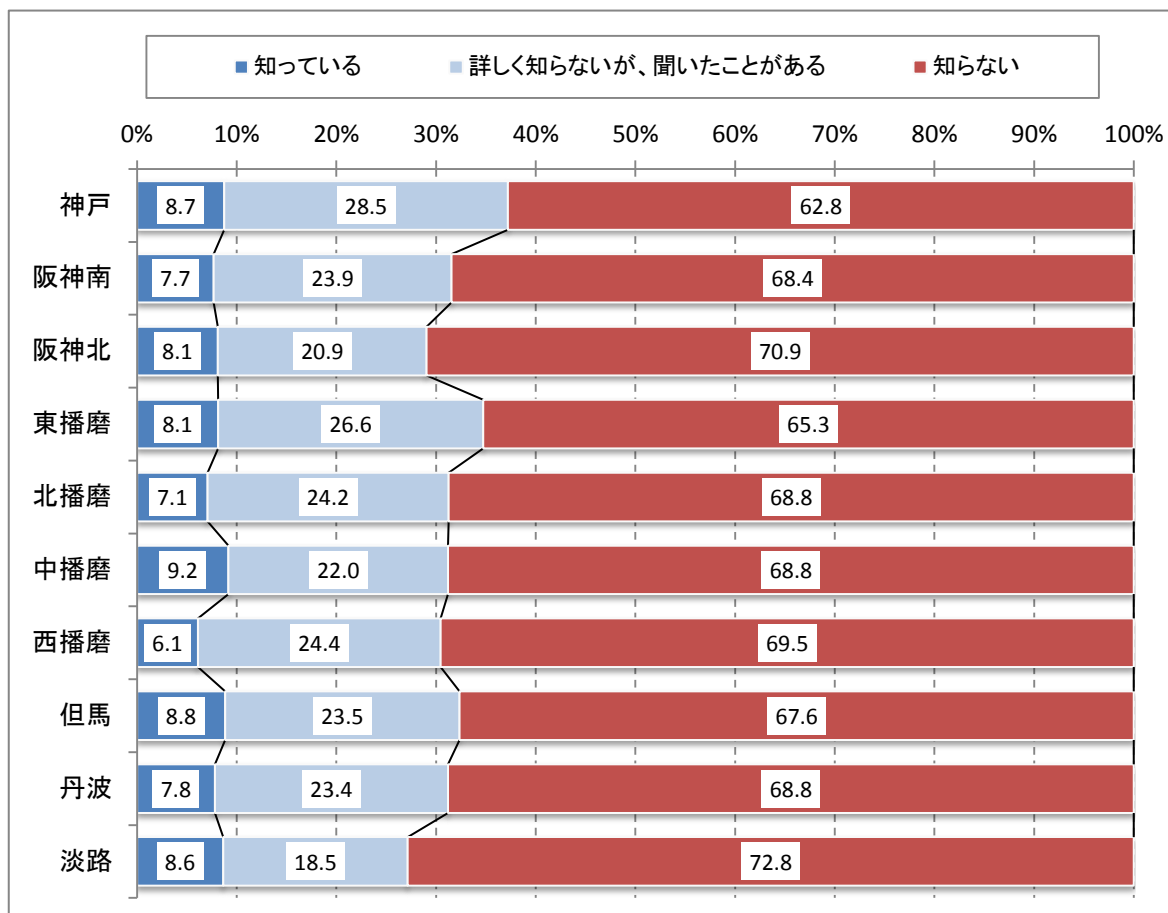
・委託の手続きについて、子育て経験がある人の“認知度”は26.8%となっており、子育て経験がない人(20.3%)と比べてやや高くなっている。



- ⑥ 現在、県内には約300組の里親が登録されているが、家庭的な環境で子どもを育てることが求められているため、今後は、里親登録者を増やしていく必要がある

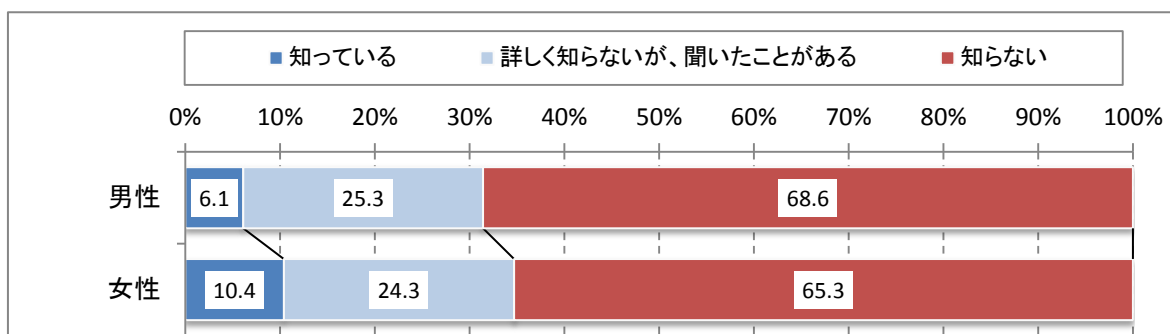
【地域別】

・登録者数拡大の必要性について、どの地域も“認知度”は3割前後となっている中、神戸では“認知度”（37.2%）が約4割となっており、最も多い。



【性別】

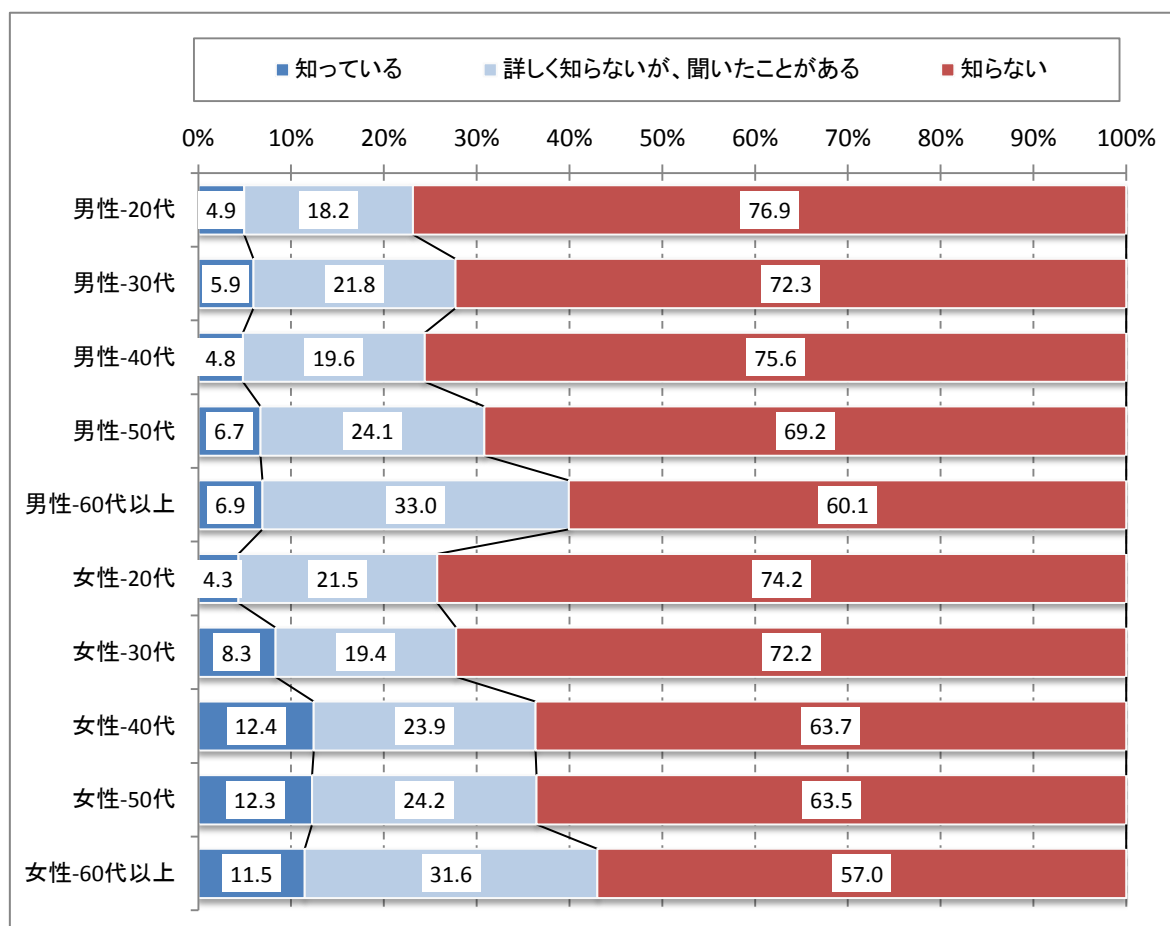
・登録者数拡大の必要性について、男性(31.4%)と女性(34.7%)の“認知度”に大きな差はみられないが、「知っている」は女性(10.4%)の方が多くなっている。



【性・年代別】

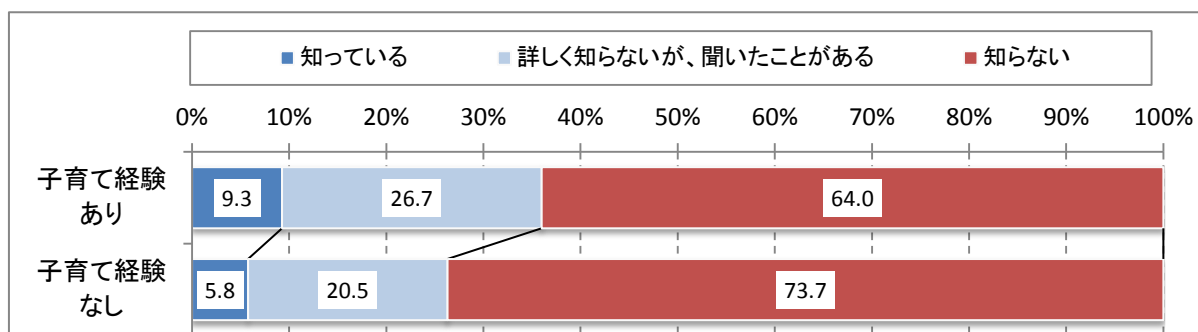
・年代の高い層ほど“認知度”が高くなる傾向があり、男女とも60代以上は“認知度”が4割前後と高くなっている。

・一方、男性40代以下、女性30代以下は“認知度”が3割を下回っており、比較的低くなっている。



【子育ての経験別】

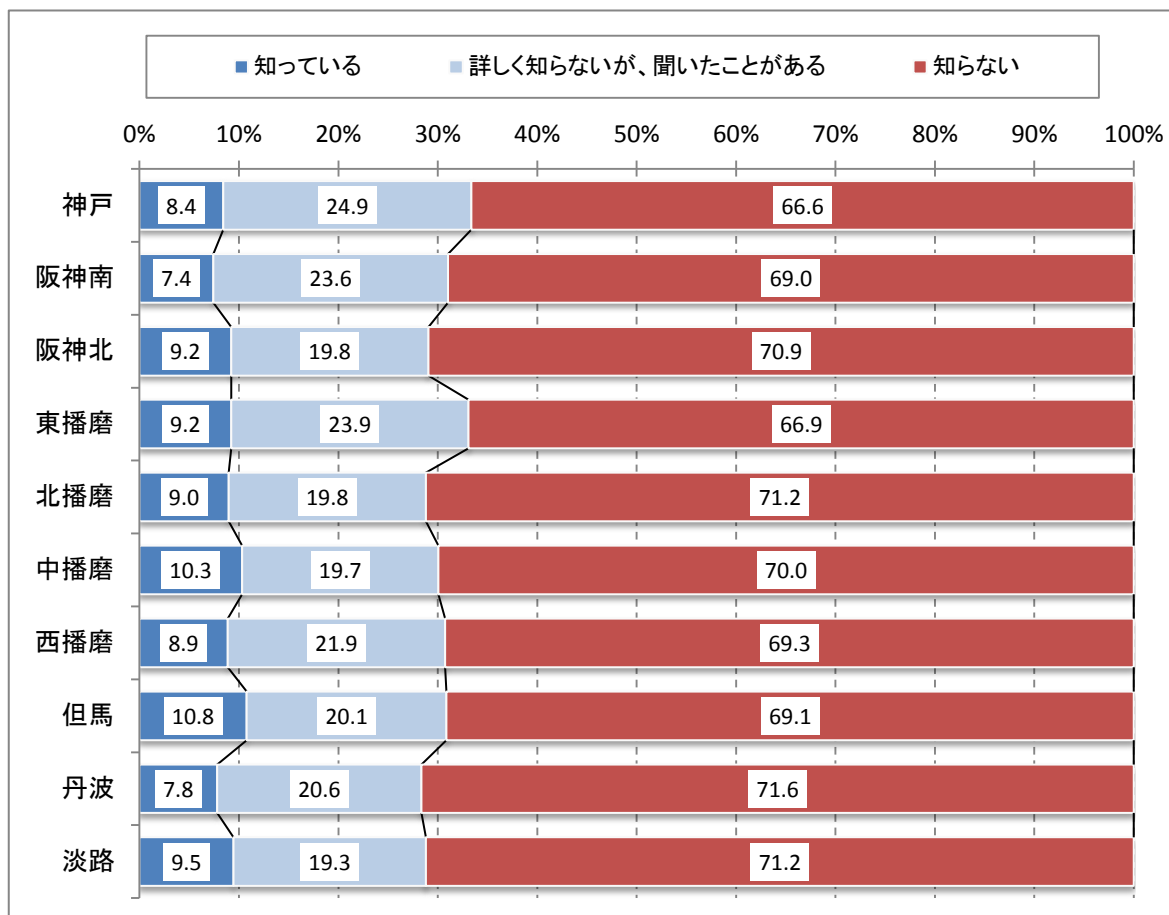
・登録者数拡大の必要性について、子育て経験がある人の“認知度”は36.0%となっており、子育て経験がない人(26.3%)と比べて10ポイント程度高くなっている。



⑦ 里親家庭も、他の子育て家庭と同様、保育所や市町の各種子育て支援サービスを利用することができる

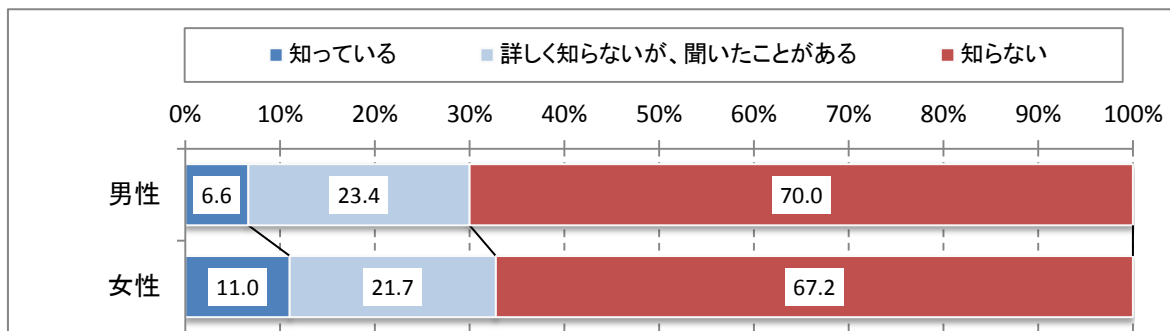
【地域別】

・子育て支援サービスの利用については、どの地域も「知っている」が概ね1割程度、「詳しく知らないが、聞いたことがある」が2割程度、あわせて3割程度の“認知度”となっており、地域間で大きな差はみられない。



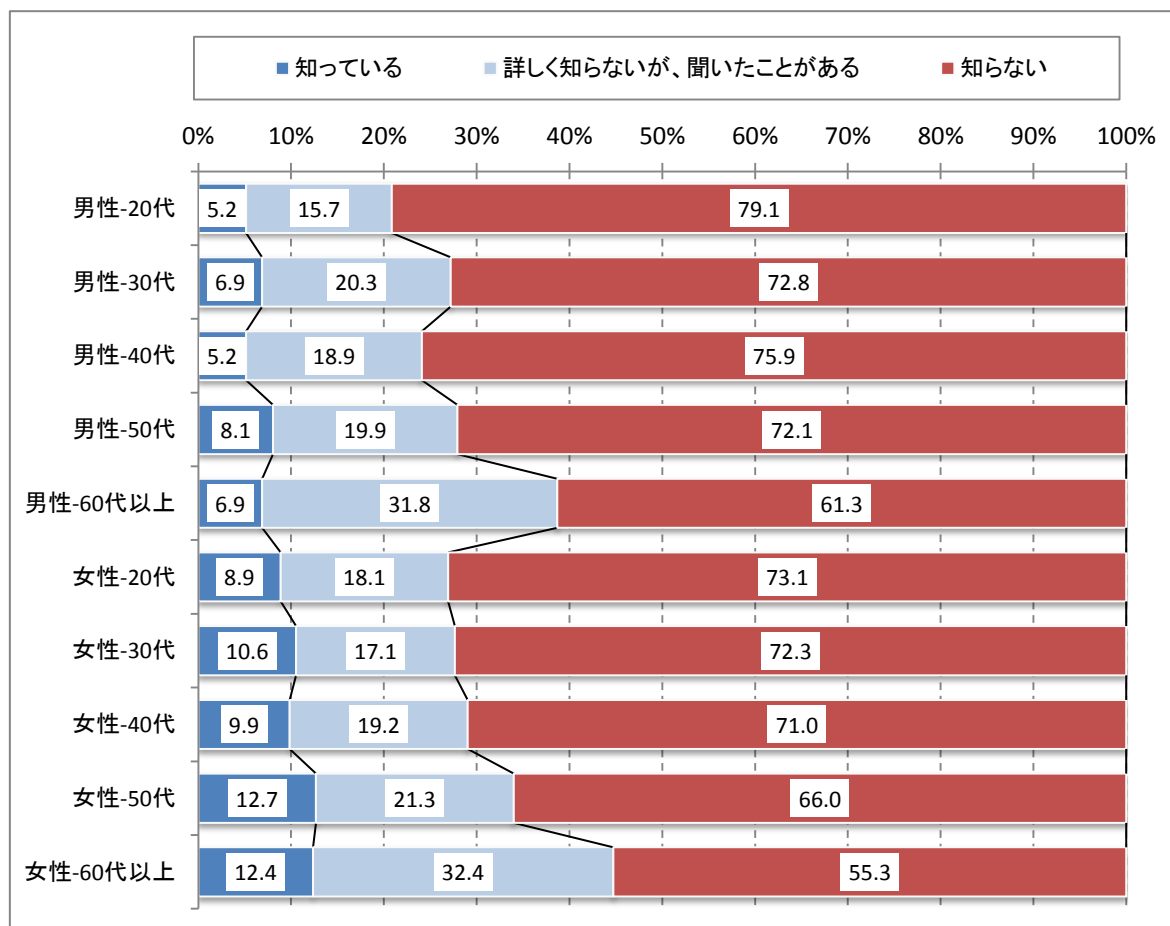
【性別】

・子育て支援サービスの利用については、男性(30.0%)と女性(32.7%)の“認知度”に大きな差はみられないが、「知っている」の割合は女性(11.0%)の方がやや高くなっている。



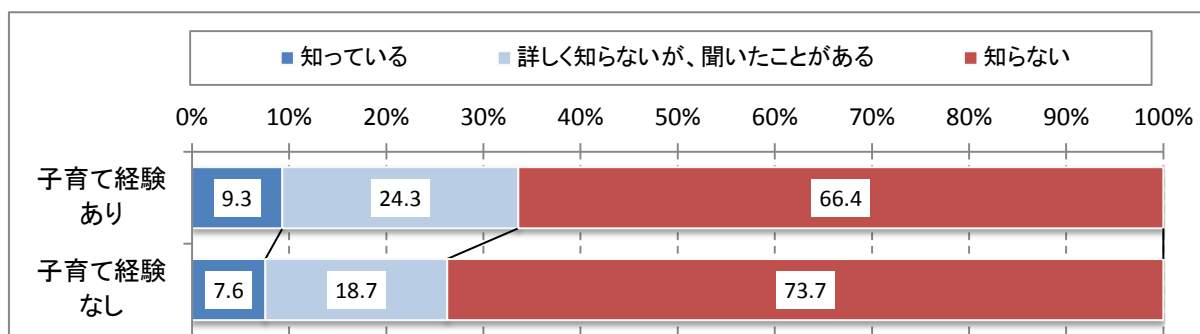
【性・年代別】

・年代の高い層ほど“認知度”が高くなる傾向がある。
・“認知度”が最も高いのは女性60代以上の44.8%となっており、最も低いのは男性20代の20.9%であった。



【子育ての経験別】

・子育て支援サービスの利用について、子育て経験がある人の“認知度”は33.6%となっており、子育て経験がない人(26.3%)と比べてやや高くなっている。



6.児童虐待防止策について

(1)児童虐待から子どもを守るために必要な行政の取り組み

問23 児童虐待から子どもを守るため、兵庫県や市町は、今後どのような取り組みを行う必要があると考えますか？

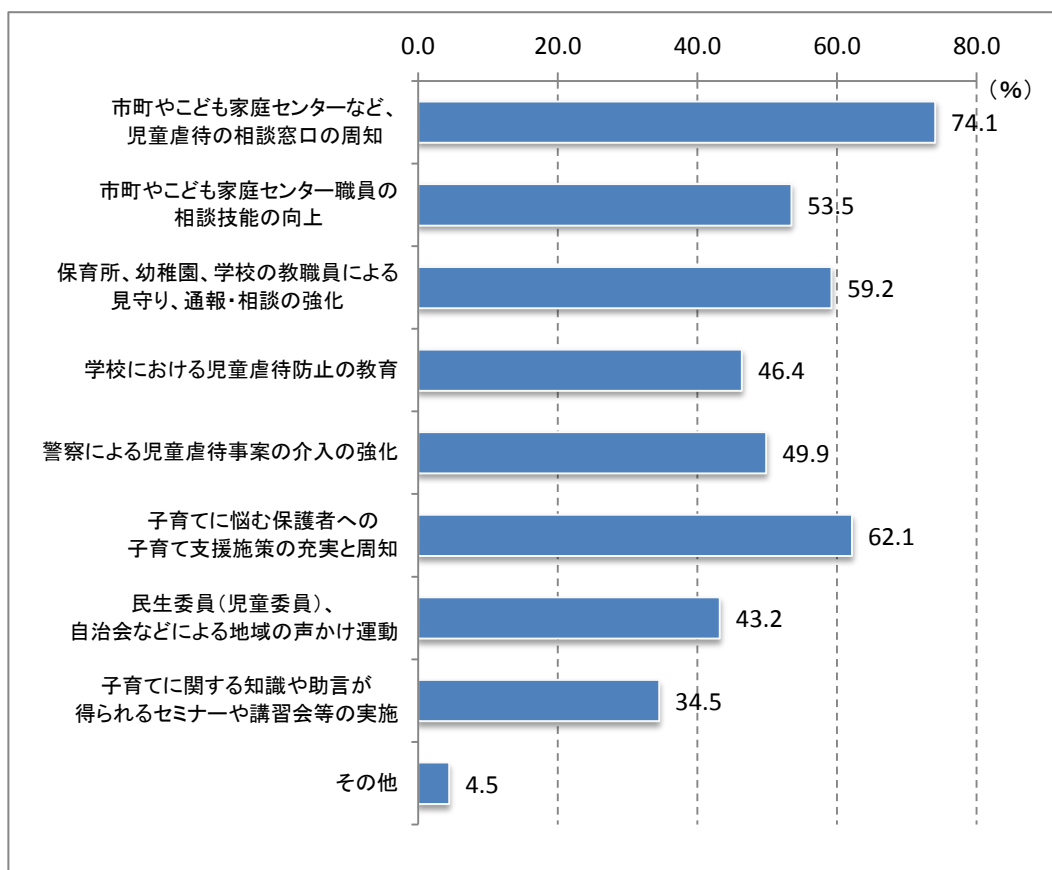
次の中からあてはまることをすべて選んでください。【複数回答可】

1. 市町やこども家庭センターなど、児童虐待の相談窓口の周知
2. 市町やこども家庭センター職員の相談技能の向上
3. 保育所、幼稚園、学校の教職員による見守り、通報・相談の強化
4. 学校における児童虐待防止の教育
5. 警察による児童虐待事案の介入の強化
6. 子育てに悩む保護者への子育て支援施策の充実と周知
7. 民生委員(児童委員)、自治会などによる地域の声かけ運動
8. 子育てに関する知識や助言が得られるセミナーや講習会等の実施
9. その他

【全 県】

・今後、児童虐待から子どもを守るために必要な行政の取り組みは何かを聞いたところ、「市町やこども家庭センターなど、児童虐待の相談窓口の周知」が74.1%と最も多く、次いで「子育てに悩む保護者への子育て支援施策の充実と周知」が62.1%と続いて多くになっており、現存する機関や施策の周知を徹底することが必要だと訴える声が多くなっている。

・以下、「保育所、幼稚園、学校の教職員による見守り、通報・相談の強化」(59.2%)、「市町やこども家庭センター職員の相談技能の向上」(53.5%)といった相談を受ける側の体制強化やスキルアップ、「警察による児童虐待事案の介入の強化」(49.9%)なども上位にあげられている。



【地域別】

- ・すべての地域で最も多くなっているのが「市町やこども家庭センターなど、児童虐待の相談窓口の周知」で、どの地域も7割を超えているが、但馬だけは68.5%と7割を下回っている。
- ・次いで、多くの地域で「子育てに悩む保護者への子育て支援施策の充実と周知」が2番目に多くなっているが、神戸と西播磨では「保育所、幼稚園、学校の教職員による見守り、通報・相談の強化」が2番目に多くなっている。
- ・阪神南では「子育てに関する知識や助言が得られるセミナーや講習会等の実施」(40.1%)が唯一4割以上となっており、比較的多くなっている。

(複数回答・%)

	市町やこども家庭センターなど、児童虐待の相談窓口の周知	市町やこども家庭センター職員の相談技術の向上	保育所、幼稚園、学校の教職員の見守り、通報・相談の強化	学校における児童虐待防止の教育	警察による児童虐待事案の介入の強化	子育てに悩む保護者への支援施策の充実と周知	民生委員（児童委員）、自治会などによる地域の声かけ運動	子育てに関するセミナーや講習会等の実施	その他
神戸	76.1	54.4	63.1	48.8	53.3	62.7	44.8	33.7	4.8
阪神南	74.8	55.4	59.9	46.9	49.9	63.4	43.5	40.1	6.1
阪神北	74.0	52.5	53.9	45.8	49.2	63.1	39.7	34.4	4.2
東播磨	72.9	54.4	59.3	45.0	46.5	61.1	45.6	33.1	3.4
北播磨	74.7	53.8	61.1	45.9	53.8	66.8	47.0	37.0	2.2
中播磨	72.5	50.9	57.8	47.2	49.5	58.7	37.4	28.7	3.4
西播磨	70.6	54.0	58.4	46.0	48.2	56.2	47.4	34.3	2.5
但馬	68.6	44.6	53.4	34.3	40.7	62.3	42.6	32.8	6.9
丹波	70.9	48.2	48.2	41.8	48.2	62.4	42.6	37.6	5.7
淡路	74.1	53.9	56.8	42.8	43.6	62.6	40.3	30.9	4.5

【性別／性・年代別】

・性別でみると、ほぼすべての項目で男性よりも女性の回答割合が多く、特に「子育てに悩む保護者への子育て支援施策の充実と周知」(68.6%)や「保育所、幼稚園、学校の教職員による見守り、通報・相談の強化」(65.8%)などで女性の意見が多くなっている。

・性・年代別にみると、「保育所、幼稚園、学校の教職員による見守り、通報・相談の強化」は女性の全年代で6割以上となっているのに対し、男性50代以下では半数以下となっており、比較的少なくなっている。

・男女とも年代の高い層ほど「市町やこども家庭センター職員の相談技能の向上」や「民生委員(児童委員)、自治会などによる地域の声かけの運動」と回答している人が多くなっている。

・一方、男女とも20代では「子育てに関する知識や助言が得られるセミナーや講習会等の実施」が比較的が多くなっている。

(複数回答・%)

	児童虐待の相談窓口の周知	市町やこども家庭センター職員の相談技能の向上	保育所、幼稚園、学校の教職員による見守り、通報・相談の強化	学校における児童虐待防止の教育	警察による児童虐待事案の介入の強化	子育てに悩む保護者への支援施策の充実と周知	民生委員(児童委員)による地域の声かけ運動	子育てに関する知識や講習会等の実施	その他
男性	72.5	49.0	52.9	46.3	50.7	56.0	40.7	30.8	5.1
女性	75.7	58.2	65.8	46.5	49.0	68.6	45.9	38.4	3.8
男性-20代	65.8	41.7	48.1	46.2	50.7	45.9	29.3	36.7	10.5
男性-30代	66.2	42.8	48.4	40.9	49.6	55.8	31.5	28.0	4.3
男性-40代	68.0	45.8	49.6	43.8	51.5	51.8	35.4	29.1	4.8
男性-50代	72.5	46.4	47.2	44.6	47.7	53.8	41.7	28.5	6.3
男性-60代以上	79.9	57.4	61.9	51.2	52.8	62.8	50.6	33.0	3.4
女性-20代	75.5	52.0	66.7	45.9	50.8	68.4	38.7	46.4	2.2
女性-30代	76.2	52.4	64.9	45.8	44.4	70.9	41.2	39.4	3.4
女性-40代	74.8	58.4	65.7	41.1	49.1	69.0	41.2	33.2	5.2
女性-50代	77.1	63.7	66.1	48.5	52.3	65.5	48.6	37.4	4.0
女性-60代以上	75.1	61.4	66.2	52.2	48.6	69.6	57.7	40.3	3.3

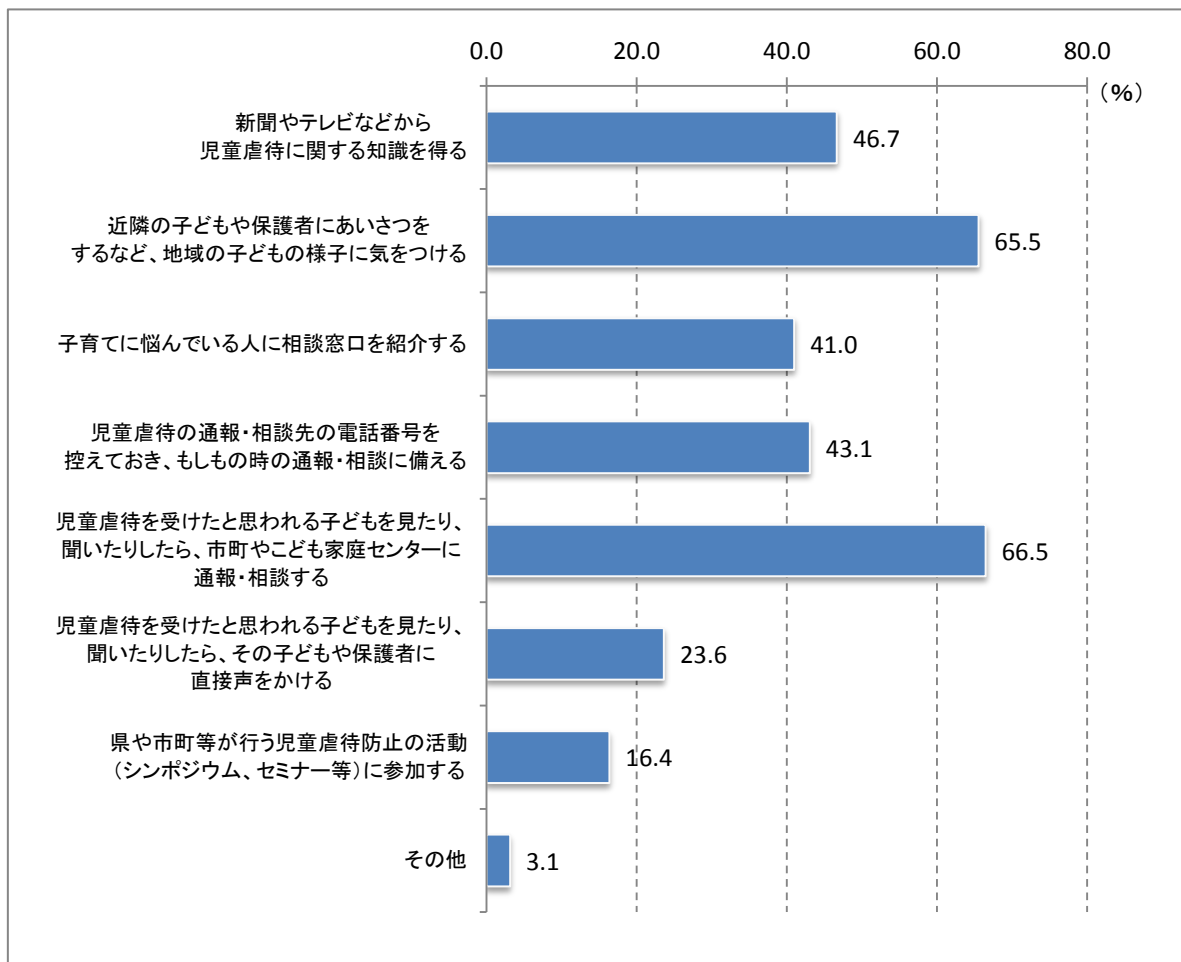
(2) 児童虐待から子どもを守るためにできること

問24 児童虐待から子どもを守るために、できると思うことは何ですか？
次の中からあてはまることをすべて選んでください。【複数回答可】

1. 新聞やテレビなどから児童虐待に関する知識を得る
2. 近隣の子どもや保護者にあいさつをするなど、地域の子どもの様子に気をつける
3. 子育てに悩んでいる人に相談窓口を紹介する
4. 児童虐待の通報・相談先の電話番号を控えておき、もしもの時の通報・相談に備える
5. 児童虐待を受けたと思われる子どもを見たり、聞いたりしたら、市町やこども家庭センターに通報・相談する
6. 児童虐待を受けたと思われる子どもを見たり、聞いたりしたら、その子どもや保護者に直接声をかける
7. 県や市町等が行う児童虐待防止の活動(シンポジウム、セミナー等)に参加する
8. その他

【全 県】

・児童虐待から子どもを守るためにできると思うことを聞いたところ、「児童虐待を受けたと思われる子どもを見たり、聞いたりしたら、市町やこども家庭センターに通報・相談する」(66.5%)と「近隣の子どもや保護者にあいさつをするなど、地域の子どもの様子に気をつける」(65.5%)が6割以上となっており、ほぼ並んで多くなっている。



【地域別】

・概ねどの地域も「近隣の子どもや保護者にあいさつをするなど、地域の子どもの様子に気をつける」と「児童虐待を受けたと思われる子どもを見たり、聞いたりしたら、市町やこども家庭センターに通報・相談する」が上位2つにあげられている。

・「近隣の子どもや保護者にあいさつをするなど、地域の子どもの様子に気をつける」が最も多いのは、東播磨(68.4%)、中播磨(65.8%)、西播磨(69.3%)、但馬(68.6%)、丹波(67.4%)。

・「児童虐待を受けたと思われる子どもを見たり、聞いたりしたら、市町やこども家庭センターに通報・相談する」は神戸(71.1%)で7割を超えているのをはじめとして、阪神南(63.9%)、阪神北(66.2%)、北播磨(69.0%)、淡路(65.8%)で最も多い。

・丹波では「児童虐待の通報・相談先の電話番号を控えておき、もしもの時の通報・相談に備える」が47.5%と半数近くになっており、比較的多くなっている。

(複数回答・%)

	児童虐待に関する知識を得る	近隣の子どもや保護者にあいさつをする	子育てに悩んでいる人に相談窓口を紹介する	児童虐待のおき、通報・相談の時の電話番号を控えておく	児童虐待を受けたと思われる子どもを見たり、聞いたりしたら、市町やこども家庭センターに通報・相談する	児童虐待に直接声をかける	児童虐待を受けたと思われる子どもを参加する	県や市町等が行う児童虐待防止の活動	その他
神戸	49.9	66.3	39.4	44.9	71.1	23.9	16.5	3.3	
阪神南	43.2	62.6	44.8	45.4	63.9	23.9	18.6	4.8	
阪神北	46.4	62.3	37.4	43.0	66.2	25.1	15.9	2.2	
東播磨	45.0	68.4	41.2	41.0	64.7	20.4	16.1	2.4	
北播磨	47.6	67.1	44.0	41.8	69.0	27.4	19.6	3.8	
中播磨	48.2	65.8	38.8	41.5	63.3	22.7	11.0	2.5	
西播磨	47.4	69.3	44.0	36.8	63.2	22.7	18.6	1.9	
但馬	40.7	68.6	41.7	40.2	64.7	21.6	15.2	2.0	
丹波	46.1	67.4	44.7	47.5	60.3	24.8	18.4	2.8	
淡路	45.3	63.8	40.3	37.9	65.8	27.6	14.0	3.3	

